

76  
743

T H E  
C I T I Z E N  
R E A D E R

日本大島國千代譯

スミ  
ン  
リ  
ー  
ダ  
ー  
直  
譯  
言  
釋

東京書林金刺發兌

特27  
476

THE  
READER

日本大島國千代譯

リダ  
直譯  
言釋

東京書林金刺發兌

公民讀本

日本 大嶋國千代

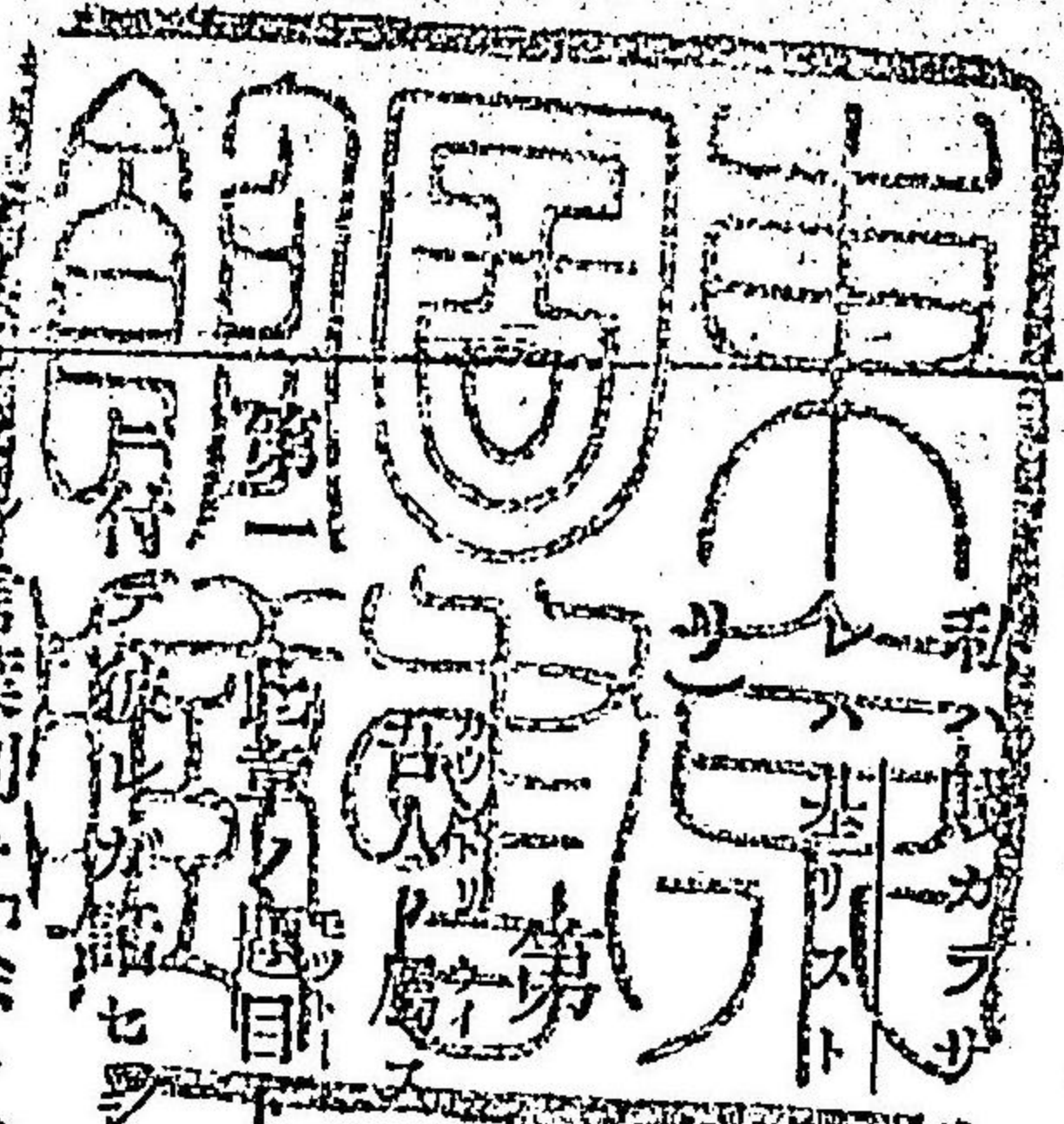
第一章

何が善良ナル公民ニ依テ意味サル、カ(註) ソモ善良ナル公民トハ如何ナル意ツヤ)

都府ノ公民デアル(註) 余ハ立派ナ都府ノ公民ナリトノ意味ニシテ是  
使徒ポールノ云ヒシ言葉ニテ其意ハ本國ヲ愛スルノ精神ヲ顯ハスナ

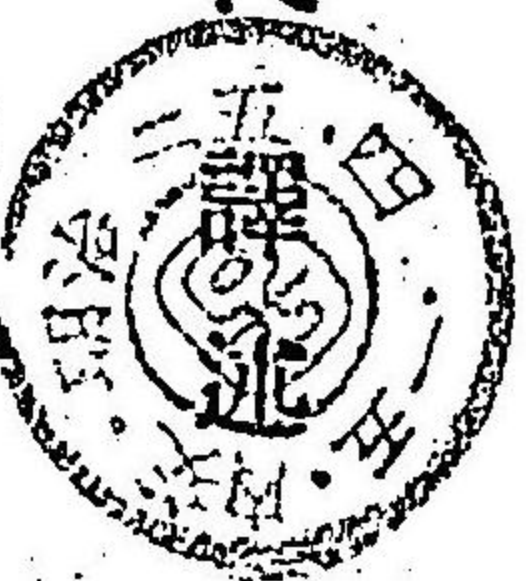
節

ル國(註) 我が本國)



都府ハ小亞西亞ニ於テノ太一サスデアリシ(註) 本章ノ題目ニ掲ゲ出  
何處ヲ指スマト云フニ小亞西亞ノ太一サスヲ指スナリ)

第二 彼レガ發言セシ處ノ言葉ハ實ニ吾々ノ各々ノ一ツニ依テ操リ反サル、而テ若シモ  
聖メントポールガ太一サスノ公民デアルニ付テ自負シテアリシヲハ英國ニ於テ或ハ大



英帝國ノアル部位ニ於テ住ム處ノ吾々ハ實ニ猶ホ又吾人ハ賤カラザル國ノ公民デアルトヲ高慢ヲ以テ云ヒ能フ (註 英國并ニ大英帝國トノ區別ハ英國ト云ハ英吉利西本國ノミヲ指シ大英帝國ト云ヘバ世界中何レニテモ英國ノ治下ニアル總テノ國ヲ指スナリ例ハ印度ハ大英帝國ノ一部分ナリ)

第三 此書物ノ初メニ於テ眺メヨ而テ何が汝が其レノ各々ノ部分ニ越ヘテ點付ケラレテ見ル處ノ總テ其等ノ赤キ土地ニ依テ意味サル、カラ考ヘヨ

第四 彼等ハ左様ニ記サレシ世界ノ各々ノ部分ニ於テ生活シ而テ働ク所ノ吾々ノ國人が其所ニアルトヲ意味スル其レハ各々ノ大陸而テ各々ノ氣候ニ於テ吾々が讀ム所ノ同シ英吉利西ノ經文ヲ讀ミ其人ハ吾々が喜ブ所ノセークスビヤミルトンバーンス等ノ同シ傑作ノ書物ヲ喜ブ所ノ男兒而テ婦人がアルトチ意味スル其人ハ吾々が眺メ願ル所ノ同シ歴史ニ迄後ロニ眺ムル所ノ其人ハ吾々ノ言語ヲ話ス所ノ其人ハ吾々ノ法律ヲ用エル所ノ而テ其人ハ吾々ノ危害ヲ分ケ前ス可ク而テ吾々ノ幸運ニ於テ喜ブ可ク用意シテアル所ノ男而テ女がアルトチ意味スル (註 全文ハ則チ彼ノ地圖中赤點ノアル土地ニハ吾人本國ノ英人ト利害得失ヲ共ニスル所ノ英人ノ住スルチ意味スルナリ)

第五 恐ラクハ汝ノ或ル者ハ海ヲ横切テ朋友ヲ持ツ而テ其仕方ニ於テ汝ハ其處ニハ本國ニ

於テ吾々ノ如ク世計ヲ營ム處ノ英國カラ遙カ彼方ニ英人ガアル處ヲ了解スベク學ビ能フヲ而テ汝等ノ總テハ大ナル國民其レニ迄汝ガ屬スル處ノ大國而テ其レニ付テ私ハ汝ガ總テ高慢シテアルチ望ム處ノ大ナル國ハ大英國而テ愛蘭土ノ王國チナス處ノ二ツノ小ナル島ヨリハヨリ大キク遙カヨリ大キクアル而テ其レハ其レガ何處デモ英吉利西ノ國語ガ英國ノ法律而テ英國ノ旗ノ下ニ住ム處ノ人ニ依テ話サル、處ノ何處ニモ廣ル事ヲ記憶スベク屬スル (註 全文ノ意味ハ何人ト雖モ海外ニ友人チ有スルチ以テ見レバ即チ本國ヨリ遙カ距リタル所ニ英人ノ住スルチ知ルナリ故ニ汝等英人ハ英愛ノ二小島ヨリ遙カ大ナル國ニシテ苟モ英法チ用井英國ノ旗ノ下ニ住シ英語ヲ用ユル所ハ皆チ大英帝國ノ部分タルヲ知ラズンバアルベカラズ)

何故吾人ハ吾々ノ國ニ付テ自負シテアルカ

第六 私ハ私ガ汝等ガ總テ汝ノ國ニ付テ自負シテアリシヲ希望セシト云シ乍然私ハ汝が私ガ唯其レが大キクアリシ故ニ其レニ付テ汝ガ高慢シテアルベク願シト考ヘ爲サヌト信用 スル其レハ大ナル誤謬デアロ 其レハ國ハ其レが大ナル多クノ平方里ヲ蓋フ故ニ尊敬サル可クアリシト云フ可ク如ク人ハ單ニ彼が大ナル一ツデアリシ故ニ善キ人デアリシト云フ可ク頂度左様ニ同シ意味デアロ 汝ハ人ヲ高貴ニ而テ尊敬スベ

クナス所ノモノハ何ンデモ彼レガ爲ス處ノモツデアアル而テ何ンデモ彼レガ如ク見ユル處ノモノデアラスコトヲ知ル(注 全文ノ意味ハ吾人ハ汝等ニ希望スラク汝等ハ汝ノ國ヲ自負セ  
ンコトヲ以テセリト雖モ汝ハ單ニ己レ國ノ廣大ナルヲ以テ高慢スルニ足レリト爲サ、ルハ固  
ク信シテ疑ワザルナリ若シヤ單ニ自國ハ廣大ナルヲ以テ自負シ可ナリト思ハン人ノアラバ  
是レ大ナル謬見ニシテ例令ハ自國ノ廣大ナルヲ以テ自國ハ高慢スルニ足レリト云バ人ハ幹  
軀大ナルヲ以テ善人ナリト云フニ異ナラズ苟モ人ヲシテ尊敬ヲ受ケシムルモノハ其人ノ行  
爲ニアツテ其人ノ外面如何ニ關セザルナリ

第七 最モ弱キ而シテ最モ小キ人が猶最モ尊キ而テ最モ用要デアツタ 聖イントポール彼  
 レ自ラ其人ノ言葉ハ頂度令吾々ガ讀ム處ノ聖イントポールハ大ナル強壯ヲ持タヌ處ノ人デ  
 アリシ彼レハ實ニ彼レガ肉体ノ外貌ニ於テ弱ク而テ話シニ於テ輕蔑サルベクアリシ事ヲ吾  
 々ニ告ケル 其ハ彼レノ權力ヲ彼レニ與フル處ノモノハ彼レノ精神ト而テ思考力デアアル而  
 テ左様ニ英國或ハ或ル他ノ國ヲ以テ其レガアル ソレハ若シモソレガ彼等自身ニ於テ尊敬  
 アリ而テ價值アル處ノモノヲ爲スナラバ誠ニ只大ニ而テ尊敬スベクアルデアロー若モ英國  
 ガ不正ヲ爲シ而テ不正ニ他ノモノヲ害スベクソレノ權力ヲ用キ爲スナラバ然ル時ニ如何ニ  
 大キク而テ強ク國ガアリ能フトハ雖モ何様ニ戰爭ニ於テ勝利多クアルトモ如何ニ平和ニ於

テ榮ルモソコニソレニ付テ高慢シテアルベク道理ガアラヌデアロー(註 全文ノ意味ハ吾  
ノ如ク人ト國トヲ譬テ云シモノニシテ人ハ如何ニ柔弱ナルモ如何ニ幹軀ノ小ナルモ有用ノ  
人ナリ貴重ノ人タルコトヲ得ルモノニシテ吾人ガ本章ノ題目トシテ出セシ言葉ヲ語リシ聖イ  
ントポールハ敢テカラノ強キ人ト云フニハ非ズポール自ラ謂ヘルアリ「己レハ外貌柔弱ニ  
シテ不辨ナリ」トソモ吾人ニ權力ヲ得セシムルモノハ其精神并ニ思考力ニアルガ如ク英國  
或ハ他ノ國トテモ其如クニシテ貴重スベキ功德ノ行爲ヲナスニ於テハ自然貴ヒ尊フ可キ國  
タルヲ得ルモ若シ己レノ權力ヲ用キテ他國ヲ害センカ其時ニハタトヒ何程ニ大國ナルモ何  
程ニ強國ナルモ何程ニ戰爭ニ勝利ヲ得ルモ何程ニ大平無事ニ榮ヘ行クモ少シモ自負スルニ  
足ラザルナリ)

英國ハ何レデモ吾人ガ其レヲ爲ス處ノモノデアアル

第八 乍然私ハ英吉利西ガ公正ヲ爲シ英吉利西ガ不正ヲ爲スコトニ付テ汝ニ迄話シツ、アツ  
 タ而テ私ハソレハ汝ガ何ンデモ私が英國ニ依テ意味スル處ノモノヲ而テ如何ニソレハ私ハ  
 私が男或ハ女ニ付テ話ツ、アリシカノ如ク大ナル國ニ付テ話シ能フデアアルカチ私ニ問フ  
 デアロー時デアルト考ヘル(註 全文ノ意味ハ是迄余ハ英國ヲ人ノ如ク語り來リシガ今ヤ  
汝等ハ大國ヲ一個人ノ如ク語り來リシハ何ノ爲ナルヤヲ問フベキ時ナラン故ニ余ハ其理由

ヲ演ントス)

第九 吾々ハ一國ガ公正而テ不正ヲ爲スニ付テ話ス時ニ吾々ハソレニ於テ住ム所ノ而テ如何ニ其ガ支配サル、カヲ決定スル所ノ人民ガ善キ方法或ハ惡キ方法ヲ撰ンダヲ意味スル 然ル時ニ英國ヲシテ公正或ハ不正ヲ爲サシムハ誰レデソレガアルカ ソレハ其レヲシテ付テ高慢サル可ク或ハ付テ耻ヲアル可ク爲スハ誰デアルカ 瞬間汝自身ニ向テ考ヘヨ而テ汝ハ其ハ汝ト而テ私而テ事柄ヲ決定スル所ノ國ヲ支配スルニ於テアル部分ヲ取ル所ノ吾々ノ總テアルヲ見ル 而テ大人デアアル可ク生長スル所ノ汝ノ總テハ投票權ヲ持ツデアロー而テ汝ガ實地ニ而テ誠ニ國ヲ支配ス可ク扶ケルデアロー事程左様ニ國會ニ迄議員ヲ送ルベク扶ケルデアロー(註 全文ノ意味ハ前ヲ受テソモ吾人ガ一國ガ公正不正ヲ爲ス云々ト云フ時ハ是レ其國內ニ住シ其國家ヲ治ムルニ當テ是非ノ方法ヲ應用スルニ當リ是ナル方法ヲ撰ベバ其國榮ヘ非ナル方法ヲ用ユレバ其國蕪メヲ受クルヲ以テソモ何人ガ國家ヲ蕪シメ何人ガ其國ノ譽レヲ舉グルヤ何人ガ英國ヲシテ公正ヲ爲サシムルヤ何人ガ不正ヲ爲サシムルヤノ間タル少シノ思考ヲ回ラセバ是レ其ノ國ノ事務ヲ取捨スル者ハ諸君方ヤ我等デアロハ一目瞭然タルコニシテ又諸君方ノ生長シテ一個ノ公民ナル資格ヲ備フル時ハ撰舉權ヲ有シテ公明正大ニ國家ヲ治メンガ爲メニ議會ニ議員ヲ出スハ是レ則チ實地真正ニ我英

國ヲ治ムルニカララ盡シ居ルヲ忘ルベカラズ)

第十 乍然國會議員ニ向テ投票ヲ與ヘルコトハドーシテモ方法其レニ於テ汝ガ區別ヲ爲ス可ク適當シテアルデアロー唯ノ方法デアラヌ 又ハ國ヲ助ケ或ハ害スル所ノモノハ其レハ唯ガ男子デアラヌ 婦人ハ男子ノ如ク英國ヲシテ大ニ而テ幸福ニ爲スニ於テ働ク可ク彼レガ屬スル部分ニ付テ考ヘル可ク頂度左様多ク余儀ナクサレテアル 若シモ彼等ガ其レヲ爲スコトニ付テ氣付ケルナラバ其處ニハ仕方其レニ於テ彼等ガ働ク可ク始メル處ノ仕方ノ澤山ガ當ニアルデアロー(註 乍去國會議員ニ選舉スルノミヲ以テ國家ニ義務ヲ盡シ終リ其國ノ名聲ヲ上ルニ足レリトスルハ非ナリ且ツ又國家ニ義務ヲ盡スハ敢テ男子ニ限ラズ女子モ男子ノ如ク其國ヲ繁榮幸福ニ至スニカララ用非ズンバアルベカラズ而シテ女子ニシテ心ヲ其處ニ用非ルニ於テハ已レノ爲スベキ事柄ハ何程モアルナリ)

第十一 汝ハ今其レハ其レガ國ニ住ム處ノ吾々ガ實際其レヲシテ大キク爲スベク而テ其レニ付テ吾々而テ吾々ノ後ニ來ル處ノ其人等ガ高慢シテアルベク權利ヲ持ツ處ノアルモノヲ爲スニ非ンバ國ノ英名ニ付テ話スコト而テ付テ高慢サルベク言ヒ前スル事ハヨクアラヌコトヲ見ルデアロー(註 全文ノ意味ハ吾人英人ハ國家ノ名譽トナルベキ所業ヲナシ吾人并ニ後世子孫ヲシテ自負スルニ足ルベキ程ノ所爲ヲ爲スニ非ズンバ我が國ヲ自負シタリ又ハ大國

ナリト言ヒ前スルハ宜シカラザルヲ知ルナリ

第二節

如何ニヨキ公民トナル可キカ

第一 私ハ仕方其レニ於テ如何此國ガ支配サル、カヲ汝ニ説明スベク而テ如何ニ吾々ノ法律ガ作ラル、カ而テ何故ニ我々が彼等ニ從フデアローカヲ汝ニ示スベク最モヨキ仕方其レニ於テ汝ガ國ニ盡シ能フカ而テ如何ニ汝ガ實際善キ而テ要用ナル公民ト爲リ能フカヲ示シ出ス可ク此書物ニ於テ試ル可ク行キツ、アル (註 全文ノ意味ハ余ハ今ヤ此ノ書ニ於テ汝等ニソモ如何ナル方法ニテ國家ガ治ラル、ヤヲ説明シ如何ニ法律ガ制定サル、ヤソモ何故ニ吾人ハ法律ニ服從スルノ義務アルヤ如何ニスレバ國家ニ盡スニ當テ最モ宜シキヤ如何ニスレバ善良必用ナル公民タルヲ得ベキヤヲ指摘セントス)

第十一 其レハ最初ニ於テ如何ニ其處ニ善キ公民デアルト而テ一個人而一婦人デアルトノ間ニ區別ガアルカヲ了解スベク恐ラクハムツカシクアル 而テ一ツノ考ヘニ於テ其處ニハ區別ガアラヌハ其レガ誠デアル如何ナレバ惡キ男或ハ惡キ女ハ決シテ實地ヨキ公民デアラヌデアロー故ナリ 乍然私ハ是ヲ忘レヌ可ク汝ニ要スル間ニ私ハ國ガ賢ク而テ正シク友配サレ能フ而テ外國ニ依テ尊敬サレ而テ譽ヲ得ラレ能フノ爲メニ彼等自身ノ家族而テ朋支

カラ全ク離レテ他ノモノ、爲メニ人ガ爲ス可ク持ツ處ノ其等ノモノニ迄汝ノ特別ナ氣付ケテ與ヘル可ク汝ニ要スル (註 全文ノ意味ハ公民タルト一私人タルトノ間ニ區別ノアルハ一寸始メテ聞クト分リ兼ヌル事ニシテソハ成程一ツノ考ヘヨリ云ヘバ其區別アラザルヲ以テナリ其故ハ惡キ男女ハ決テヨキ公民メラザルヲ以テナリ乍去余ハ汝等ニ云ワソモ善良ナル公民ト云ヘバ國家ノ正シクヨク治メ外國ヨリ尊敬及ヒ譽レヲ得ンガ爲メニ吾人人民ハ自己ノ家族及ヒ朋友ノ利益ヲ捨テ苟モ國家ノ爲メトナラバ財産ハ愚カ生命トテモ之ヲ擲テ犠牲ニ供セズンバアルベカラザルヲ注意シテ忘ルベカラズ)

一個人ノ義務

第三 汝ハ若シモ私が例ヲ汝ニ與ヘルナラバ何ンデモ私が意味スル處ノモノヲ容易ニ見ルデアロー 汝或ハ私が魯ビンソン、クルソーノ如ク島ニ於テ唯獨リ住ミツ、アリシト假定セヨ 又トヒ吾々が全ク唯獨リアリシトハ唯唯吾々ハ猶ホ吾々が多端ナル都府ニ於テ住ミシカ如ク吾々が適當シテアリシダケソレダケ遙カ頂度左様ニ多ク公正ヲ試ルベク而テ爲ス可クノ餘義ナクサル、(註 全文ノ意味ハ今爰ニ一例ヲ出サバ吾人が謂フ處ノ主意容易ニ明瞭タラソハ假リニ汝等或ハ余ハ彼ノ漂流記ニアル魯ビンソン、クルソーノ如ク人烟アラザル孤島ニ住センカ其時ハ己レ一身ノ外ニハ其島ニ住セサルヲ以テ己レハ如何ナル行ヒテ

爲シテモ宜シト思フハ大ナル誤リニシテトヒ獨リト雖ト矢張り多忙ナル大都會ニ住スル  
如クカラノ及バンカギリハ公正ヲ爲サズンハアルベカラズ)

第四 吾々ハ動物ニ迫殘忍デアラヌデアロー吾々ハ吾々ノ心ガ爽清ニ而テ猶又健康デアリ  
能フ事程左様ニ健康ニ於テ吾々ノ體ヲ試ミ而テ保ツデアロー而テ汝ハソコニ猶又他ノ仕方  
其レニ於テ吾々が正或ハ不正ノ仕方ヲ撰ブノ機會ヲ見出スデアロー處ノ他ノ仕方ガアル  
ヲ慥メテアリ能フ 乍然若モ吾々がヨキ公民ノ義務ヲ爲ス可ク尋ネラレシナラハ私ハ實ニ  
吾々が如何ニソレニ付テ始ル可クカナ混雜シテアルデアロー(註全文ノ意味ハ彼ノ魯ビ  
ソノクルソノ如ク人烟アラザル荒レハテタル孤島ニ漂流シテアルモ猶ホ吾々人間ハ一個  
ノ義務ヲ固ク守テ動物ヲ殘忍ニ取扱ハズ且ツ已レノ神心ヲ清爽ナラシメンガ爲メニ常ニ身  
體ヲ丈夫ニナシ健康ヲ保全セザルベカラズ且ツ其他善惡ノ差別ヲ爲スノ機會ハ種々アルニ  
相違ナキナリ以上ハ一個人ノ義務ニ付テ云ヒタルナレトモ今若シ公民タルノ義務ヲ善ク盡  
サントスルニハ如何ナル方法ヲ以テセンヤノ問ヲ蒙ルニ於テハ吾人ハ如何ナル方法ヲ以テ  
センヤ一時躊躇シテ直チニ答フル能ザルナリ)

第五 而テ左様ニ猶又吾々自身ノ家族ニ於テ其處ニ仕方其レニ於テ吾々が我々ノ義務ヲ爲  
シ或ハ其レヲ爲スコトヲ避ケ能フ處ノ仕方ノ數百ガアル 乍然吾々が其レヲ爲スカ或ハ爲

サヌカハ如何ニ吾々が吾々ノ兩親ニ依テ教ヘラレタカ如何ニ多ク吾々が吾々ニ迄近クアル  
處ノ其レ等ヲ愛スルカ而テ甚ダ僅カ公民トシテ吾々ノ義務ヲ以テ爲ス可ク持ツデアローカ  
ニ屬スル(註 全文ノ意味ハ吾人一家族内ニテモ吾人ノ義務ヲ爲サズンハアル可カラザル  
處ノ方法實ニ多クアリテ其義務ヲ爲ス爲サヌハ是レ全ク吾ガ家庭ニ於テ兩親ノ教訓ニ依リ  
吾人ガ我近親ヲ愛シテ公民ノ義務ヲ爲サル等何レモ幼少ノ訓陶ニ從フモノナリ)

第六 乍然吾々が其處ニハ人民ノ數百萬ガ異ナリタル仕方ニ於テ而テ異リタル目的ニ向テ  
總テ働キツ、アル處ノ此ノ如ク大ナル而シテ多端ナル國ニ於テ住ム可ク來ル時ニ然ル時ニ  
吾々ハ直チニ何ンデモ私ガ義務ト呼ブデアロー處ノモノニ付テ考ヘルベク始ルデアロー而  
テ吾々ハ吾々が他人ニ迄害ヲ爲ヌデアロー又ハ吾々自身ヲ害ヌデアロー事程斯様ナル仕  
方ニ於テ働ク可ク持ツ時ニ然ル時ニ吾々ハ吾々自身ノ家ニ於テ繁榮ニ而テ幸福ニアルデア  
ローノミナラズ乍然其レハ總テ吾々同胞ノ國人富人モ貧人モ高貴ノ人モ下賤ノ者モ猶又幸  
福ニ而テ繁榮ニアリ能フ事程吾々ハ如何ニ吾々が左様ニ身ノ行ヒスルデアローカナ吾々ノ  
心中ニ定メネバナラヌ 如何ニ之レヲ爲ス可クカナ學ブベクカハ如何ニ善良ナル公民ト爲  
ル可クカナ學ブベクアル(註 全文ノ意味ハ上文ヲ受ケテ乍去我英國ノ如キ幾百萬ノ人民  
各々萬般ノ目的ニ於テ汲々トシテ多忙ナル國ニ住シ他人ニ不利ヲ加ヘヌ又已レモ害ヲ蒙ラ



ザル様ニ働カズンバアルベカラザル時ニ於テハ吾人ハ直チニ社會公衆ノ利益方法ヲ考ヘテ  
我が親近ノ家族朋友等が榮ヘルノミナラズ貧富貴賤ノ別ナク一般同胞兄弟が幸福ヲ得樂  
榮ヲ得ルベキ様ニカラフ盡サズンバアルベカラズシテソモ如何ニ左様ニ爲サンカハツマリ  
如何ニシテ善良ナル公民ヲラフヲ知ル事ナリ

普通一般ノ規則

第七 乍然タトヒ吾々が公民トシテ爲スベク持チ能フモノハ何ンデモ吾々自身ノ家族及ヒ  
朋友ノ間ニ一私人トシテ爲ス可ク吾々が持ツ處ノ者カラ異リテアルトハ雖モソコニ一ツノ  
場合ニ於テ而テ他ノ場合ニ於テ吾々ヲ導クベク屬スル處ノ規則ニ於テ區別ガアラヌ而テツ  
レハ何故ソレハ吾々が若年デアリ而テ猶ホ小學校ニ於テアル間ニ是等ノ問題ニ付テ考ヘッ  
、始ル可ク價值アルカデアアル(註 全文ノ意味ハ家族朋友間ニ於テ一個人トシテ義務ヲ盡  
スト社會ニ立テ公民タルノ義務ヲ盡スト其間ニ差別アリト雖モ公民トシテ義務ヲ爲ス時ト  
一個人トシテ義務ヲ爲スニ當テ吾人ヲ導ク規則則チ何レニテモ德義ヲ守ルニ於テハ敢テ少  
シモ變ワラザルナリ故ニ是レノ事柄何レニシテモ德義ヲ守ル事柄タル未タ幼少ニシテ小學  
ニ在ル間ニ這般ノ事柄ヲ學ビ考フル大ニ必要ナリ)

第八 汝が家ニ於テ汝ノ両親カラ汝ノ學校カラ教師カラ而テ汝ノ僧侶宣教師而テ和尙カラ

教會堂或ハ寺院ニ於テ汝が學ブ處ノ親切正直名譽而テ從順ノ其同シ課業ハ汝が生長シタ時  
ニ而テ撰舉人或ハ納税人兵士水夫或ハ陪審官事實ニ於テ汝が汝ノ國ノ善ニ向テ而テ汝ノ國  
人ノ安全ニ向テ爲スベク管テ持チ能フ處ノ總テノモノニ於テ記臆サルベク而テ働クベク持  
ツ(註 全文ノ意味ハ吾人が家庭ニテ両親ヨリ學ビ學校ニ於テ我が教師ヨリ寺院教會堂ニ  
於テ僧侶宣教師ヨリ教訓ヲ受ケタル親義公正名譽及ヒ從順ノ教戒タル他日吾人が生長シル  
時ニ或ハ撰舉人トナリ或ハ納税者トナリ或ハ陸軍ノ兵士トナリ或ハ海軍ノ水兵トナリ或ハ  
陪審官トナリ或ハ其他國家公共ノ善トナルベキ事柄ニ於テ働クベキ節ニ常ニヨク心中ニ銘  
シテ働キ行ハズンバアルベカラズ)

第九 頂度家ニ於テノ如クソレハ汝ノ母而テ姉妹或ハ朋友ノ爲メニ汝自身アル遊戯或ハ利  
益ヲ拒ム可ク時トシテ彼ノ義務デアアル如ク或ハ再ヒ汝が實ニ彼等ノ善ニ向テ或ル苦痛或ハ  
不便利ヲ受ケル可ク持チ能フ如ク左様ニソレハ彼等が生長セシ時ニ彼等自身ノ朋友而テ親  
屬其人ノ中ニ彼等が住ム處ノ彼等自身ノ朋友而テ親屬ガヨリヨクアリ能フアノ爲メデナク  
乍然總テ此國ノ人民ガ儲ケ能フソレハ英國ガ何ンデモ公明ニ而テ正シクアル處ノモノヲ爲  
シ能フソレハ英國ガ外國ニ於テ住ム處ノ其等ヲ助ケ能フ而テ害シナサヌ事程損失或ハ苦痛  
ヲ受ケル可ク彼等自身利益ヲ拒ム可ク屢々男子而テ女子ノ義務トナル(註 全文ノ意味ハ



作セシメントテ決テ已レノ權利ヲ主張セリ然ルニ彼等ハ恐ラク斯ル遠國即向河岸ノ喧嘩ニ對シテ吾人英國人ノ義務ハ何レニアルヤ問フン余ハ直チニ答ヘン然シ其事タル少ニ演レバ吾人英人ノ公民タル義務ヲ盡スニ大ナル關係アル事ハ直チニ明カナラン

第十三 私ハ南米人ハ彼等ニ向テ綿ヲ耕ス可ク彼等ノ奴隸ヲ要セシ事ヲ云ヒシ汝が知ル如ク綿ハ莢其レニ付テシヤツテ而テ手巾而テ吾々が各々ノ日常仕用スル處ノ數百ノ他ノ物ヲ制スル可ク綿布ニ迄紡ガル、處ノ材料が取ラル、處ノ莢カラノ植物デアアル(註 全文ノ意味ハ余ハ前ノ文章ニテ南米人ハ已カ爲メ綿ノ植物ヲ耕作セシメンガ爲メニ黑奴ヲ仕用セシマテ願ヘリト云ヘリ扱テ其ノ綿ハ汝ノ知ル如ク莢ヨリ生スル植物ニシヤツ手巾其他百般ノ日常仕用品ヲ紡グ材料ナリ)

第十四 合衆國ニ於テ戰爭ノ時ニ於テ南方州ニ於テ生スル殆ンド總テノ綿ハ羅ンカ州ニ送ラレシ而テソコニ英吉利西商社ノ手ニ於テ紡ガレ而テ織ラレシ 八十萬ヨリ少カラザル人民ガ種々ノ機械場ニ於テ仕用サレシ乍併戰爭ガ行マ前長クソレハ綿ガ利バールニ到着スル事カヲ妨ガラル、デアロー事ハ明白ニナリシ如何トナレバ南方州ニ打テ勝ヌンガ爲メニ北方州ハ南方州ノ港カラ綿ヲ運テ處ノ總テノ船ヲ止メルベク彼等ノ艦隊ニ命令セリ何テモ封鎖ト稱セラレタル處ノモノガ布告サレシ而テ異リタル港ガ實地速ニ鎖サレシ(註

全文ノ意味ハ此南北亞米利加州爭端ノ時分ニ南亞米利加州ニ産スル總テノ綿ハ英國羅ンカ州ニ送致セラレテ該地商社機械職工場ニテ紡績セラレタル者ニシテ綿布紡績業務ニ從事スル英人ハ殆ンド八十萬ニ下ラズ然ルニ今爰南北亞米利加州ノ鬭爭ノ起ランカ忽チ綿ノ英國利バール港ニ輸入スルハ妨止セラレ是レ北方州ノ南方ニ勝利ヲ得ントスルニハ其艦隊ニ訓命ヲ下シテ南方ノ綿糸ヲ積載セル商船ヲ中途ニ抑留セン以上是等ノ事タル鬭爭起ラザル前ヨリ英人ノ知ル處ナリ爰ニ於テ封鎖ノ宣告ヲ出シテ北方州ハ南方州ノ各港ヲ封鎖セシメタリ

第十五 是レハ總テ數千里彼方ニ起タ乍併其結果ガ甚ダ速カニ本國ニ近ク感セラレシ蘭カ州ニ於テ綿ノ供求ガ誤リシ職工場ハ運轉ヲ止メル可ク余義カクサレシ而テ彼等ニ於テ雇ワレシ處ノ人民ハ仕事ノ外ニ擲ケラレシ仕事ノ外ニアルベクハ賃銀ノ外ニアルベクアリシ而テ長キ前ニ多クノモノガ實際餓ヘツ、アリシ然ル間ニ甚ダ多クヨリ多クガ只慈惠ニ依テ支ヘラレシ、困難ハ救助ノ手立ヨリヨリ速カデサヘモ増セシ而テタトヒ殆ド三百萬磅ガ政府ニ由テ與ヘラレ或ハ困難人ノ朋友ニ依テ寄附セラレシトハ雖モ大ナル不幸ガ流行セシ(註 全文ノ意味ハ此米國ノ南北戰爭タル數千里向フノ對岸ニ起リタルニ其結果タル英國ニ大ナル關係ヲ生セリソハ他ニアラズ蘭加州ニ於テ綿ノ供求ニ欠乏ヲ告ガ爲メニ各紡績工場ニ

從事スル職工ヲ仕事外ニ出サレタリ扱テ仕事ヲ爲サズニ居ト云フハツマリ賃銀ナシニ居ルト云フ次第ナルヲ以テ多數ノ職工ハ恩惠金ニ依テ其日ヲ送ルト雖モ多クハ餓死スルニ至レリ其困難ノ激烈ナル中々救助ノ及ブ處ニアラズシテ政府並ニ困難人ノ知已ヨリ殆ンド三百萬磅ノ贈與寄附アルモトモ普テ行キトバカズ困難益々勢ヲ加ヘタリ

第十六 ソレハ若シモ南方州が勝利デアアルベクアリシナラバ或ハ若シモ北方州が封鎖ヲ止メルベクナサレシナラバ綿が速カニ再ビ利バブルニ迄注グベク始ルデアロー事ハ各体ニ迄明カデアリシ而テソコニ時ニ於テ總テ彼等が南方州ヲ助ケ能ヒ而テ國會ヲシテ彼等ノ味方ヲ試ミ而テ取ラシムベク爲セシ處ノ英國ニ於テ多クノ人民ガアリシ(註 全文ノ意味ハ南比亞米利加戰爭ニ當テ若シ南米ノ勝利ヲ得ンカ或ハ北米ノ封鎖ヲ止メンカ兩者何レニシテモ南米ヨリ綿ノ我が英國利バブル港ニ注入セシ事ハ何人トテモヨク知ル處ニソ且ツ南北戰爭ノ際ニ當リ英國ニ於テ南方州ヲ助ケ英國國會ヲ南米ノ味方ヲ爲サシムベキ様ナサン人民則チ蘭加州人ノ如キ南米ノ利ヲ得レハ已レ等モ直接ニ利益ヲ得ルヲ以テ國會ヲシテ南米ヲ助ケシメントスル人民ハ許多アルナリ)

第十七 乍併彼等ノ困難ニモ係ワラズ蘭加州ノ働ク處ノ人民ハ決テ奴隸ノ味方ヲ助ケルベク一致セヌデアロー彼等ハ大西洋ヲ横切テ北米人ハ敵ノ彈丸ニ逆フテ自由ト而テ公正ノ味

方ニ於テ闘ヒツ、アリシ事ヲ知リシ 彼等ハ彼等が少クトモ公正ノ朋友ニ向テ戰爭ヲヨク固ク爲サヌデアロー而テソレハ免ニ角彼等カ關ノアリシ丈ケ其レ丈ケ遙カ彼等ガ其レニ向テ困ム可ク持タトハ雖モ吾々ノ國ガ其レノ義務ヲ爲スデアロー事ヲ決定セシ(註 全文ノ意味ハ斯クノ如ク吾人英人ハ困難ヲ受クルモ蘭加州ノ紡績職工ハ決テ南方州即チ奴隸ノ味方ヲ助ケルヲ一致セザルナリ是レ即チ北方州ノ人ハ公正自由ノ正理ノ旗ヲ擧ゲ敵ノ彈丸ニ向テ闘ヒ居ルヲ知レバナリ依テ彼等蘭加州人ハ少ナクトモ南方ノ味方シテ北方州ノ人ノ爲メ戰チ困難ナラシムル事ヲ爲サズ已レハ如何ニ困難ノ域ニ立到ルモ力ヲ及バン限リ已レ等ノ關スル限り英國ガ義務ヲ盡サント決定セリ)

第十八 而テ左様ニヨキ公民トシテ彼等ハ彼等が彼等自身ノ家族而テ彼等自身ノ職業ニ於テ正シキ一ツデアアルベク學ンダ處ノ公正ノ規則ヲ實行ニ迄置キシ而テ彼等ハ自由ノ味方ニ向テ戰爭ヲ通シテ總テ立チシ 蘭加州ハ北米ニ逆ツテ呼ビニ於テ結ビ付カヌデアロー而テ斯様ニ政府ハ合衆國ヲ以テ彼等ノ親交ヲ保ツベク而テ大ナル戰爭ノ恐ルベキ結果ヲ避ケルベク適シテアリシ 是レハ如何ニ吾々が大ナル者ニ於テ公民トシテ吾々ノ義務ヲ爲シ能フカノ例デアアル乍併私ハ如何ニ要用デソレハ猶又小ナルモノニ於テ其レヲ爲スベクアルカノ例ノ澤山ヲ汝ニ與ヘ能フ(註 全文ノ意味ハ如斯吾人が家庭或ハ職業上ニ於テ公正ナリト

學び得シ公正ノ大原則ヲ實行シ善良要用ナル公民タルノ義務ヲ盡セシ大例ヲ顯ハシテ北米則チ自由軍ノ味方ヲ爲シテ已レ等ハ如何ニ困ムモ敢テ騒ガズ中立シテアリシヲ以テ英政府ハ合衆國ト親交ヲ維持スルヲ得恐ルベキ合衆國トノ大戦争ヲ避クルヲ得タリ扱テ是等ノ例タル大事ニ於テ善公民タルノ義務ヲ盡セシ例ニシテ余ハ是レヨリ進デ猶少事ニ於テモ又公民タル義務ヲ盡スノ必要ヲ示ス例ヲ多ク演シ

第三節 如何ニ吾々が國ヲ助ケ能フカ

一 吾々ノ一ツガ外國人ニ迄禮義アリ而テ鄭重アル各々ノ時彼レハ善キ公民トシテ彼レノ部分ヲ爲シツ、アル如何トナレバ彼レハ彼レ國ヲシテ外國ニ好マレ而テ尊敬サレシム可ク助ケツ、アリシ故ナリ 人が投票所ニ迄歩ミ而テ國會ノ議員ニ向テ正直ニ彼レノ投票ヲ與ヘル各々ノ時彼レハ國ノ政府ヲシテ正直ニ而テ公明ニ爲ス可ク助ケルニ於テ善キ公民トシテ彼レノ部分ヲ爲ツ、アル(註 全文ノ意味ハ吾人が外國人ニ對テ禮義ヲ守リ鄭重ヲ盡スハツマリ外國ヨリ我國ヲ好マレ尊敬セシムルヲ以テ吾人ハ善良ナル公民ノ義務ヲ盡セリト云フモノナリ又吾人が投票所ニ行キ正直ヲ以テ國會議員ヲ投票スルハ是レ其國ノ政府ヲ公明正大ニナサシムルニ關シテ大ナルカラアルヲ以テ矢張り善良ナル公民ノ義務ヲ盡セリト云フモノナリ)

第二 母ガ小學校ニ迄彼女ノ小供ヲ送ル各々ノ時彼女ハ善キ公民トシテ彼女ノ義務ヲ爲シツ、アル如何トナレバ法律ハ總テノ小供等ハ教育サレネバナラヌト云フ故ナリ而テ其レハ法律ニ從フ可ク善キ公民ノ義務デアル 而テ最後ニ喜ンデ而テ愉快ニ學校ニ迄行ク處ノ各々ノ童兒或ハ童女ハ善キ公民トシテ彼レ或ハ彼女ノ義務ヲ爲ツ、アル如何トナレバ勿論ソレハ若シモ彼等ガ其處ニ得シ時ニ小供等彼等自身ガ彼等ノ時間ヲ浪費シ而テ彼等ノ仕事ヲ怠ルナラバ學校ニ迄小供等ヲ送ル可ク法律ニ向テ總テニ於テ善クアラヌデアロイ故ナリ(註 全文ノ意味ハ母親ノ小兒ヲ學校ニ出スハ是レ善良ナル公民タルノ義務ヲ盡セリト云フモノナリ是レ則チ法律ニ小兒ヲ教育セズンバアルベカラズト云ヘルヲ以テ其法律ニ從フハ則チ善良ナル公民ノ義務タルヲ以テナリ 又最後ニ至リ喜悅愉快ヲ以テ勇ンデ學校ニ通フ小女童兒ハ是レ又善良ナル公民ノ義務ヲ盡シ居ルト云フ者ナリ是レ則チ若シ小兒等ノ學校ニアリテ已レノ時間ヲ浪費シ已レノ學課ヲ怠ランカ如何ニ法律ヲ以テ小兒等ヲ教育セヨ命ズルモ何ノ功アラザルヲ以テ小兒等ノ學課ヲ勉強スルハ則チ法律ヲシテ功アラシムルヲ以テ公民タルノ義務ヲ盡セリト云フモノナリト)

第三 左様ニ汝ハソコニ大少トモ其レニ於テ吾々ハ吾々が善キ公民デアル而テ吾々ノ國ニ務ル可ク喜ンデアアルトチ吾々ノ總テガ示シ能フ處ノ多クノ仕方ガアル事ヲ見ルデアロイ

(註 全文ノ意味ハ如斯吾人ハ大小何レニテモ吾人が公民ノ義務ヲ盡シ國家ニ務ムルヲ示スベキ方法ハ多クアルヲ見ルナリ)

第四 而テ最後ニソコニハ一ツノ他ノ而テ最モ要用ナル仕方其レニ於テ吾々が吾々ノ國ヲ助ケ吾々ノ隣人ヲ助ケ而テ吾々自身ヲ助ケ能フ處ノ一ツノ他ノ而テ最モ要用ナル仕方がアル而テソレハ吾々自身ノ生活ニ於テ正直ニ而テ善ク住ム可ク氣付ケネバナラヌ如何トナレバ良キ法律ノ數モ大ナル勝利モ大ナル富モ若シモ其レニ於テ住ム處ノ人民ガ自分自身ヲ支配スベクトハ他人ヲ支配スベク適當シテアルトノ最初ノ歩ミデアル事ヲ記憶スル處デ總テ彼等ノ行ニ於テ信ニ而テ正シクアルベク彼等自身ヲ試ミナサヌナラバ國ヲシテ大ニ爲サヌデアロー故ナリ (註 全文ノ意味ハ最後ニ至リ吾人が吾人ノ國ヲ助ケ吾人ノ隣人ヲ助ケ吾人自ラヲ助ケ他ノ要用ナル法方アリソハ他ニ非ズ吾人自ラ正直ニ善良ニ生活ヲ過サズンバアラザルトナリ是レ則チ若シ國內ニ住スル吾人ハ他人ヲ支配スルノ初歩ハ吾人自ラヲ制セズンバアルベカラザルトナリ記憶スルニ於テハ吾人自ラ吾人ノ行爲ニ於テ眞實公正ヲ守ラズンバ何程英國ニ善良ナル法律ノ多クアルモ何程戰爭ニ勝利ヲ得ルモ何程富有ナルモ我が英國ヲ立派ナル國ト爲スヲ得ザレバヨク其處ニ心ヲ止メテ吾人自ラ正直公明ノ行ヒヲ爲ストナリ注意セズンバアルベカラズ)

吾々ノ義務ヲ爲スノ一ツノ仕方

第五 是等而テ私が汝ニ迄記載スベク持ツデアロー處ノ總テ他ノモノハ事柄其レヲ以テ汝ノ各々ノ一ツガ或ル時或ハ他ニ於テ汝ガ生長シヌ時ニ爲ス可ク持チ能フ處ノ事柄デアアル彼等ノ或ルモノハ實ニ汝ガ今以テ爲ス可ク澤山ヲ持ツ (註 全文ノ意味ハ以上余ノ演ベ來リシ事及ビ是レヨリ演ズル處ノ事ハ汝等生長後何時カ爲サズンバアルベカラザル事柄ニシテ其中ノ事柄ニ付テ汝等ハ當時行ハズンバアルベカラザル事柄多クアルナリ)

第六 ソコニ公民トシテ汝ノ義務ヲ爲スノ一ツノ仕方が常ニアルデアロー 一ツノ仕方ハ汝ガ余義ナクサレテアル故ニ而テ汝ガ其レヲ避ケ能フニ其レヲ爲ス可クアル 他ノ而テヨリヨキ仕方ハ汝ガ其レヲ了解スル故ニ而テ汝ハヨク其レヲ爲スニ於テ汝ハ同シ時ニ於テ汝ノ國汝ノ國人而テ汝自身ヲ助ケツ、アルトヲ感ズル故ニ其レヲ爲ス可クアル 吾々ハ甚ダ屢モノ其レニ付テ吾々が道理ヲ了解シナサヌ處ノモノヲ吾々ノ生活ノ中ニ爲スベク持ツ乍然ヨリ多明白ニ吾々ハ吾々が爲ス可ク持ツ仕事ヲ了解スルトヨリヨク仕事ガ爲サル、デアローハ其レニ於テ屬スル (註 全文ノ意味ハソモ吾人が公民タル義務ヲ爲ス方法ハ常ニ二アリテ其ノ一ハ吾人ハ公民タルノ義務ハ是非盡サズンバアルベカラズ且ツ如何ニシテモ義務ヲ避クルト能ハザルヲ以テ止ヲ得ズ是非トモ公民タル義務ヲ盡サルヲ得

ズ又今一ツノ方法則チ第一方法ヨリ宜シキ方法ハ吾人ハ公民タルノ義務ヲ知り且ツ其義務ヲ盡スニ當テ我國我國人吾人自身ヲ助クル事ヲ感ズルヲ以テ公民タルノ義務ヲ爲スナリツモ吾人ハ一生中ニ何ノ分ケタル其理由ヲ知ラザル事柄ヲ甚ダ數々爲サズンバアルベカラザルニ依リ若シ其理由ヲ了解明カニ知ルニ於テハ自然其爲ス事モヨク爲サル、ナリ)

第七 而テ今私ハ私が汝が善キ而テ要用ナル公民ニ成リ能フ事ノ爲メニ學ブベシ汝ニ要スル實際ノ課業ニ迄來ラネバナラヌ ソコニ吾々ハ總テ學バネバナラヌアル規則ガアル而テアルモノハ吾々が總テ爲ス可ク適シテアラネバナラヌ乍併總テノ最モ要用ナルモノハ如何ニ吾々が學バネバナラヌ處ノモノヲ學ブ可ク持カ而テ何ンデモ吾々が爲スベシ持ツ處ノモノヲ吾々が適當ナル精神ニ於テ爲スベシ持ツカヲ學ブベシアル (註 全文ノ意味ハ今ヤ余ハ善良必要ナル公民ヌラン汝等ニ知ラシト欲スル誠ノ課業ニ入レリ 實ニ吾人が學ビ知ラズンバアルベカラザル規則並ニ吾人が爲スベシ適シテアラズンバアルベカラザル事柄ハアルモ其中最モ必要ナルハ先ツ第一ニ吾人が知ラズンバアルベカラザル事ヲ知り吾人が爲サズンバアルベカラザル事ヲ爲スニ適當ナル精神ヲ以テ爲サザルベカラザル事ナリ)

第八 而テ其レハ何故ニ前ニ私が法律立法而テ投票及ヒ他ノ甚ダ要用ナル事柄ニ付テ或ルモノヲ汝ニ告ルカデアアル私ハ何ンデ愛國心ニ依テ意味サル、カチ汝ニ迄説明スベシ章ヲ止

欠

MISSING



ルベキ事ヲ爲サザル様ニ眼ヲ着ケ常ニ公正名譽アル所爲ヲナシテ外國ニ對セントテ己レノ  
全力ヲ注ギ自國ノ危害ヲ救ヒ外國ヨリ尊バレン爲自己ノ親族家族ノ利益ヲモ願ミズ身命ヲ  
擲ツツニ至ルハ屢々見ル處ナリ)

第五 ソコニハ吾々ノ長キ歴史其レニ於テ吾々ノ國人ガ彼等ノ國ノ爲メニ生命而テ財產ヲ  
捨テタフハ吾々ノ長キ歴史ニ於テ多クノ例ガアル而テ今日生活シテアル處ノ吾々ハ何ンデ  
彼等ガ困ミ而テ犠牲ニ供ヘタ處ノモノニ迄多クヲ歸スル (註 全文ノ意味ハ我多年英國  
歴史中ニ於テ我英人ノ國家ノ爲メニ生命財產ヲ擲チシ例ハ實ニ數多アリテ今日吾人ハ其愛  
國者ノ國家ノ爲ニ犠牲トナリシ人ノ恩ヲ蒙リ居ルナリ)

トツレバトリオット、  
眞誠ノ愛國者

第六 各々ノ英吉利西ノ公民ハ吾々ノ國ヲシテ何ンデモ其レガアル處ノモノニ爲タ處ノ愛  
國心ニ付テ一ツノ甚ダ要用ナルモノヲ記憶スベク属スル 彼等ノ國ヲ最モ多ク愛スル處ノ  
其人等ハ直接ノ報酬ノ望ナシニ或ハ賞讃ノ獎勵ノ望デサヘモ與ニ其レニ對ルベク満足シテ  
アル (註 全文ノ意味ハ吾ガ英國公民タルモノハ愛國以テ今日ノ英國タラシメシコノ要用  
ナル一事ヲ胞裡ニ記セサルベカラズ眞誠ノ愛國タル者ノ直接ノ報酬或ハ世人ノ賞讃スラモ  
得ズトモ猶ホ喜ンデ國家ニカラテ盡スナリ)

第七 時トシテハ英國ノ爲メニ仕遂ラル、處ノ其ノ所爲ハ本國ニ於テノ朋友ガ其レニ付テ  
嘗テ知ルデアロー<sup>ト</sup>モ憐カデアアラマアル親キ眼カラ遙カ彼方ニ爲サル、而テ猶ホ義務ト而  
テ國ノ愛ノ爲メニ行ガ爲サル、<sup>ト</sup>ガアリ能フ (註 全文ノ意味ハ時ニ依リ我が臣人ノ義務  
ヲナスニ當リ本國ヨリ遙カ距リタル遠國ニ於テ盡ス少シモ國人ヨリ其所爲見ラレス又知ラ  
ラレザル事アルモ猶ホ且ツ愛國ノ爲メ其義務ヲ行フナリ

<sup>メガニユツテリハイ</sup>  
挫リハイニ於テノ武器庫

第八 ソコニ印度ニ於テ大ナル謀反ノ中ニ爲サレシ大胆ナル働キノ話ガアル其レハ何ンデ  
モ私ガ意味スル處ノモノヲ甚ダ明白ニ汝ニ示デアロー<sup>ト</sup>其レハセボイ則チ印度ノ土兵ガ印  
度ノ大ナル部分ニ於テ英吉利西人ニ逆フテ起タ片ノ時ニ於テアリシ 多ク場所ニ於テ總テ  
ノ白人ガ殺サレタ他ニ於テ彼等ハ異タル城堡及ビ都府ニ於テ閉サレ而テ圍マレテアツタ  
ソコニ甚タ僅カノ英人ガ準備サレテアリシ而テ其レハ一ツノ時ニ於テ各々ノ英人ガ殺サル  
、デアロ或ハ印度ノ外ニ追放サル、デアローカノ如ク見ヘシ (註 全文ノ意味ハ我英領印  
度ニテ大暴動ノ起リシ時ニ當リ實ニ愛國心ノ爲メニ英人ノ爲セシ大胆ナル行アリソハ彼ノ  
印度土兵ノ我が英人ニ對シテ反逆ヲ謀リシ時ニシテ大概ノ所ニテハ英人ハ殺戮ヲ蒙リ又或  
ル所ニテハ都城ニ圍マレ英人ノ命運旦夕ニ迫マリ且ツ其時英兵ハ實ニ少數ニシテ一時ハ各

英人ハ殺屠ヲ蒙ルカ或ハ印度ヨリ逐放サル、如ク見ヘタリ (註全文ノ意味ハ我英領印度ニ  
テ印度土兵ノ暴動ヲ企テ我英人ニ反逆セシ時ニ當リ我英兵ノ爲セシ大胆ナル行ノ話アリソ  
ハ彼ノ暴動兵ノ爲メ英人ハ各所ニテ殺屠ニ會ヒ或ハ都府ニ攻圍サレテ出ル能ハス其時我英  
兵實ニ少數ニテ一時ハ全英人ハ悉ク虐殺サル、カ或ハ印度地方ヨリ逐放サル、カ如ク見ヘ  
タリ

第九 印度ノ北ニ於テノ挫リハイノ大都ハ土兵ニ依テ取り圍マレシ而テ彼等ハ其レヲ取タ  
ナラバ危険ハ一度ニ於テ十倍ニ加増サルデアロー<sup>ト</sup>如何トナレバ挫リハイニ於テ武器庫其レ  
ニ於テ英吉利西ノ政府ガ陸軍ノ任用ニ向テ準備シタ處ノ彈藥武器而テ兵糧ガ保タレシ 若  
シモ一度印度土兵ガ強藥而テ武器ノ所有ヲ得タナラバ彼等ハ疑モナク吾々ノ小ナル軍勢ヲ  
打ち破ルベク而テ全キ勝利ヲ得ルベク適シテアツタデアロー (註全文ノ意味ハ扱テ印度南  
方ノ挫リハイ都府ハ暴兵ノ攻圍スル所トナリテ若シヤ其時都府畧取スルニ於テハ挫リハイ  
府ニハ英政府我が陸軍任用ニ供スル彈藥兵器及ヒ兵食ヲ貯藏スル武庫ノアル以テ是レ敵兵  
ノ有ニ歸スルヲ以テ其危険ナル<sup>ト</sup>實ニ甚シクテ我小數ノ英兵トテモ禦グ<sup>ト</sup>能ハズ敵兵ニ破  
レン<sup>ト</sup>ハ必セリ

第十 乍然挫リハイニ於テノ武器庫ニ迄土兵ハ決テ得ヌ如何トナレバ其レニ於テハ若シモ

彼等ノ生命ノ 性ガ其レヲ妨ゲルナラバ彼等ノ同胞ノ國人ノ危害ガ増サレヌデアロー事ヲ決定セシ處ノ英吉利西ノ兵士ノ小數ガアリシ 敵ハ武器庫ヲ取リ圍ミシ 指揮官維ロービ  
 ー而テ彼レノ大胆ナル仲間ハ其レハヲ禦グ可クハ不適當デアリシ事ヲヨク知リシ乍然彼等  
 ハ其レガ取ラレヌデアロートテ決定シテアリシ (註全文ノ意味ハ蓋シ埒リハイ武器庫ハ  
 決テ敵ノ有ドナラザルナリソハ當時埒リハイ府ニ我英兵ノ小隊アリテ自己等ノ生命ヲ 性  
 ニ供テ同胞英人ノ危害ヲ増サシラシメント決心セリ其時ハ敵ハ武器庫ヲ攻圍シ指揮維ロー  
 ビー並ニ幕下ノ兵士等ハ是レヲ守リ禦グハカラ及ブ能ハザルヲ知レリ去リナガラ決テ之ヲ  
 敵ノ有ニ歸セシメスト決定シケリ

第十一 彈藥ノ遵火ハ武器庫ニ迄下ニ横ヘラレシ而テ敵ガ城壁ヲ越ヘテ群集スベク始メシ  
 時ニ維ロービーハ附木ニ點火スベク合圖ヲ與ヘシ 鳴動ハ地球ガ二ツニ裂ケツ、アリシカ  
 ノ如ク續キシ而テ然ル間ニ總テノ埒リハイハヂヤムナ河岸ヨリカシメヤノ門迄震ヒ而テ震  
 動セシ大ナル武器ガ破裂セシ而テ時ニ向テ暗黒ナル雲ガ宮殿而テ都府ニ懸リシ暴動兵數百  
 ガ空氣ニ迄吹カレシ乍然大胆ル禦キ人等ハ害ナシニ避レザリシ (註全文ノ意味ハ其時  
 ニ當テ彈藥火遵ヲ下ニ横ヘ敵ノ城壁ニ蟻集スルヲ待テ維ロービーハマツチニ點火スベシト  
 ノ命令ヲ發セリ急ニ鳴動爆裂天地モ碎ケル有様ニテヂヤムナ河岸ヨリカシメヤゲート迄

ノ間全埒リハイ破裂シテ大武庫破壊シテ時ニ暗々ナル黒雲空中ニ起リ宮殿都城ヲ蓋ヒ敵兵  
 數百空中ニ飛颺サレタリ我兵モ一人ノ害ヲ蒙ラズシテ避ル、モノハアラザルナリ

第十二 指揮官スカリイハ彼レニ向テ逃レガ不適當デアリシ事程左様ニ恐ロシク傷キテア  
 リテ維ロービー而テフオレストハカシメヤゲートニ於テ達スルトニ於テ成功セシ後ノモ  
 ノハ逃レシ而テ前ノモノハミラットニ迄途ニ於テ殺サレシ乍然バツクレー而テ他ノモノ  
 ハ安全ニ於テ本陣ニ達セシ (註全文ノ意味ハ其武器庫破裂ノ際指揮官スカリイハ劇キ重  
 傷ヲ蒙リトテモ逃ル、ト能ハザルナリ又維ロービー及ビフオレストノ兩氏ハカシメヤゲ  
 ート迄達スルモ維ロービーハ途中ニテ殺害サレフオレスト氏ハ安全ニ本陣ニ達スルヲ得  
 タリ

第十三 斯様ナルモノガ埒リハイ武器庫ノ話デアル 何ンデモ私ガ汝ニ其レニ於テ注意ス  
 ベク要スル處ノモノハ斯様ニ彼等ノ國ニ向テ彼等ノ生命ヲ危クセシ處ノ是等ノ人ハ朋友ノ  
 眼カラ遙カ彼方ニ爲セシ而テ朋友ノ見ヘニ於テ而テ報賞ノ望ヲ以テ彼等ノ義務ヲ爲セシ處  
 ノ其等ヲ喜バス處ノ獎勵ノ或ルモノナシニ爲セシ (註全文ノ意味ハ埒リハイ武器庫破裂  
 ノ話ハ如斯ニシテ扱テ此話ニテ吾人ノ汝等ニ希望スル處ハ是等ノ人ノ身命ヲ危険ニシテ義  
 務ヲ爲スヤ朋友知己ノ見ザル遠國ニテ爲シ且ツ己レヲ喜悅セシムル朋友ノ獎勵モ報賞モア

ラザルニ猶ホ且ツ愛國ノ精心ヲ以テ國家ニ義務ヲ盡セシトヨク注意アラント願フ實ニ是レ等ガ誠ノ愛國ノ精神ト稱スルモノナリ

## 第五節

閣龍ノ話而テ其教戒

第一 時々男而テ女ハ何ンデモ彼等ガ爲シツ、アル處ノモノ、智識而テ要用ハ其等其人ノ中ニ彼等ガ生活スル處ノ其等ニ依テ見ラレヌ而テ時ニ於テ彼等ノ唯ノ報酬ト憎惡ト而テ不信用デアルトハ雖モ何ンデモ彼等ガ彼等ノ國ニ向テ最モヨキ仕方ト信用スル處ノモノニ於テ働キ能フ 長キ後迄彼等ガ爲タ喜キ働キハ彼等ノ國人ニ依テ見ラレ而テ了解サレザリシ (註全文ノ意味ハ時カ吾人男女ハタトヒ其爲セシ事ハ吾人同時代ノ人ノ見ル處トナラズ返テ其爲セシ切勞ノ報酬トシテ其當時世人ヨリ不信用ヲ蒙リ嫌忌ヲ受クルモ猶ホ已レノ善ト信スル行ヲ爲スナリ其行爲タル後世ニ至ル迄人ノ了解セザル處ニシテ子孫ノ代ニ至リ始メテ其切勞ノ現ハル、モ已レ生存中ハ常ニ不信用ヲ蒙ルナリ

第二 汝ノ或ルモノハ恐ラクハ亞米利加ノ大ナル發見者ナル閣龍ノ話ヲ記憶スルデアロ 閣龍ノ發見ガ世界ニ迄如何ナル差ヲ其レガ爲シタカハ多ク云フベク不適當デアル 乍然時ニ於テ彼ノ働キノ要用ガ彼レノ國人ニ依テ解セラレヌ又ハ彼レハ彼レ自身彼レノ大胆而

テ忍耐ガ値チスル處ノ名譽而テ獎勵ヲ受取り爲サリシ 閣龍而テ彼レノ冒險ノ話ハ誠ニ甚ダヨキ一ツデアアル (註全文ノ意味ハ汝等ハ定メシ亞米利加ノ大發見者ナル閣龍ノ話ヲ記憶スルナラン實ニ閣龍ノ發見以來世ノ中ニ如何ナル變動ヲ生セシヤ大キク云ハンモ云フ能ハズ實ニ大功中ノ大功ト云フモノナリ然ルニ彼大發見者閣龍ハ己レノ爲セシ功勞ノ事業ハ己レノ國人ニ解セラレズ且ツ己レノ大胆忍耐相當ノ名譽モ獎勵モ己レハ受ケ取ラザリシナリ實ニ此閣龍ノ話ハ誠ニヨキ教戒トナルベキ話ナリ

第三 四度閣龍ハ彼レノ國ノ務メニ於テ大西洋ヲ横切リシ 新世界ノ驚キガ最初ノ時ニ向テ彼レノ勇氣彼レノ忍耐彼レノ熟練ニ由テ舊世界ニ於テ住セシ處ノ其人彼ニ迄開テ投ゲラレシ 而テ何ンデモ彼レガ爲タ處ノモノニ向テ彼レノ生活中ニ受ケ取リシ處ノ報酬ハ何ンデモアリシカ 其人ノ權力而テ富ニ迄彼レガ左様ニ多クヲ附ケ加ヘタ處ノ西ペインノ工フアーデイナンドニ由テ彼レノ老タル齡ニ於テ見捨ラレテ彼レハ實大ナル取扱ヲ拒マレシノミナラス乍然彼レノ請求ニ向テ公明ナル聽聞デサヘモ拒マレシ (註全文ノ意味ハ彼レ閣龍ハ自己ノ國家ノ爲メニ四度大西洋ヲ横航シ閣龍ノ大胆其忍耐其熟練ノカラニ由テ新世界即チ米國ノ驚クベキ事狀始メテ歐洲人ノ眼ニ開カレタリ然ルニ斯ル大功アル閣龍ハ生存中ニ如何ナル報酬ヲ得シヤ西班牙王ノ爲メニ權力富榮ヲ増加セシモ其王フアーデイナ

ンドヨリ年老テ身捨テラレ寛大ナル待遇ヲ受クルヲ得ザルノミナラズ巴レノ請求ニ對シテ公明正大ナル聽聞スラモ許サレザリシナリ

第四 痛マシキ病氣カラ苦ム處デ而テ危険ト而テ危難ニ露ラサルヲノ生活ノ困難ヲ以テ疲勞シテ彼レハ無益ニ於テ彼レ自身ニ向テデナク少ナクトモ彼レガ彼レノ後ニ遺シツ、アリシ處ノ彼レノ息子ニ向テ朝廷ノ惠ヲ得ルベク誠ミシ 王ハ彼レノ訴ヘニ迄聽デアリシ而テ大ナル發見其人ヲ世界ガ嘗テ知タ處ノ大ナル發見者ハ其等其人ニ於テ彼レガ最モ大ナル請求ヲ持處ノ其等ニ依テ悲シト而テ痛ミニ於テ死ニ迄殘サレシ (註全文ノ意味ハ彼レ大功勞者閣龍ハ疾病ノ苦ヲ受ケ且ツ危険艱難風濤ニ身ヲ露ラシタル困難ニ依リ身神疲勞シテ己レハ敢テ望マズトモセメテハ其子ニナリトモ朝廷ノ惠ヲ得ント願國王ハ馬耳東風ニシテ大發見者ノ乞ラ聞カス哀ムベシ閣龍ハ大功アリ大請求ノ權ヲ有シナガラ其意ヲ得ズ苦痛憂鬱ヲ以テ終レリ

第五 私ヲシテ大ナル亞米利加ノ記者ワシントンアーヴィングニ依テ閣龍ノ死ノ物語ヲ汝ニ與ヘシメモ——「閣ロンブスノ心配而テ困難ガ終リニ迄引キツ、アリシ 彼レヲ再ビ勢ヲ付タ處ノ一時ノ火ガ速カニ積ミ重ナル處ノ老衰ニ依テ冷メラレシ 彼レノ最後ノ航海ガ既ニ困難ノ生活ニ依テ盡キ果タサレ而テ荒サレシ身体ヲ修復ヲ越ヘテ打チ碎カレタ而テ

斷ヘザル心配ガ老年ノ疲勞ト而テ瘁弱ヲ和ラグベク左様ニ必要ナル其快ヨキ休ミニ付テ彼レヲ奪ヒシ (註全文ノ意味ハ吾人ハ大發見者閣ロンブスノ終生ノ有様ヲ記載サレシ處ノ有名ナル記者ワシントンアーヴィング氏ノ物語ヲ茲ニ出サンニ次ノ如シ (以上和シントアーヴィング氏ノ文中ヨリ抄出セシナリ) 閣ロンブスノ心痛艱苦モ當ニ終ラントセリ即チ當ニ此世ヲ去ラントシケリ 閣ロンブスヲ勢ヒ付ケ復治セントスル一時ノ希望モ哀ムベシ勞瘁ノ爲メ冷メラレタリ 彼レ閣ロンブスノ最後ノ航海ヤ艱難辛苦ノ生活ノ爲メニ既ニ盡瘁疲勞セシ身体ヲ療養スベカラザル程身体ヲ損ジ且ツ不斷心痛スルヲ以テ盡瘁薄弱ノ老後ヲ快カラシムルニ必要ノ安息モ奪ワレタリ

第六 彼レノ主權者ノ冷膽ナル思ヲ忘ル、トガ彼レノ胸中ヲ冷メシ 彼レノ名譽ノ斷ヘザル疑惑而テ各々ノ順番ニ於テ受ケシ怨恨而テ誹謗ガ彼レノ大望ノ大ナル目的デアツタ處ノ其名譽ヲ越ヘテ陰影ヲ投ゲルベク見ヘシ 其レガ誠デアル此陰影ガ唯一時ノ繼續デアリ能フ乍然是レハ彼レノ名譽ヲ暗クシ能フ處ノ現在ノ雲ヲ越ヘテ先キヲ眺ムルベク而テ子孫ノ尊敬ニ於テ是レノ永久ノ光輝ヲ前見スベク最モ有名ナル人ニ向テ困難デアル (註全文ノ意味ハ國王ノ恩義ヲ忘レテ閣ロンブスヲ冷膽ナル待遇ヲ爲センヲ以テ閣ロンブスノ胸中ヲ悲シマシメタリ 且ツ閣ロンブスハ斷ヘズ交々誹謗讒言ヲ受ケ或ハ怨恨ヲ蒙リ其大目的タ

ル名譽モ浮雲ノ覆フ處トナレリ實ニ此浮雲ヤ此不名譽ヤ誹謗ヤ暫時ノ事ナルモ哀ムベシ此大功勞者閣ロンブスハ後世子孫ノ代ニ至リ赫々タル光輝ヲ放チ名譽ヲ受クルコトヲ見ル能ハバ當時不名譽ノ浮雲ヲ越ヘテ其ノ先キ則チ後ニ至リ大名譽ヲ得ルコトヲ前見スル能ハズ世人ノ讒謗惡嫌ヲ受ケ悲痛ノ身ヲ以テ世ヲ去レリ

第七 雲ノ高メラレシヲ見タ處ノ而其人ハ吾々ノ日ニ於テ閣ロンブスノ大ナル仕事ガ充分ニ了解サレテアルコトヲ知リ而テ彼レハ彼レ自身西班牙ノ彼レノ自身ノ國ニ依テノミナラズ乍然歐羅巴已而テ亞米利加ニ於テ何レモ總テノ國ニ依テ世界ノ英傑ノ最モ貴キモノ、一ツトシテ記憶サレシコトヲ知リシ處ノ吾々ハ哀レナル死スル處ノ人其人ニ迄彼レノ運ノ不正ガ左様ニ明白デアリシ而テ如何ナル名譽ガ彼レガ死シテアリシ時ニ彼レノ名ニ迄拂ハル、テアローカヲ知リ能ハヌ處ノ憐レナル死スル處ノ人ニ向テ誠ノ悲ミヲ感シ能フ (全文ノ意味ハ閣ロンブス不名譽ノ浮雲モ去リ今日ニ於テ功名赫々タル光輝ヲ見其名譽タル單ニ本國西班牙ノミナラス全歐洲亞米利加ノ各國ニ至ル迄赫々ノ名譽ヲ受ケ世界中ノ人ノ尊敬ヲ蒙リ全世界唯一ノ豪傑ナリトシテ記憶サレタリシヲ見タル吾人ハ既往ノ事ヲ回顧スレバ其身ニ不正ヲ蒙リシハ勿論明カニシテ且ツ後世子孫ヨリ如何ナル名譽尊敬ヲ受クルヤチ知ラズ身ヲ苦痛ノ中ニ終リシ彼閣ロンブスノ事ヲ憶フテ轉タ悲痛ニ忍ヘス悲哀ノ感ヲ起サザルハ

ナシ

第八 是レヨリ多ク吾々ハ人其人ハ彼レカ彼レノ仕事ヲ爲シツ、アル間彼レノ國カラ名譽モ又ハ報酬モ受取ラヌ處ノ人ニ依テ國家或ハ世界ニ迄如何ニ最モ大ナル職務ガ爲サレ能フカノ例ヲ彼レノ話ニ於テ見出シ能フ (註全文ノ意味ハ吾人ハ閣ロンブスノ經歷話ニテ人國家ニ大ナル務ヲ爲シ居ル間ニハ已レノ國人ヨリ名譽モ報酬ヲモ受ケツシテ一國或ハ世界ニ大ナル義務ヲ爲ス人ノ例ヲ大ニ見ルナリ

第九 而テ此國ノ歴史ニ於テリコニ常ニ人其人ハ閣ロンブスノ如ク或ル大ナル仕事ヲ爲シタ或ハ彼等ハ彼等ノ國人ノ務メニ於テ置ク可ク戀ヒ慕フタ處ノアル大ナル真理ヲ見出シタ處ノ人ガアルデアロー 乍然真理ガ輕視サレタ務メガ傾キシ而テ彼レ自身盡力ニ向テ報酬ニ於テ唯困難ト失望ヲ持タ (註全文ノ意味ハ我英國ノ歴史中ニ彼ノ大發見者閣ロンブスノ如ク國家ノ爲メ大事業ヲ經營シ或ハ大真理ヲ發見セシ人アルナラン然レモ其ノ爲セシ努力ハ功名ヲ得ル能ハズ反テ輕視ヲ蒙リ其發見セシ真理モ反テ侮リヲ受クノ階梯トナリ其艱難辛苦ノ功トシテ得ル報酬ハ困苦ト失望ナリ

第十 彼レノ生活ガ終デアリシ迄彼ガ蔽タ處ノ種ガ果實ヲ保タヌ或ハ彼レガ爲シタリキ處ノ發見ガ其レヲ用ユルベクヨリヨク適當ナル他ノ手ニ迄落チタ 乍然長キ經過ニ於テ國ガ

彼レノ仕事ノ利益ヲ得テ而テ彼レノ生活ノ中ニ輕蔑サレ而テ苦メラレテアリシ處ノ人ニ於テ誠ノ愛國心ヲ認識スルベク學ンダ (註全文ノ意味ハ彼レ閣ロンブスハ自己ノマキシ種ノ果實即チ其艱難辛苦ノ結果ハ棺ヲ終ル迄顯ハレザリシ則チ已レノ發見セシ國モ其名譽ヲ以テ閣ロンビヤ國ト稱セラレズ他人ノ名則チ亞米利加ナル名目ヲ付ケラレタリ (コロンブス大陸發見後アメリゴ一ナル者新世界ニ航シ歸國後書ヲ著ハシテ已レ最初ノ發見者ナリト僞稱セシヲ以テ其名ヲ取テ新世界ヲ亞米利加トハ稱スルニ至レリ實ニアメリゴ一ハ惡ムベシ閣ロンブスハ憐レムベシ) ヲ以テ稱スルニ至レリ然レモ長キ時ノ經過ニ依リ其國ハ閣ロンブスノ功勞ノ結果ノ利益ヲ得其存生中輕蔑ヲ蒙リ殘虐ヲ蒙リシ人ノ眞誠ノ愛國者ナルヲ認識スルニ至レリ

第三節 フカールスタリオチイスマ 僞セノ愛國心

一 ソコニトハ雖モ其レハ記憶スベクヨクアル處ノ愛國心ニ迄僞セニ而テ惡キ方デアアル汝ハ時々唯其其人ハ其レヲ爲タ處ノ其等ハ英人デアアル故ニ何ンデモ彼等ガ爲タ處ノモノガ正或ハ不正デアアルカ何ンデモ外國ニ於テ英人ニ依テ爲サレタル處ノモノヲ交ヘルベク其レガ常ニ正クアリシカノ如ク語ル人民ヲ聞クデアロー 是レハ其レ自身ニ於テ不正デアアル而テ唯ダ迷惑ト而テ困難ニ迄吾々ヲ導キ能フ如何トナレバ其レハ若シモ英人ガ其レハ彼等

ヲ爲タ處ノ者ハ英人デアアル故ニ單ニ惡キ所爲ヲ讚成スベク或ハ寬恕スルベク其レヲ正シト考ヘルナラバ其レハ等シク佛蘭西人獨逸人ハ彼自身ノ國人ガ誤リヲ爲シ或ハ失策ヲ犯ス時ニ同シモノヲ爲スデアロー一ハ好マシクアル一ハ明白デアアル故ナリ (註全文ノ意味ハ僞稱愛國心ナルモノアルヲ以テヨク記憶セズンバアルベカラズ 汝等ハ時々英人ノ外國ニテ爲セシ事柄ハ正不正ニ關セズ苟モ英人ノ爲セシタルヲ以テ是レヲ交ヘ扶助スルヲ以テ正當ナリト考フル人アル一ヲ聞クナランソモカ、ル事ハ大ナル不正ニシテ若シ吾人ガ正不正ニ關セズ其之ヲ爲セシ人ガ英人ナルヲ以テ或ハ讚成シ或寬恕スルニ於テ矢張り佛人モ獨逸人モ己レノ國人ノ爲セシ一ハ失策誤謬ヲナスモ是レ正シトシテ扶助スルハ自然ノ勢ナレバ吾人ハ斯ル僞セ愛國心ヲ避ケズンバアルベカラズ

第二 而テ左様ニ總テノ世界中吾人ハ何ンデモ彼等ガ僞セノ愛國心ノ爲メニ不正デアアルベク知リシ處ノモノヲ交ヘル處ハ英吉利西日耳曼而テ佛蘭西ノ如キ大ナル國ヲ持ツデアロー (註全文ノ意味ハ如斯クスレバ吾人ハ此世界中ニ僞稱愛國心ノ爲メニ不正ト知リツ、其國人ノ爲セシ行爲ヲ扶持スルノ英國獨逸國佛國ノ如キ國ヲ出スルニ至ルナリ

リーギヤストエントライヤンツト 正シクアレ而テ恐レテアルナ

第三 然ル時ニ再ビ私ハ其レハ其レガ常ニ戰爭ニ迄行クベク最モ多ク用意シテアル處ノ其

等其人ハ實際最モ愛國者デアラヌヲ告ゲルヲ要セス 時々實ニ總テ一ツノ朋友而テ隣人ガ戰爭ノ扶助ニ於テアル時ニ其レハ戰爭ニ於テ行キ而テ闘フベク要サル、デアローデサヘモ平和ニ向テ話スベクヨリ多ク誠ノ剛氣而テ誠ノ愛國心ヲ要スル (註全文ノ意味ハ彼ノ戰爭ニ行カントテ則チ戰爭セントテ心ガマヘシタルモノハ必ス實際愛國者ニ限ラザルハ敢テ之ヲ喋々スルヲ要セズ反テ世人皆戰爭戰爭ト叫ブ時ニ當テ平和ヲ維持シ主張セン爲ノニ發言スル眞誠ノ剛氣愛國心ヲ要スルナリ

第四 百年前ヨリヨリ多クデジョージ王第三世ノ時ニ於テ國王而テ國會ハ亞米利加ニ迄行タ處ノ英人ヲ支配スベク而テ彼等ノ願ニ迄反對ニ而テ彼等ノ助言ナシニアリシ處ノ仕方ニ於テ彼等ヲ支配スベク願シ (註全文ノ意味ハ今日ヨリ殆百年余以テデジョージ第三世ノ御代ニ於テ我が王及國會英國ニ移住セシ英人ヲ支配シテ全ク其英人ノ意志ニ反對シタル且ツ少シモ彼レ等助言ヲ聞カズシテ勝手ナル壓制ノ支配ノ下ニ置カンコトヲ欲セリ

第五 植民人(左様ニ亞米利加ニ於テノ英人ガ其時ニ稱ヘラレシ故ナリ)ハ彼等ガ撰舉セナンダ處ノ國會ニ從フベク拒ミシ時ニ國王及ビ國會ハ彼等ニ於テ戰爭ヲ布告セシ而テ兵隊ガ彼等ヲ降ス可ク送ラレシ 乍然ソコニ其レハ英人ヲシテ彼等ガ彼等自身制定スルコトニ於テ分ケ前ヲ持タナンダ處ノ法律ニ從ワシムルベク公正或ハ公平デアリシコトヲ信シ能ハヌ處

ノ英國ニ於テアル人ガアリシ而テ彼等ニ反對シテアル處デ王而テ國會ノ多數ヲ賤デ彼等ハ彼等ガ彼等自身ニ向テ請求シタ處ノ同シ權利ヲ大西洋ヲ横切テ彼等ノ國人ニ向テ左様ニ公クニ云フベク而テ識ルベク勇氣ヲ持タ (註全文ノ意味ハ彼植民人ハ已等ノ撰舉セザル國會ノ命令ニ從ハザルヲ以テ英王及ビ英國々會ハ軍隊ヲ米國ニ派出シテ之ヲ征服セントセリ然ルニ其當時英國ニ於テ眞誠ノ愛國者顯出シ國王國會ノ意見ニ反對シ已等ガ本國ニ於テ請求スル權利ヲ大西洋對岸ノ國人ニ得セシメント欲シ公ケニ口ヲ開テ政府ニ反對シテ彼等ノ謬政セザル法律ニ從ハシムルハ非ナリト主張シタリ

第六 是等ノ人ノ最モ大ナルモノハエドマンドバーク其人ノ書物ヲ私ハ汝ガ或ル日讀ムデアローヲ希望スル處ノエドマンドバークデアリシ タトヒ彼レノ朋友ノ多クガ戰爭ニ向テ希望シテアリシトハ雖モタトヒ王ヲ支ヘルベク拒ムコトニ依テ彼レハ朝廷ニ於テ惠ミヲ失ヒシトハ雖モ彼ハケレモ平和ノ味方ニ於テ幾度モ幾度モ彼レノ發言テ上ゲシ (註全文ノ意味ハ如斯誠ノ愛國心ヲ以テ政府ニ反對シテ平和ヲ主張セシ人ノ中最モ重立タル人ハエドマンドバーク氏ナリ其人ノ有名ノ書キ物ハ汝等何時カ見ラレンコト希望ス扱テバークハ政府ニ反對シタルヲ以テ帝室ヨリ不機嫌ヲ蒙リ又已等ノ朋友ハ悉ク宣戰主義ヲ主張スルモ自分ハ彼ノ愛國心ヲ以テ度々平和主義ヲ論シ擴張シテ雄辯ヲフルヘリ



第七 不幸ニ彼レハ耳立テラレザリシ不幸ニ戦争ニ向テ叫ビ出セシ處ノ其處ガ耳欬テラレシ 戦争ガ進ミシ植民人ハ王ノ軍勢ニ逆フテ起リシ而シテ彼等ヲ破リシ而テ終ニ汝ガ知ル如ク植民人ハ最早英吉利西ノ規則ニ迄從フベク拒ミシ而テ彼等自身ノ政府ト而テ國ヲ造リシ 國ハ亞米利加合衆國トナリシ (註全文ノ意味ハ歎ズベシ此時不幸ニモバークノ言ハ聽レズ不幸ニモ宣戰主張諸士ノ言聞カレ用弁ラレテ開戰サレタリ植民人英王ノ軍ニ拒シテ之ヲ破リ汝等ノ熟知スル如ク最早英國ノ法律ヲ守ラズ國ヲ建テ政府ヲ創メテ亞米利加合衆國ト稱スルニ至レリ

第八 其レハ若シモエドマンドバークノ賢キ勸告ガ續ケラレタナラバ何ガ英國及ビ合衆國ノ未來デアツタデアローカヲ云フ可ク不適當デアル 乍然一ツノモノニ付テハ吾々ガ慥メテアリ能フ則チ其レハ不正ナル戦争ニ依テ引キ起サレシ總テノ困難而テ悲痛ガ避ケラレシ而テ其レハ戦争ノ後長キ時ニ向テ英國ニ於テノ英人ト而テ米國ニ於テノ英人トニ成立タ處ノ怨恨ト而テ疑心ガ感セラレナシデアロー (註全文ノ意味ハ若シ彼ノ時ニ當テエドマンドバークノ意見行ハレタリトセバ英國及ビ合衆國ノ未來如何ナランカ之ヲ云フハ困難ナレトニカク左ノ一事ハ慥カナラン則チ不正ナル無謀ノ戦争ヨリ起生セシ困難悲痛ハ之ヲ避ケ得シナラン又戦争後長ク英國ニアル英人ト米國ニアル英人ト間ニ互ニ怨恨不信感ヲ生

セサリシヤ必セリ

第九 幸ニ其時ノ苦キ記憶ガ長ク忘レラレシ而テ英國ト而テ合衆國トノ間ニソコニ唯親睦ト而テ同胞ノ感情ガアル乍然吾々ハ總テ今若シモバークノ平和ノ味方ニ於テノ言語ガ行ワレタナラバ如何ニ多クヨリヨク其レガアツタデアローカヲ見ルデアロー而テ吾々ハ彼レニ於テ誠ノ愛國心ヲ見能フ如何トナレバ彼レハ何ンデモ不公平ニ而テ不正デアルベク考ヘシ處ノモノヲ扶助セヌデアローヲ總テノ世界ノ前ニ云フ可ク彼レハ充分大胆デアリシ故ナリ (註全文ノ意味ハ幸ニモ彼ノ戦争ノ時ノ雙互ノ怨恨憎惡ハ長ク忘ル、處トナリテ英國合衆國ノ交際親睦ニシテ互ニ同胞ノ感情ヲ有セリ乍去若シヤ彼時バークノ平和主義ノ行ハレシナラバ如何程宜シカラシカハ明ラカナラン實ニバークハ自己ノ不正ト考ヘシヲ社會ニ公言スルハ愛國ノ精神充満シタル人タルヲ見ルナリ

第十 斯様ニ汝ハ其處ニ多クノ仕方其レニ於テ愛國心ガ示サレ能フ處ノ多クノ方法ガアルヲ見ルデアロー 而テ汝ハ如何ニ要用ニ僞セデアル處ノ其レカテ誠ノ愛國心ヲ區別スルベクアルカヲ了解スルデアロー (註全文ノ意味ハ誠ノ愛國ヲ顯ス方法實ニ幾ラモアリテ汝等ハ僞愛國心ト眞誠ノ愛國心トノ區別ヲナスハ實ニ必要ナルヲ知ルナラン

第十一 今其レハ私ハ何ンデモ善良ナル公民デアローニ由テ意味サル、處ノモノヲ汝ニ迄

説明シタ私ハ善キ公民ガ仕遂ルベク持ツ處ノ異ナリタル義務ニ付テ法律其レニ由テ彼レガ治メラル處ノ法律ニ付テ利益其レハ彼レガ喜ブ處ノ利益ニ付テ或ル説話ヲ汝ニ與ヘルデアロー  
 ロー私ハ如何ニ法律ガ制定サル、カ而テ彼等ヲ制定スル處ノモノハ誰デアアルカヲ汝ニ示スデアロー私ハ如何ニ國ガ外國ノ其レノ敵カラ禦ガレシカ而テ如何ニ善キ順序ト而テ満足ガ本國ニ於テ慥カメラル、カヲ汝ニ示スデアロー  
 (註全文ノ意味ハ今ヤ余ハ善良ナル公民ト如何ナル意味タルヲ汝等ニ説明セシヲ以テ其レヨリ進ンデ公民ノ行フベキ各種ノ義務吾人ヲ支配スベキ法律吾人ノ受クベキ利益等ヲ指示セン 余ハ法律ハ如何ナル法方ニテ制定サルヤ又何人ガ之レヲ制定スルヤ如何ニシテ英國ハ外國ノ敵ヲ防禦スルヤ如何ニ吾人ハ本國ニ於テ安全タルヤヲ説明セントス  
 第十二 私ハ猶又法律ヲ運用スルコトニ向テ其レヲ破ル處ノ其等ヲ試ミ而テ罪スルコトニ向テ而テ其レニ從フ處ノ其等ヲ保護スルコトニ向テ爲サル、處ノ整ヘニ付テ或ルモノヲ學ブベク汝ヲ要スル (註全文ノ意味ハ余ハ是ヨリ法律ヲ運用スルコト又法律ヲ破ル者ヲ刑罰スルコト及ヒ法律ニ服從スル者ニ保護ヲ與フルコト等ノ爲ニナサレタル整ヘヲ汝ニ知ラシメン

第三章

如何ニ國ガ支配サル、カ

今吾々ハ國會ノ吾々ノ高キ法廷ヲ呼ブ 而テ最モヨク治メラレタル國ト共ニ等キ位ニ於テ吾々ノ國ノ大ナル体ガ行キ能フ事程吾々ヲシテ貴キ議論ノ斯様ナル議員ヲ撰バシメヨ (註) 今ヤ吾人ハ高等ノ法廷タル國會ヲ徵招セリ吾人ハ彼ノ最善ノ良治下ニアル國ト同等ノ位地ニ我國ヲアラシメンガ爲メ我國會へ智識アル良議員ヲ撰舉セヨ

第七節

何人ガ治ムルカ

(譯者曰ク是ヨリ以下原文余リ解シ難キコトナシ依テ難文ノ所丈ケ註ヲ入ル、モ他ハ直譯ノミニ止メン

第一 私ハ吾々ノ或ル一ツガ甚ダ要用ナル公民デアリ能フ前ニ吾々が國其レニ於テ吾々が住スル處ノ國ノ法律ノ或ルモノヲ知ルデアローコト是等ノ法律ニ向テ重ナル道理ノ或ルモノヲ了解シ而テ仕方其レニ於テ彼等ガ制定サレ而テ運用サル、處ノ方法ヲ以テ知得シデアアルデアローコトハ其レガ必要デアリシコトヲ汝ニ告ケン  
 第二 汝ノ多クハ汝ガ次キノ三章ヲ讀ム時ニ汝が見ルデアロー如ク或ル日汝自身國ヲ治ムルコトヲ以テ爲スベク持ツデアロー而テ汝ノ總テハ法律其レニ依テ其レガ支配サル、處ノ法

律ニ服従スベク持ツデアロー左様ニ其レハ各々ノ童兒而テ童女ハ出来ベク丈ケ其レ丈ケ速  
 カニ是等要用ナル事柄ニ付テ或ルモノヲ學ブデアロー事ハ實際必要デア  
 第三 如何ニ國ガ治メラル、カ 政府ニ依テト云フハ汝ハ汝ガ與ヘルデアロー處ノ最初ノ  
 答ヘデアアル而テ仕方ニ於テ答ヘガ正シクアル 乍然何人ガ政府ヲ支配スルカ 答ヘハ國會  
 ガ爲スデアアル 乍然總テノ終リニ何人ガ國會ヲ支配スルカ 而テ其レニ迄ノ答ハ此國ノ  
 人民ガ國會ヲ支配スルデアアル 而テ左様ニ汝ハ何人ガ國ヲ支配スルカノ間ニ迄眞實ノ答  
 ハ國ハ其レ自身支配スルデアアル事ヲ見ルデアロー

第四 是レハ常ニ左様デアラス 或ル時ニ於テ國王ハ唯獨リ國ヲ支配セシ他ノ時ニ於テ其  
 レハ僅カノ權力強キ貴族ト共ニ國王デアリシ而テ全ク近頃迄タトヒ國會ガ政府ノ總テノ事  
 柄ヲ決定スヘク察セラレシトハ雖モ國會其レ自ラガ只少數ノ人民ニ由テ撰舉サレシ而テ左  
 様ニ國ハ實際其レ自身支配シナサヌ 其レハ投票權ガ充分ノ年齢ノ殆ンド各々ノ人ニ迄與  
 ヘラレタ事ハ只全ク近頃デアアル

第五 パリーヤメント  
國會

乍然其レハ吾々ガ如何ニ國會ガ實際アルカ而テ如何ニ投票者ガ爲スベク行タカナ理  
 解スル迄政府國會而テ投票ニ付テ語ルコトニ於テ行クベク一ツノ用ガアラヌ 私ハ國ガ實際

其レ自身ヲ支配スルコトヲ汝ニ告ゲシ乍然勿論其レハ各々人ハ如何ニ彼レノ位置ガアロート  
 モ而テ如何ニ彼レノ仕事ガアロートモ實際時ヲ見出シ能フ或ハ公共ノ善ニ向テ命令ヲ與ヘ  
 ルベク而テ事柄ヲ整理スベク適シテアリ能フコトヲ考ヘルベク全ク妄デア  
 第六 ソコニ只一ツノ仕方其レニ於テ得ルベク彼等自身ノ生計ヲ持ツ處ノ而テ其人猶ホ國  
 ヲ支配スルコトニ於テ或ル部分ヲ取ルベク願フ處ノ總テノ數百萬ハ彼等ノ類望ヲシテ知ラシ  
 メ能フ處ノ只一ツノ方法ガアル 彼等自身國會ニ迄行クコトノ代リニ彼等ハ人其人ニ於テ彼  
 等ハ彼等ニ向テ其處ニ行クベク信用シ能フ而テ彼レガ其處ニ得能フ時ニ彼等ノ利益ノ後ニ  
 眺ムルベク處ノ人ヲ撰ブ

第七 汝ガ知ル如ク國會ニ送ラレタル處ノ人ハ議員ト稱セラル、而テ彼レヲ送リシ處ノ其  
 等ハ彼レノ撰者或ハ撰舉者ト稱セラル、此仕方ニ於テ撰舉サル、處ノ議員ハ國會ノ院ノ  
 一ツデアアル處ノ衆議員ニ迄行ク ソコニハ貴族院ト稱サル、處ノ國會ノ他ノ院ガアル而テ  
 何レモ彼等ノ上ニ女王ガアル 私ハ何ガ國ヲ治ムルコトニ於テ女王、貴族院而テ衆議院ニ依  
 テ爲サル、カニ於テ遙カ汝ニ告ゲルデアロー

ハウスオフコンモン  
衆議院

第八 乍然第一ニ吾々ハ衆議院ノ議員ニ付テ而テ仕方其レニ於テ彼等ガ撰舉サル、處ノ方

法ニ付テ少シヨリ多ク試ミ而テ學ブデアロー 如何トナレパツマリ演スル處ノ衆議院ノ議員ハ彼等自身ノ爲デナク乍然最モ要用デアアル處ノ彼等ヲ撰舉セシ處ノ人民ノ數百萬ノ爲メデアアル

第八節

ウカイラインダ  
投票

第一 各々人ハ彼レガ二十一歳デアアルベク成長シ而テ其人ハ家屋ヲ保チ或ハ其人ハ住居其レニ向テ彼レガ一年ニ十磅ヲ仕拂フ處ノ住居ニ於テ住ム時ニハ投票權ヲ持ツ而テソコニ彼等自身ノ家屋ヲ有セヌ又ハ彼等ノ住居ニ向テ十磅ヲ仕拂ハヌ其人ガ猶ホ又撰舉權ヲ持ツ處ノ多クノ他ノ人ガアル 左様ニ實際殆ンド各々ノ小供ガ他日撰舉者ニ成ルベク而テ國會ノ議員ニ向テ彼レノ投票ヲ與ヘツ、前方ニ眺メ能フ

第二 撰舉ノ時ガ到着スル前ニ國會ノ議員デアアルベク希望スル處ノ其彼ハ場所其レニ向テ彼等ガ撰舉サルベク願フ處ノ場所ニ迄下リ來ル(下リ來ルト云ハ龍動ヨリ地方ニ行クヲ云フナリ我國ニテモ都府へ行クヲ上京ト云フガ如シ)而テ如何ニ彼等ノ意見ガアルカ如何ニ彼等ハ彼等ガ國會ニ迄得シ時ニ爲スベク企ツルカラ撰舉人ニ告ゲル 投票ヲ與ヘルコトニ向テノ日ガ來ル時ニ投票則チ撰舉ガ始マル 各々ノ投票人ハ投票局ニ迄行ク而テ或ル一ツガ

彼レヲ見ルコトナシニ彼レハ彼レガ國會ニ迄送ルベク願フ處ノ人ノ姓名ノ反對ニ左様ニメナル十字ヲ紙ノ片ニ於テ記ルス 此紙ハ無名投票紙ト名付ケラル、而テ彼レガ其レヲ記ルセシ時ニ彼レハ投票箱ト稱サル、處ノ頂上ニ於テ突ヲ持ツ大ナル箱ニ迄其レヲ置ク 茲ニ投票紙ノ畫圖ガアル 汝ハ此場合ニ於テノ投票ハ紙ニ於テエチ、デヨンスノ名ノ反對ニ彼レノメチ記スルコトニ依テデヨンスニ迄彼レノ投票ヲ與ヘタコトヲ見ルデアロー

ゼー ブラウン.....	
エチ デヨンス.....	X
シー ロビンソン.....	
ダブリユー スミス.....	

第三 日ノ終リニ於テ投票箱ガ閉サレ而テ總テノ紙ガ開カル、處ノ場處ニ迄彼方ニ取ラル、而テ彼等ニ於テ記ルサレシ名ニ從フテ別々ノ積ミニ於テ置カレシ 彼等ガ總テ數ヘラレシ時ニ投票ノ多數則チ最モ大ナル數ヲ持ツ彼ノ一ツガ撰舉サレシト布告サル、而テ彼レハ場所其レニ於テ撰舉ガ保タレタ處ノ場所ニ向テ國會ノ議員トナル

第四 斯様ニ若シモ計算スルニ於テ數ガアルベクアルナラバ

デジョンズ……………一萬〇七百四十二票

ブラウン……………九千八百三十票

スミス……………五千三百二十一票

ロビンソン……………九百四十二票

然ル時ニ若シモソコニ撰舉サルベク只一人ノ議員ガアルナラバ デジョンハ撰舉サレシ一人デアアルデアロー或ハ若シモソコニ二人ガアルナラバ然ル時ニハ最高點ノ二人ナルデジョン而シテブラウンノ兩人ガ議員ト爲ルデアロー 是レハ投票日ニ於テ爲サル、處ノ總デアアル少ナクトモ汝ハ若シモ汝ガ撰舉ノ日ニ於テ投票場ニ於テアルベクアリシナラバ起ルヲ見ルデアロー處ノ其レガ總デアアル

デジョンズノ義務

第五 乍然ヨリ多ク澤山ガ實地爲サレタ或ハトニカク爲サルベク屬スル 如何トナレバ興ヘラレタ處ノ各々ノ單ナル投票ガ國ニ迄差テ爲シ能フ而テ賢キ而テ正直ナル議員ノ惠ミニ於テ或ハ惡キ原因ニ於テ國會ニ迄行ク處ノ一ノ惠ミニ於テ或ハ彼レニ迄與ヘラレタ處ノ信用ノ相當ナル氣付ケ無シニ與ヘラレテアル如ク從フテ其レヲ扶ケルベク或ハ害スベク行キ

能フ

第六 而テ茲ニ私ハ如何ニ要用ニ其レハ投票ガ氣付ケ多ク興ヘラル、デアロー事ガアルカ而テ如何ニ嚴ニ各々ノ投票者ガ彼レガ彼レノ紙ヲ疊ミ而テ投票箱ニ迄其レヲ落ス時ニ何ンデモ彼レガ爲シツ、アル處ノモノヲ考ヘルベク屬スルカヲ瞬間ニ向テ考ヘル可ク汝ニ好ムデアロー 如何トナレバ箱ニ迄彼レノ投票ヲ落ストニ依テ彼レハ英吉利西ノ國會ノ議員ヲ撰舉スベク扶ケツ、アル而テソコニハ英國國會ノ如ク左様ニ多ク善ヲ爲シ或ハ左様ニ多ク害ヲ爲シ能フ處ノ世界ニ於テ人ノ体ガアラヌ

第七 汝ハソコニハ世界ノ隅其レニ迄英人ガ彼等ノ途ヲ見出サナンダ處ノ世界ノ隅ガアラヌトヲ記憶スル時ニ而テ汝ハ英吉利西本國ノ島ノミニ於テモソコニハ殆ンド四千萬ノ人民ガアルトヲ記憶スル時ニ而テソレハ海ヲ横切テ數百萬ノ中ノ而テ本國ニ於テノ數百萬ノ中ノ各々ノ人而テ小供ガ英吉利西ノ國會ガ賢ク而テ先見アル或ハ馬鹿テ而テ粗暴デアアルカニ從フテ幸福ニナサレ或ハ不幸ニ爲サレ能フトヲ記憶スル時ニ汝ハ如何ニ誠ニ是レガアルカヲ了解スルデアロー

第八 左様ニ汝ノ最モ多クガアルデアロー如ク汝ガ投票者デアアルベク來ル時ニ如何ニ汝ハ汝ノ投票ヲ以テ爲スカヲ氣付ケ多ク考ヘルベク慥メテアル 人其人ニ迄汝ガ其レヲ興ヘル

處ノ人が彼レガ爲スベク得タ仕事ノ或ル知得ヲ持ツト試ミ而テ爲セ 如何トナレバ大ナル帝國ヲ支配スルコトハ左様ニ容易ノ事柄デアラヌ而テ頂度靴ヲ制スルコト或ハ衣服ヲ織ルコトガ爲ス如ク特別ノ智識ヲ要スル

第九 猶ホ又彼レハ國ノ爲メニ彼レガ能フ總テヲ爲スコト企テヲ持テ彼レガ國會ニ迄行キツ、アル而テ彼自身ノ爲メ或ハ彼自身ノ朋友ノ爲メニナサヌ事ヲ慥メテアレ 時々人ハ彼等自身ノ爲メニ名ヲ爲スベク或ハ生活ニ於テ高位ヲ得ルベク國會ニ迄行ク 乍然ツマリ總テ彼等ハ撰擧者ガ彼等ヲ撰グ故ニ國會ニ迄只得能フ左様ニ其レハ彼等ガ投票スル前ニ如何ニ彼等ノ議員ガ實際爲スベク企ツルカヲ試ミ而シテ見出スベク撰擧者ノ職務ト爲ル

第九節

無記名投票

第一 汝ハ投票者ガ投票場ニ迄行ク時ニ彼レハ秘密ニ紙ニ於テ彼レノ十字ヲ記ルシ而テ何人モ誰レニ由テ各々ノ別々ノ紙ガ箱ニ迄置カレシカヲ知リ能ワヌコトヲ私ハ汝ニ告ゲシ 是レハ各々ノ投票者ハ彼自身ノ誠ノ說而テ信用ニ迄從フテ而テ恐レ或ハ報酬ノ望ナシニ投票シ能フ事ノ爲メニ於テアル

賄賂

第二 或ル時ニ於テ其レハ投票ニ迄錢ヲ仕拂フベク而テ彼等ノ惠ミニ於テ投票スベク彼等ニ賄フベク國會ノ議員ニナルベク願シ處ノ其等ニ向テ普通デアリシ 時トシテハ猶ホ又彼等ハ若シモ彼等ガ彼等ヲ支ヘ爲サヌナラバ投票者ニ迄或ル害ヲ爲スベク強迫スベク用非シ例令バ彼等ハ彼等ノ家ノ外ニ彼等ヲ出スベク彼等ノ職業カラ彼等ヲ解雇スベク或ハ若シモ彼等ガ傭商人デアリシナラバ彼等ノ得意ヲ害スベク強迫スルデアロト而テ是等而テ他ノ手立ニ依テ彼等ガ左様ニ爲スベク願ヒシ故デナク乍然彼等ガ拒ムベク恐レテアリシ故ニ投票ニ迄撰擧者ヲ追フベク試ムル

第三 私ハ今日デサヘモ是等ノモノガ時々爲レテアルコトヲ云フベク悲ンデアル乍然汝ハ無名投票ノ下ニ各々人ガ秘密ニ於テ投票スル時ハ其レハ賄賂スベク或ハ強迫スベクカ甚ダ多クノ用非ガアラヌコトヲ了解スルデアロト如何トナレバツマリ何人モ投票ガ終テアル時ニ其レハ各々ノ特別ナル投票ヲ與ヘタ處ノモノハ誰デアルカヲ知ラヌ

第四 斯様ニ若シモ國會ノ議員其人ハ猶ホ又機械場ノ所有主デアシ處ノ國會ノ議員ガ當時彼レノ職人ニ迄若シモ汝ガ私ノ爲メニ投票セヌナラバ私ハ仕事ノ外ニ汝ヲ出スコトニ由テ汝ヲ罪スルデアロト云フベクアリシナラバ或ハ若シモ彼レガヨリ遙カ行キ而テ若シモ汝ガ私ニ向テ投票スルデアロトナラバ私ハ金錢ノ高ヲ汝ニ與ヘルデアロト云フナラバ彼レハ

決テ當底其其人ヲ彼レガ脅カセシ處ノ其等或ハ其等其人ヲ彼ガ賄賂セシ處ノ其等ガ實地  
 彼レノ爲メニ或ハ彼レニ逆フテ投票セシカヲ慥メテアラヌ 左様ニ無記名投票ハ實際大ナ  
 ル保護デアアル而テ正シク彼等ガ願ヒシ如ク投票スベク人民ヲ扶タル

第五 勿論若シモ各々ノ体ガ全ク正直デアリシナラバ若シモ國會ノ議員ガ常ニ賄賂スベク  
 或ハ投票者ヲ脅スベク耻ヂテアリシナラバ而テ投票者ガ他方ニ於テ常ニ賄賂ヲ受クルベク  
 余リ正直デアリシナラバ而テ脅迫ニ付テ恐レテアルベク余リ勇胆ニアリシナラバ其時ハ其  
 處ニ無記名投票ノ必要ガアラヌデアロー而テ各体ガ公ケニ投票シ能フ而テ總テノ世界ノ前  
 ニ彼レノ意見ヲ布告シ能フ其レハ實ニ多ク最モヨキ仕方ガアルデアロー 只不幸ニ吾々ハ  
 各体ガ何レモ正直ニ而テ勇胆ニアルデアロー事ハ慥メテアリ能ハヌ左様ニ現今ニ向テハト  
 ニカク吾々ハ秘密ニ於テ投票スルノ企テニ迄保タテハナラヌ

第六 法律ハ其レハ賄賂ヲ與へ或ハ受ケ取ル可ク甚ダ不正デアアル而テ一ツカ或ハ他ノモノ  
 カヲ爲シタ可ク發見サル、處ノ其等ガ嚴重ニ罪サル、コトヲ云フ 是レハ法律ノミナラズ乍  
 然其レガヨキ感シデアアル如何トナレバ投票ヲ買ヒ而テ賣ルベクハ國ノ幸福而テ繁榮ヲ買ヒ  
 而テ賣ルベクアル吾々自身ニ迄常ニ害ヲナスノミナラズ乍然總テ吾々ノ國ニ迄害ヲ爲ス其  
 ハ若モ彼等ガ賢ク而テ適シテアル故デナク乍然彼等ガ富テアル故ニ而テ惡キ仕方ニ於テ

彼等ノ富ヲ任用スルベク用意シテアル人民ガ國會ニ迄送ラル、ナラバ困ムベク慥カデア  
 ル

第七 今私ハ如何ニ衆議院ノ議員ガ撰舉サル、カノ或ル事情ヲ汝ニ興ヘタ 乍然汝ハ衆議  
 院ノ外ニソコニ貴族院ガアル而テ貴族院而テ衆議院ノ何レモ上ニソコニ女王ガアルコトヲ忘  
 レテハナラヌ

第八 其レハ法律其レニ由テ吾々ガ治メラル、處ノ法律ヲ共ニ制定スル處ノ女王貴族而テ  
 人民デアアル而テ立法ハ私ガ如何ニ是等ノ三ツノモノガ共ニ彼等ニ迄委任サレテアル處ノ仕  
 事ヲ爲スカチ汝ニ告ゲル爲メニ新ラシキ章ヲヨクヨク始メタ事程斯様ナル要用ナルモノデ  
 アル

第四章

クハーン、ロッシュ、エド、コンモンズ  
 女王貴族而テ衆民

安穩ナル政府ノ陸 正シキ而テ古キ名譽ノ陸 其處ニハ自由ガ靜カニ先例ニ迄先例カ  
 ラ廣ガリ下レリ

(註我英國ハ安穩ナル政府アリ公正アリ古ヨリ名譽アル國ニシテ先例又先例ヲ經テ自由  
 ハ徐々擴張サレタル國ナリ)

第十節

如何ニ國會ノ例令ガ制定サル、カ

第一 吾々ノ國ニ於テ總テノ政府ハ法律ニ從テ運用サル、租稅ハ法律ニ從テ仕拂  
ハル、學校ガ法律ニ從テ建ラル、法官ガ任用サレ而テ罪人ガ法律ニ從テ罪サル、略言  
スレバ吾々ガ爲ス總テニ於テ吾々ハ法律ニ從テ働クベクカ或ハトニカク其レニ迄反對ニ  
アラヌベク余義ナクサル、  
第二 然ル時ニ如何ニ吾々ノ總テニ迄左様ニ多クノ差ヲ爲ス處ノ此法律ガ制定サル、カ  
其レハ國會ノ例令ニ由テ制定サル、而テ國會ノ例令ハ女王貴族而テ衆議員ニ由テ發布サル  
ベク持ツ

女王

第三 女王ハ國ノ政府ノ頭ニ於テアル而テ英吉利西ノ島ノミナラズ乍然全キ大英帝國（大  
英帝國トシ云ヘハ英蘇愛ノミナラズ英政府治下ニアル國ヲ悉ク總稱シテ云フナリ）ノ頭デ  
アル 女王ヴィクトリヤハ王エドワード第一世ハ女王エリサベスノ如クアラズシテ單ニ王  
ノ息子或ハ息女デアアルコノ權利ニ依テ主權者デアアル 彼女ハ權利ニ由テ此帝國ヲ越テ支配  
スベク諸求シナサヌ乍然彼女ハ彼女ガデヨーヂ王第三世カラ降テアル故ニ女王デアアル其人

ハ順ニ由テデヨーヂ第一世カラ降テアリシデヨーヂ第一世其人ハ國會ニ由テ詳言スレバ其  
等ノ島ノ人民ニ由テ大英國而テ愛蘭土ノ王ニ爲サレシ

第四 女王ヴィクトリヤハ其レ故ニ或ル王或ハ女王ガ由テ支配スベク嘗テ請求シ能フ處ノ  
最モ高キ位ニ由テ支配スル 彼女ノ人民ノ意思ニ由テ支配スル 英國ノ人民ノ大多數ガ彼女  
而テ彼女ノ子孫ガ彼等ヲ越ヘテ支配スルデアロー事ヲ願フ丈ケ其レ丈ク永ク左様ニ永ク彼  
女ト而テ彼等ハ權力強ニ而テ尊敬サル、デアロー吾々ノ女王ハ彼女ノ祖先ノ或ル者ノ如ク  
ナク而テ或ル他ノ主權者ノ如クアラズシテ總テノモノニ於テ國ノ法律ヲ以テ一致ニ於テ而  
テ等ク總テ彼女ノ臣下ノ利益ニ於テ働ク

第五 彼女ノ支配ノ下ニ住スル處ノ英吉利西人民ハ彼等ガ王或ハ女王ニ依テ最モヨク支配  
サレ能フコトヲ信スル而テ吾々ガ此國ノ確固タル而テ良キ政府ニ於テ眺ムル時ニ吾々ハ英  
國人民ハ彼等ノ信用ニ於テ正シクアルコトヲ見ル

第六 其レ故ニ女王ガ彼女ノ臣下ノ意思ニ由テ支配スル丈ケ左様ニ永ク吾々ハ尊敬スベク  
而テ服従スベク余義ナクサル、吾人女王ヴィクトリヤヲ彼女自身ノ爲メニ愛シ能フ如何  
トナレバ彼女ハ常ニ彼女ガ國民其レヲ越ヘテ彼女ガ支配セシ處ノ國民ヲ愛セシコトヲ示シタ  
故ナリ而テ彼女自身ノ爲メニ彼女ヲ愛スルコトノ外ニ吾人ハ彼女ハ政府ノ元首トシテ吾々ノ



國人ノ幾百萬ニ依テ受取ラル、故ニ彼女ヲ尊敬シ而テ服従スルデアロ

ニツクホフローツ  
貴族院

第七 私ハ如何ニ此國ノ主權者トシテ女王ノ位置ガアルカラ汝ニ告タ今私ヲシテ法律其レニ由テ吾々ガ支配サル、處ノ法律ヲ爲スベク女王ヲ以テ共ニ結合スル處ノ國會ノ二院ニ迄歸ヘラシメヨ 第一其處ニ貴族院ガアル

第八 貴族院ハ長キ歴史ヲ持ツ 其レハ吾々ノ過去ノ歴史ニ於テ正ノ方ニ於テアツタ而テ其レガ不正ノ方ニ於テアツタ 貴族院ノ議員ノ最モ多クガ貴族ニ爲サル、トニ由テ國ニ迄或ル職務ニ向テ報酬サレタ處ノ或ハ斯様ナル人ノ子孫デアアル處ノ人デアアル 如何トナレバ奇ニ其レガ見ヘ能フトハ 雖モ斯様ニ報酬サレタ處ノ人ノ長男ガ猶ホ又彼レノ父ノ死ノ後貴族トナル而テ彼ノ子ガ順ニ於テ彼レヲ嗣ギ而テ左様ニ其レハ或ル場合ニ於テ貴族其人ノ祖先ガ二三十年以前ニ向テ其處ニ座シタ處ノ貴族院ニ於テ人ガ座スル迄進ム

第九 其處ニ他ノモノ其人ノ祖先ガ彼等ガ或ハ彼等ノ親族ガ王ニ迄務メヲ爲シタ務メ其レニ向テ彼等ハ國カラ謝禮ヲ値セヌ處ノ務メヲ爲シタ故デアアルカ或ハ王ノ寵愛入デアリシ故カ惡キ而テ耻ジアル道理ニ向テ貴族ニ爲サレシ處ノ他ノモノガアル 何時デモ其處ニ惡キ王ガアツタ時ニソコニハ常ニ貴族院ニ迄惡キ人ガ持チ來タリレタ而テ彼等ハ猶ホ又實際ヨ

ク爲タ而テ信誠ニ國家ニ務タ處ノ其等ノ如ク全キ人民ニ向テ立法ヲ扶クルベク權力ヲ彼等ノ子孫ニ迄手渡シ下セシ

第十 彼等ノ善或ハ惡ノ務メニ向テ貴族ニ爲サレタ處ノ或ハ彼等ノ祖先ガ盡シタ處ノ務ニ付テノ故ニ貴族ニ生レテアル處ノ議員ノ外ニ其處ニ只彼等ノ終生間ニ向テ委任サレテアル處ノ多ノモノガアル而テ其人ノ職務ハ其レハ法律ノ難點ヲ決定スルトニ於テ他ノ貴族ヲ扶助スベクアル 彼等ノ子ハ彼等ガ死セシ時ニ彼等ニ嗣ギ爲サヌ 貴族院ニ於テ猶ホ又二人ノ大高僧ト而テ二十四人ノ高僧ガ座スル 貴族院ノ首ラニ於テ大法官ガアル其人ハウールサツク(王國大法官ノ座スル座位)ト稱サレシ院ノ中央ニ於テ大ナル赤キ座位ニ於テ座スル 其レハ問題ガ議論サレテアル時ニ順序ヲ保ツ處ノ人ハ彼レデアアル

ハツクホフコンモンズ  
衆議院

第十二 終リニ衆議院ガ來ル其レノ議員ハ汝ガ既ニ知ル如ク合衆王國ノ總テノ人民ニ由テ撰舉サル、衆議ノ議長ハ貴族院ノ大法官ノ如クアル彼レガ順序ヲ保ツ而テ起リ能フ處ノ或ル爭論ヲ定メル

第十三 貴族院而テ衆議院ノ何レモハ議員ガ何レモノ側ニ於テ雙互ニ向キ合フテ座スルト程斯様ナル仕方ニ於テ整ヘラル、一方ニ於テ座スル處ノ黨派ハ政府黨ト稱セラレ他ニ於

テ座スル處ノ其レガ反對黨ト稱セラル、畫圖ニ於テ汝ハ如何ニ衆議員ガ整ヘラル、カヲ見ル 畫圖ノ仕方ニ於テ座位ハ政府黨座ト稱セラレ右方ニ於テノ其等ハ反對黨座ト稱セラ、終リニ於テノ大ナル椅子ニ於テ議長ガ座ス 今其レハ吾々ハ何ガ女王貴族院議員ニ由テ意味サルカノ或ル氣付ヲ得タ吾々ハ何ンデ其レハ彼等ガ彼等ノ各々ノモノガ爲ス處ノモノハ何ンデ其レガアルカ而テ彼等ガ彼等ノ間ニ法律ヲ制定スルハ如何其レガアルカヲ進ミ而テ見能フ

第十一節

如何ニ法律ガ制定サルノカ

第一 法律ガ制定サル、前ニ衆議院ニ於テカ或ハ貴族院ニ於テカ或ル一ハ何レデモ議案ト稱サル、處ノモノ詳言スレバ彼レガ制定スベク願ヒシ新法律ノ或ハ彼レガ願ヒシ古法律ニ於テ變更ノ印刷サレシ意見書ヲ持チ未タサテバナラヌ 租税ヲ仕拂フベク人民ヲ餘義ナクスルデアロー處ノ議案ガ若シモ彼等ガ通過サル、ナラバ只衆議院ニ於テ前方ニ持チ來タサレ能フ而テ貴族院ハ彼等ヲ變更シ能ワヌ 如何トナレバ其レハ金ヲ仕拂フベク持ツ處ノ其等ハ如何ニ其レガ得ラルベクアルカヲ決定スルデアローハ全ク明カテアル而テ其レハ實地結局ニ於テ仕拂フベク持ツ處ノ人ハ衆議院ヲ撰舉セシ處ノ撰舉セシ者デアアル

第二 議案ガ提出サレタ時ニ其レハ論辨サレ而テ雙方ノ黨派ニ由テ演述サレ而テ其レハ最初ニ一ツノ方ニ於テ而テ然ル時ニ他ノ仕方ニ於テ變更サル、若シモ議員ガ或ル點ニ付テ一致シ能ワヌナラバ然ル時ニ院ハ分タル詳言スレバ一方考ヘル處ノ總テハ一ツノ戸ニ於テ外ニ行ク而テ他方考ヘル處ノ其等ハ他ノ戸ニ於テ外ニ行ク 彼等ガ出行ク時ニ彼等ガ筭ヘテレシ而テ多數詳言スレバヨリ大ナル數ガ彼等ノ方ヲ得ル

國會ノ例令

第三 或ル一ガ爲スベク要スル處ノ總テノ變更ガ一定サル、時ニ然ル時ニ議案其レ自カラ朗讀サル、而テ於テ投票サレシ 其レガ共ニ通過スベク許サル、前ニ議案ガ何レモ貴族院而テ衆議院ニ於テ三度多數ニ由テ朗讀サレ而テ通過サルベク持ツ 如何トナレバ貴族院ニ於テ持チ來サル、處ノ議案ハ其後衆議院ヲ通シテ過グルベク持ツ而テ衆議院ニ於テ提出サレテアル處ノ一ツハ其後貴族院ヲ通シテ行クベク持ツ

王ノ允准

第四 兩院ガ議案ヲ通過シタ時ニハ其レガ女王ノ前ニ行ク而テ彼女ハ其レニ迄一致スベク或ハ其レヲ拒絶スヘク持ツ 實際議案ガ國會ノ兩院ヲ通シテ通過シタ時ニ女王ハ常ニ彼女ノ允准ヲ與ヘル如何トナレバ汝ハ吾々ノ現今ノ女ハ彼女ノ祖先等ノ或者ノ如クアラズ

例令バエリサベス或ハチャールス第一世ノ如クアラズ——國會ニ於テ彼女ノ大臣等ノ勸告ヲ行フ左様ニ何ンデモ彼女ノ大臣等ガ讚成シタ處ノモノヲ女王ハ猶ホ又承諾スル

國ノ法律

第五 女王ガ議案ヲ讚成シタ時ニ或ハ言法ニ從ヘバ王ノ允准ガ其レニ迄與ヘラレタ時ニ議案ガ例令トナル而テ其時カラ先キハ其レガ國法ノ部分デアル其レハ汝等而テ私ハ其レガ變更サル迄服從スベク余義ナクサル、今其レハ汝ハ如何ニ氣付ケ多ク法律ガ制定サル、カ而テ如何ニ彼等ガ人民ノ撰舉サレタル代議員ニ由テ考察サレ讚成サルベク持ツカヲ了解スル汝ハ如何ニ惡ク其レハ法律ヲ試ミ而テ避ケ或ハ破ルベクアルカ強迫力ニ由テ其レヲ謀リ而テ變更スベク猶ホヨリ多ク如何ニ不正ニ其レガアルカラ見ルデアロ

第六 ソコニハ法律ガ唯少數ノモノニ由テ制定サレシ而テ屢々只少數ノ利益ニ向テ爲サレシキノ時ガアリシ 然ル時ニソコニ屢々辛フジテ或ル体ガ付テ評議シテアツタ處ノ規則而テ例令ヲ強迫力ニ由テ抵抗スルコトニ向テ宥怒ガアリ能フタ

法律ハ服從サレテバナラヌ

第七 其等ノ日ニ於テ若シモ人ガ法律ニ反シテ反逆セシナラバ彼等ハ國王ニ迄反逆人ト呼バル、而テ彼等ガ捕ヘラレシ時ニ若シモ國王ガ充分強クアリシナラバ彼レハ彼等ヲ罰スベ

ク用非シ 今トハ雖モ其レハ法律ガ總テノ利益ニ向テ總テニ由テ制定サル、故ニ彼等ヲ破ルベク或ハ彼等ヲ廢スベク脅迫力ニ由テ試ミル處ノ或ル体ハ女王ノミニ迄ナク乍併彼レノ國ニ迄而テ彼レガ破ルベク充分惡クアル處ノ法律ヲ制定シタ處ノ彼レノ國人ニ迄反逆人デアル 其レ故ニ汝ハ英國ニ於テ其レハ常ニ脅迫或ハ暴力ヲ用ユルベク或ハ法律ニ違反スベク不正デアラテバナラヌヲ見ル

第八 私ハ制定サル、處ノ總テノ法律ガ良キ一ツデアルコトヲ或ハ其レハ吾々ガ常ニ彼等ガアル如ク法律ヲ以テ満足ニ息ミ依リツ、賢クアルデアロコトヲ意味シ爲サヌ 反對ニ於テソコニ彼等自身ニ於テ惡クアル處ノ多クノ法律ガアルソコニハ時代ガ變更スル時ニ不用ニ或ハ舊風ニナリシ處ノ多クノ他ノモノガアル

第九 乍然若シモ法律ガ惡クアルナラバ或ハ若シモ其レガ最早用サレヌナラバ其處ニ一ツノ方法ガアル而テ只一ツノ方法其レニ於テ其レガ正シク變更サレ或ハ取り去ラレ能フ詳言スレバ其レハ其レガ惡クアルカ或ハ古クシテ今日ニ用ヲ爲サヌコトヲ投票者ノ多數ヲ説キ進メルコトニ由テ其レヲ以テ爲シ去ルベク國會ノ彼等ノ議員ヲ通シテ彼等ヲ得ルコトニ由テアル自由ナル國ニ於テ法律ハ其レガ變更サル、迄服從サレテバナラヌ 其レハ國會ノ條令ニ由テ只變更サレ能フ 或ル他ノ方法ニ由テ其レヲ變更スベク試ル處ノ各々ノ人ハ彼レノ國

ニ迄反逆人デア

第五章

如何ニ法律ガ運用サル、カ

各々ノ目的ハ論辨ニ由テ建テラル

(註 如何ナル企テ目的モ悉ク之ヲ論辨爭議シテ定ム)

第十二節

官省

第一 汝ハ國ハ國會ニ由テ支配サル、ト詳言スレバ國會ハ法律其レニ由テ吾人ガ總テ支配サル、處ノ法律ヲ制定スル<sub>ト</sub>聞タ 乍然法律ガ制定サル、時ニソコニ彼等ガ多クノ任用ニ付テアリ能フ前ニ爲サルベク猶ホ或ルモノガアル而テ其レハ彼等ガ實行ニ迄置カル、デア<sub>ト</sub>事デア

第二 法律ガ實行ニ迄置カル、<sub>ト</sub>而テ國會ニ由テ爲サレシ總テノ整ヘガ最モヨキ仕方ニ於テ運用サル、<sub>ト</sub>見ル爲メニ人ノ大ナル數ガ何ンデモ官省ト稱セラル、處ノモノニ於テ係ワツテアル 各々ノ官省ノ頭ニ於テ大臣ガアル其人ハ通例國會ノ議員デア

務其レヲ以テ彼レガ委任サレテアル處ノ特別ナル事務ニ於テ適當ニ運用スル<sub>ト</sub>向テ必用デアリ能フ處ノ總テノモノヲ見ルベク彼レノ職務デア

私ハ最モ要用ナルモノニ付テアルモノヲ汝ニ告ゲルデア<sub>ト</sub>

第三 第一其處ニ内務省ガアル其レノ頭ラニ於テ内務大臣ガアル 其レハ知事ノ後ニ眺ム

ルベク石炭礦而テ商社ニ向テ審査官ヲ任用スルベク而テ大英國而テ愛蘭土ニ於テ法律ヲ運用スル<sub>ト</sub>以テ爲スベク持ツ處ノ大ナル多クノ他ノモノヲ整理スベク内務大臣ノ職務デア

第四 其レハ時々人ガ試ミラレ而テ罪人ト見出サレタ後ニ察セラレシヨリハヨリ少ナク罪人デア

第五 勿論其レハ彼レガ内務大臣デア

ガ罪ニ付テ一致シテアツタ處ニハ其レハ常ニ彼等ノ決定ヲ廢スベク或ル一人ニ向テ甚ダ困  
難デアラチバナラヌ故ニ何ンデモ斯様ナル場合ニ於テ正シクアル處ノモノヲ彼レノ心中ニ  
決定スベク或ル人ニ向テ甚ダ嚴重ナルモノデアアル 此道理ニ向テ内務大臣ハ甚ダ強キ而テ  
明自ナル道理無シニ法律ノ宣告ヲ以テ嘗テ關涉セヌデアロー

セイアドミラルテイランドツキカイカイニス  
海軍而テ陸軍省

第六 二ツノ甚ダ要用ナル官省ハ汝ガ察スルデアロー如ク海軍而テ 陸軍ノ氣付ケヲ以テ  
委任サレテアル處ノ海軍省而テ陸軍省デアアル 前者ノ頭ニ於テノ大臣ハ海軍大臣ト稱セラ  
レ陸軍省ノ頭ハ陸軍大臣ト稱サル

コロニヤルホフホス  
殖民省

第七 甚ダ要用ナル官省ハ實ニ殖民省デアアル 其レノ頭ニ於テノ大臣ハ殖民大臣ト稱セラ  
ル而テ其レハ殖民地ニ關スル處ノ各々ノモノニ迄見ルベク彼レノ職務デアアル 汝ガ地圖ニ  
於テ眺メ而テ如何ニ大ナル國デカナダオーストリア而テニユージーランドガアルカラ見ル  
時ニ而テ汝ハ彼等ニ於テ住スル處ノ人民ハ總テ吾々ノ英吉利西ノ自由ノ愛ト而テ立派ナ戯  
弄ヲ持ツ吾々自身ノ國人デアアルヲ記憶スル時ニ汝ハ殖民大臣ガ彼レガ是等ノ大ナル國ノ  
人民ヲ以テ爲スベク持ツ處ノ總テニ於テ何レモ親ク而テ賢クアルデアロートハ如何ニ要用

デ其レガアルカラ了解スルデアロー

第八 而テ其處ニ殖民大臣ガ時トシテハ爲スベク持ツ處ノ他ノ甚ダ要用ナルモノガアル  
汝ハ其レハカナダ及ビオーストリアノ外大ナル殖民地ノ外ニ其處ニ斯様ニケープコロニー  
而テデヤメイカノ如キ其レハ猶ホ又甚ダ要用デアアル乍然其レハ汝ノ地理書ガ汝ニ告ゲル如  
ク總テニ於テ英人デアラヌ處ノ人民ノ大ナル數ヲ保ツ處ノ他ノモノガアルヲ地圖ニ於テ  
見ルデアロー ケープニ於テ其處ニ和蘭多人民其人ニ迄ケープタウンガ一度屬セシ處ノ  
和蘭人ノ大ナル多クノ子孫ガアル而テ荷蘭人ノ外ニ其處ニ今ハ女王ノ政府ノ下ニアル處ノ  
カフレスズラススワジス及ビ他ノ黒キ人種ナル土人ノ多クノ數千百ガアル

第九 同シ仕方ニ於テデヤメイカニ於テ英吉利西住民ノ外ニ其處ニ昔時ノ奴隸ノ子孫ナル  
黒人ノ多ク數子ガアル 今其レハドコデモ英人ト而テ黒人同シ國ニ於テ共ニ住スル處ニハ  
其處ニハ大ナル氣付ガ彼等ノ左様ニ働クヲ妨ゲルベク取ラル、ニ非ズンバ英人即チ白人  
ガ土人即チ黒人ニ迄殘忍ニ或ハ不公平ニ働クヲ大ナル危險ガアルヲ見サレタ 乍然其  
レハ若シモ英吉利西ノ規則ノ下ニ單ニ彼等ノ皮膚ガ黒クアリシ故ニ困ムベクナサレシナラ  
バ或ハ彼等ガ弱クアリシ故ニ而テ彼等自身ヲ拒ギ能ワヌ故ニ法律ニ依テ不公平ニ取扱ワレ  
シナラバ甚ダ不正デアアルデアロー

第十 私ガ汝ニ告ゲタ如ク各々ノ一ハ彼レガ黒クアルカ或ハ白クアルカ法律ノ前ニ等シクアル 乍然其レハ屢々其レハ何ンデモ吾々ノ殖民地ニ於テ土人而テ黑人ニ迄英人ニ由テ爲サレテアル處ノモノヲ甚ダ密ニ而テ氣付ケ多ク番スベク内務大臣ニ向テ必要デアアル 其レハ總テニ迄等シキ公正ヲ試ミ而テ與ヘルベク彼レノ職務デアアル而テ本國ニ於テ吾人ハ何ンデ時トシテハ甚ダ困難デアアル處ノモノヲ爲スニ於テ彼レヲ盡力シ而テ扶クルベク屬スル義務アリ

ジフカレンゴフイス  
外務省

第十一 外務省ハ外國ヲ以テノ總テノ職務ノ後ニ眺ムルベク持ツ其レノ頭ニ於テ外務大臣或ハ彼レハ時トシテ稱セラル、如ク外務大臣ガアル 其レハ此國ト而テ總テ外國トノ間ニ整ヘヲ爲スベク而テ其レハ外國ニアル英人ガ國其レニ於テ彼等ガアルベク起ル處ノ國ノ法律ニ從フテ公平而テ正大ニ取扱ワル、トヲ見ルベク彼レノ職務デアアル 彼レノ仕事ハ甚ダ要用デアアル如何トナレバ時トシテハ爭論ニ於テソコニ或ル事柄ガアル時ニ如何ナル答案ガ他國ノ外務大臣ニ迄送ラル、デアローカヲ實際決定スル處ノ人ハ彼レデアアル故ナリ而テ時々其レハ平和或ハ戰爭ガ彼レノ答ヘニ於テ關スルコトガ起ル

アンバサドワー  
公使

第十二 世界ノ大ナル國ニ於テ其處ニ英吉利西帝國ノ後ニ眺ムルベク而テ他國ノ政府ニ迄吾々自ノ身政府而テ吾々自身ノ國會ノ願ヒ而テ企テヲ説明スベク特別ニ委任サレシ人ガアル 是等ノ人ハ公使或ハ大臣ト稱サル、而テ其レハ外務大臣ハ彼レガ送ラルベク願シ處ノ音信ヲ送ルコトハ彼等ニ迄アル 英國ノ公使ハ國其レニ迄彼レガ送ラル、處ノ國ニ於テ女王ノ代理ニ於テ立ツベク察セラル、彼レハ大ナル尊敬ヲ以テ取扱ワル、如何トナレバ其レハ彼レガ話ス時ニ彼レハ大ナル國ノ名ニ於テ話スコトガ知ラル、故ナリ

第十三 同シ仕方ニ於テ日耳曼佛蘭西奧ストリヤ而テ以上ノ他ノ國ニ於テ龍動ニ於テ彼等ノ公使ヲ特ツ其人ハ外國ニアル吾々自身ノ公民ノ如ク大ナル尊敬ヲ以テ取扱ワレ而テ高キ名譽ニ於テ保タル、ニツノ國ガ戰爭ニ於テ行ク時ニ彼等ハ彼等ノ公使ヲ本國ニ呼ブ而テ是レハ彼等ハ最早雙互ヲ以テ親キ條約ニ於テアラヌコトノ記シデアアル

アヂーホフイス  
他ノ官省

第一 私ガ記戦シタ官省ノ外ニ多クノ他ノモノガアル 其處ニ貧人ノ救助ノ後ニ眺メ而テ工場ヲ保チ上ゲ而テ健康アル整ヲ保全スベク企テラル、處ノ法律ヲ運用スルベ必用ナル總テモノヲ爲ス處ノ地方廳ガアル 若シモ虎列刺ガ此國ニ於テ破裂スベ脅スナラバ擴ガル處

ノ傳染ヲ妨碍スベク而テ病デアル處ノ其等ニ向テ病院ヲ準備スルベク此役所ノ義務デア  
ル

第二 然ル時ニ其處ニ總テノ小供等ハ學校ニ迄送ラル、デアロー<sup>1</sup>而テ學校ニ向テ國會ニ  
由テ與ヘラレタ處ノ適當ニ費ヤサル、<sup>1</sup>ヲ云フ處ノ法律ガ運用サル、<sup>1</sup>ヲ見ル處ノ文部省  
ガアル

ジイポストオフィス  
遞信省

第三 而テ其處ニ猶ホ又郵便局而テ電信局ガアル其レハ彼等ノ間ニ驚クベキ整ヘ其レニ由  
テ文書及ビ電信ガ他ニ迄英國ノ一端カラノミナラズ乍然支那ニ迄印度ニ迄亞米利加ニ迄埃  
ストリヤニ迄而テ地球ノ各々ノ隅ニ迄安全ニ送ラレ能フ處ノ驚クベキ整ヘノ全キモノヲ取  
扱フ

第四 其レハ如何ニ驚クベク各々ノ年安全ニ送ラル、處ノ書翰而テ普信ノ量ガアルカラテ  
解スベク困難デアアル 一千八百八十三年ノミニ於テ一億八千二百萬ノ書翰ガ合衆王國ニ於  
テ傳ヘラレシ 而テ書翰而テ新聞紙而已ナラズ乍然金錢ノ三千二百萬磅ヨリ多クガ郵便局  
ヲ通シテ一方或ハ他方ニ於テ送ラレシ 他ノ章ニ於テ私ハ郵便局ニ於テ取扱ワル處ノ而テ  
雨天ノ日ニ向テ錢ヲ貯蓄スベク願フベク充分賢クアル處ノ總テ其等ノ人ニ迄大ナル扶ケデ

アル處ノ貯蓄銀行ノ或ルモノヲ汝ニ告ゲルデアロー 乍然今私ハ書翰ヲ郵便ニ出ス<sup>1</sup>而テ  
印證ヲ帖スル<sup>1</sup>ニ付テ汝ヲ利益スルデアロー處ノ一二ノモノヲ汝ニ只告ゲルデアロー

「ペニイ」郵便 (ペニイハ英國錢ノ名)

第五 汝ガ知ル如ク汝ノ或ルモノハ今ペニイニ向テチヨソグロトハウスカラ國ノ邊ニ  
書翰ヲ送り而テ半ペニイニ向テ郵便端書而テ新聞紙ヲ送り能フ 五十年前モノガ甚ダ異  
ナリテアリシ各々ノ書翰ハ一シリリングニ迄六ペンス (十二ペンスハ一シリリングトナリ  
二十シリリングハ一磅トナルナリ) カラ値スル而テ甚ダ多クノ人民ガ當底書翰ヲ書クベク  
得ルベク不適當デアリシ

第六 其レハサーローランドヒルガ最初ニ書翰ガ一ペニイニ向テ損失ナシニ運バレ能フノ  
ミナラズ乍然其レハ書翰ヲ認ムルベク而テ受取ルベク各々ノ一ニ向テ左様ニ容易ニ其レヲ  
爲ス<sup>1</sup>ニ於テ任用サレシ切手ノ數而テ送ラレシ書翰ノ數ガ非常ニ増加スルデアロー<sup>1</sup>ヲ見  
シ<sup>1</sup>ハ一千八百四十年迄アラザリシ 彼レノ企テヲ試ミルベク國會ヲ説キ進メル<sup>1</sup>ニ由テ  
彼レハ合衆王國ノ人民ニ於テ甚ダ大ナル恩惠ヲ附與セシ 汝及ビ私ハ吾々ガ書翰ニ於  
テ一ペニイ切手ヲ置キ而テ郵便局ヲ通シテ其レヲ送ル各々時ニ付テ利益ヲ得ル恩惠ナリ

ザイプリングストラスター  
旨目ノ郵便局長

第八 私ハ郵便局ニ於テ彼レノ仕事ニ由テ總テ吾々ニ迄大ナル職務ヲ爲セシ處ノ一ツノ他ノ英人ニ付テ或ルモノヲ汝ニ告ゲルベク試テアル 汝ハ一千八百八十四年ニ於テ死セシ處ノ盲目郵便局長フオーセツト氏ノ畫圖ヲ次頁ニ於テ見ルデアロー 私ハ第一ノ場所ニ於テ彼レヲ記載スル如何トナレバ郵便局ノ仕事ニ於テ彼レガ爲シタ多クノ改良ニ由テ彼レハ善良ナル而テ用要ナル大臣トシテ記憶サルベク權利ヲ儲タ故ナリ 而テ第二ノ場所ニ於テ私ハ彼レヲ記憶スル如何トナレバ彼レノ生活ニ由テ而テ彼レノ仕事ニ由テ何レモ何ンデモ大ナル困難ト而テ最モ恐ロシキ難澁ノ下デサヘモ彼レノ國ノ職務ニ迄熱心シテアル處ノ一ツニ由テ爲サレ能フ處ノモノヲ總テ彼レノ國人ニ迄例ヲ與ヘシ故ナリ

検査院

第八 其處ニ例令バ租税ノ徵集ノ後ニ而テ陸海軍ニ迄金ノ仕拂ニ迄而テ各々ノ人其人ニ迄國ガ金ヲ仕拂フベク持ツ處ノ各々ノ人ニ迄眺ムル處ノ租税院ノ他ノ官省ガアル 政府役所ニ於テ働テアリシ處ノ總テ其等ハ文官ト稱セラル、而テ文官ニ入込ムベク各々ノ人ハ彼レハ彼レ或ハ彼女カ爲スベク得タ處ノ仕事ニ向テ進ミテアルヲ示スベク試験ヲ經過スベク持ツ

第八 是レハ常ニ左様ニアルベクアラヌ 或ル時ニ向テ官職ハ最モ英敏ナル或ハ最モ適シ

タルモノニ與ヘラレズシテ乍然彼等ヲ扶クルベク最モ權力アル朋友ヲ持タ處ノ其等ニ迄與ヘラレシ 其レハ變更ガ爲サレタ事ハ甚ダヨキモノデアアル如何トナレバ國ノ事務ハ其レヲ爲スベク彼等ノ學識ト而テ勉強ニ由テ最モ適シテアル處ノ其等ニ由テ最モ善キ出來ベキ仕方ニ於テ爲サル、デアロー事ハ最モ其レガ要用デアアル故ナリ

第六章

アフリックヘルバリーヤメント  
吾々ノ小國會

人ト而テ人間ニ最モ大ナル信用ハ辨論ヲ與ヘルノ信用デアアル (註人間ノ大最信用ハ互ニ辨論討議スルノ信用ナリ)

第十四節

カウンティカウンシル  
地方會議

第一 汝ハ如何ニ其レガ撰舉サル、カ而テ如何ニ其レハ全キ國ニ向テ法律ヲ制定スルカ國會ニ付テ聞タ 汝ハ猶又大臣而テ異ナリタル役所ニ於テ彼等ノ下ニ置カル、處ノ其等ノ人ガ國會ニ由テ制定サル、處ノ法律ヲ運用スルカヲ見タ

第二 乍然全國ニ向テ要サル、處ノ而テ其レノ總テノ部分ニ向テ同シクアル處ノ法律ノ外ニ其處ニ總テノ場所ニ於テ同シクアラヌ處ノ異ナリタル州而テ都府ノ政府ニ向テ爲サルベ



ク持ツ處ノ他ノ規則ガアル一州或ハ一都府ノ要用ハ他ノ其等カラ異リ能フ而テ場所ニ於テ住スル處ノ其等ハ最モヨク如何ニ各々ノ場所ノ要用ガアルカチ知ルデアロー  
第三 其故ニ國會ハ英國ニ於テノ各州或ハ大ナル都府ノ住民ニ迄彼等ノ特別ノ地方ノ適當ナル政府ニ向テ要サレシ仕事ヲ爲スベク彼等自身ノ小國會或ハ議會ヲ撰舉スベク權力ヲ興ヘルノ法律ヲ發布セシ 其等ノ小國會ノ各々ハ合衆王國ノ國會ニ由テ制定サレシ法律ニ迄反對デアル處ノ或ル法律或ハ規則ヲ制定シ能ハヌ而テ彼等ハ只國會ニ由テ彼等ニ迄委任サレテアル如キ斯様ナル事柄ヲ以テ彼等自身關ワリ能フ

如何ニ彼等ガ撰舉サル、カ

第四 私ガ話シツ、アツク處ノ議會ハ此國ニ於テ新キ事物デアアル 其レハ國會ノ條令ガ發布サレシ一ハ只一千八百八十八年ニ於テアリシ其レニ依テ其等ノ議會ハ各州而テ大英國ノ總テ最モ要用ナル都府ニ於テ創立サレシ 彼等ハ州ノ議會ト稱セラル、而テ國會ノ議員ガ撰舉サル、如キ同シ仕方ニ於テ撰舉サレシ議會ニ付テ成立セシ 乍然寄留人ガ國會ノ議員ニ向テ撰舉シ能フ而テ婦人ハ能ハヌ間ニ州ノ議會ニ於テ其レハ頂度他ノ方デアアル寄留人ガ撰舉シ能ハヌ而テ婦人ガ撰舉シ能フ

第五 州ノ議員ニ於テノ議員ハ議會ニ依テ代表サル、處ノ州或ハ都府ノ大サ而テ要用ニ迄

從テ變スル ラットランドノ小州ハ二十一人ノ議員ヲ持ツヨーク州ノ大ナル州ハ二百十人ヲ持ツ 或ル大ナル州ガ地方ニ迄分タレシ其レノ各々ガ其レ自身ノ州ノ議會ヲ持ツ而テ總テノ州及ビ地方ハヨク小ナル區分ニ迄分タレシ其レノ各々ガ一人ノ議員ヲ撰舉スル  
第六 撰舉サレシ處ノ議員或ハ辨論人ノ外ハ各ニ議員ニ向テ一人ノ司長ガアル 司長ハ撰舉サレヌ乍然辨論人ニ依テ撰バル、彼レ等ハ撰舉サレシ處ノ其等ノ人ノ數カラ取ラレ能フカ其ノ場合ニ於テ新ラシキ辨論人ハ司長トシテ撰バレテアル處ノ其等ノ人ノ場所ヲ充スベク撰バルベク持ツ或ハ彼等ハ當ニ議會ノ外方カラ取ラレ能フ 辨論人ハ三ケ年ニ向テ撰舉サル、而テ司長ハ六年ニ向テ撰バル、乍然司長ノ半數ハ三年ノ終リニ於テ彼等ノ役目ヲ止メルベク持ツ

第七 其レハ六年ニ向テ彼等ノ位地ヲ保ツベク議員ノ或ルモノヲユルスベク賢キ企テデアル如何トナレバ若シモ全議員ガ各三年ニ變更サレシナラバ議會ハ如何ニ其レノ仕事ヲ爲スベクカチ學ブニ於テ其レノ時ノ殆ンド全キモノヲ取ルデアロー故ナリ

何ヲ彼等ガ爲スカ

第八 州ノ議會ハ爲スベク事務ノ澤山ヲ持ツ彼等ノ公道而テ警察ノ後ニ眺ムルベク持ツ 彼等ハ風癩病院而テ改正スベキ學校ノ氣付ヲ取ル 彼等ハ地方ニ於テ住スル處ノ人民ニ依

テ仕拂ハレシ租税(我國ノ地方税戸數割ノ如シ)ヲ徵集シ而テ彼等ハ仕遂グルベク多ノ他ノ  
要用ナル職務ヲ持ツ

第十五節

グレートブリテン及びアイルランド全ク州ノ議會ノ誠ノ事務

第一 州ノ議會ノ仕事ハ國會ノ仕事ニ迄甚ダ異ナリタル一ノ仕方ニ於テアル如何トナレバ  
タトヒ彼等ノ仕事ノ部分ハ法律而テ規則ヲ制定スベクアルトハ雖モ遙カ最モ要用ナルモノ  
ハ彼等ハ既ニ制定サレテアル處ノ法律ヲ運用スルベクアル 此道理ニ向テ其レハ只其等ノ  
人ガ職務ニ於テ經驗シタ而テ其人ハ強ク働ク人デアアル處ノ議會ニ迄撰舉サル、テアロー  
ハ最モ必要デアアル 只演說ヲ爲シ而テ職務ニ迄氣付ヲ與ヘヌ處ノ人ハ國會其レ自ラニ於テ  
ヨリハ州ノ議會ニ於テ猶ホ一増不用デアアル

オールドウェイクニユフレンド新キ顔ト共ニ舊友

第二 私ハ州ノ議會ハ全ク新クアルヲ云々而テ彼等ノ現在ノ形チニ於テ全ク左様デアアル  
乍然其レハ多クノ他ニ於テノ如ク英吉利西ノ人民ハ或ル昔時ノ習慣ニ迄或ハ彼等ノ過去  
ノ歴史ニ於テ或ル昔ノ政度ニ迄顧慮スベク而テ其レヲシテ全ク新ラシキ而テ奇ナル或ルモ  
ノヲ創設スベクヨリハ彼等ノ行爲ニ向テ手本トナスベク撰ブヲ此ノ事柄ニ於テ注意スベ

ク面白ク利益デアアル

第三 州ノ仕事ヲ爲スベク州ニ於テ人民ニ依テ撰舉サレシ州ノ議會ヲ有ツノ其ノ企テハ  
少ナクトモ一千年昔ニ於テアル 而テ企テ其レ自身ノミナラズ乍然州其レニ迄議會ガ屬ス  
ル處ノ州ノ其名而テ彼等ニ於テ部分ヲ取ルベク撰舉サル、處ノ人ノ名ガウイリヤムコンカ  
ラーノ時代前長ク英國ノ歴史ニ於テ見出サルベクアル 若シモ吾々ガ新聞紙ヲ今日取り上  
ルナラバ吾々ハ其氏某氏ガリンドセーノ地方ニ向テ司長トシテ撰舉サレタヲ或ハソーク  
オフピーターポロー而テアイルスオフエリイニ向テ州ノ議會ガ仕事ヲ爲スベク會議シタル  
ヲ見ルデアロー

第四 乍然若シモ吾々ガアングロサクソンノ年代記ニ迄新聞紙カラ向キ變ルナラバ  
英國ノ歴史其レノ大ナル部分ハ汝ガ知ル如ク八百四十九年ニ於テ生レテアリシ處ノアルフ  
レツド大王ノ時代ニ於テ書カレシ英吉利西ノ歴史ニ迄向キカエルナラバ——吾人ハ吾  
々ガ頂度今日ノ新聞紙ニ見タ處ノ其名而テ其場所ニ見出スデアロー 吾々人如何ニアルダ  
ーマン或ハエルダーンガ平和ト而テ戦争ニ於テ人民ノ頭首デアリシカチ見出ス吾々ハ今  
日州ノ議會ニ迄其レノ名ヲ與ヘル處ノ同シソンドセーナルリन्दイスワーラス或ハリन्द  
セーノ人民ノ物語ヲ見出ス吾々ハアイルスオフエリイヲ見出ス而テワークオフピーターボ

ローノ其名ガサクソン時代ニ迄後ロニ吾々ヲ取ル如何トナレバソク其レ自ラサクソン語  
デアアル處ノソクハ朝廷或ハ議會ヲ保ツノ權利ヲ意味スル處ノフツクカラ來ル故ナリ  
而テ實ニソクニフオルクムトツ或ハ人民ノ議會ガアリシ——其レノ議員ハ頂度今日ノ  
新ラシキ州ノ議會議員ガ同シ目的ニ向テ撰舉サル、如ク州ノ仕事ヲ爲スベク撰舉サレシ處  
ノ議員ナリ

エグヰョーレウエーシーイングリスツツラン  
善長ナル古方英人ノ企

第五 而テ其等ハ只例デノミアラヌ 英國ヲ越ヘテ總テ吾々ハ彼等ガ今日ニ於テ吾々ニ迄  
アル如ク一千年以前吾々ノ祖先ニ迄左様ニ親クアリシ處ノ名ヲ見出スデアロー 而テ左様  
ニ其レハ吾々ノ州ノ議會ヲ制定スルノニ於テ誠デアアル吾々ハ今一度過去ノ仕事ニ於テ價值  
アリ而テ要用デアリシ處ノ總テヲ保ツノ而テ左様ニ吾々ノ現在ノ必要ニ向テ要用デアアル如  
ク其レニ迄附ケ加ヘルノ而テ其レヲ形ヲ造ルノヨキ古キ英吉利西ノ企テヲ續ケタ

第七章

ローランドヂヤステイル  
法律而テ公正

第一ノ階級ニ於テ私ハ最初ノ要用ニ付テトシテ法官ヲ置ク  
其レハ共ニ社會ヲ保ツ處ノ公ケノ公正デアアル

(註吾人ハ第一ニ法官ノ事ヲ論セン是レ蓋シ司法ハ社會公共ノ安寧ヲ保存スルノ要具タル  
ヲ以テナリ

第十六節

ジョーナルトランサンドジョーニエー  
舊法而テ新法

一 世界ニ於テ總テ開ケタル國ニ於テ其處ニ司法ノ法廷ニ於テ裁判官其人ノ義務ハ彼等ノ  
權利ニ付テ一致スベク不適當デアアル處ノ人民ノ間ノ爭論ヲ決定シ而テ法律ヲ破ル處ノ其等  
ヲ試ミ而テ罪スル處ノ裁判官ガアル

第二 只野蠻ノ而テ未開ノ國ニ於テ其處ニ裁判官が見出サルベクアラヌ 斯様ナル場所ニ  
於テ爭論ハ猶其等其人ハ最モ強クアル處ノ其等ハ何ンデモ彼等ガ抵抗スルベク余リ弱クア  
ル處ノ他人カラ彼レガ欲スル處ノモノヲ取ル處デ腕力ニ依テ決定サル、英國ノ早キ歴史  
ニ於テ汝ハ同シ惡キ企テガ續ケ行ハレシ片ノ時代ヲ見出スデアロー 而テ長官或ハ 裁判官  
ノ前ニ彼等ノ請求ヲ提出スルノ代リニ人ガ寧ロ應用スベク撰ブ時ノ時代ヲ見出スデアロ

善キ古法昔時ノ企テ—— 權力ヲ有ス處ノ彼レヲシテ取ラシムルベク而テ能フ處ノ彼  
レヲシテ保タシムベク

(註ヨキ昔時方法ト稱スルモノハ權力アルモノ己レノ欲スルマ、ニ行ヒテ之ヲ取リカノ及  
ブモノハ之ヲ有ス)

第三 汝ハ此ヨキ古法ハ實際ニ於テ甚ダ悪キ方法ニ於テアリシヲ見ル前甚タ永ク考ヘル  
ベク要セヌデアロー 事實ニ於テ人民ガ彼等ハ彼等自身正シク考ヘル仕方ニ於テ彼等自身  
ノ喧嘩而テ彼等自身ノ爭論ヲ定メルベク丈ケ其レ丈ケ長ク其處ニハ決テ國ニ於テ平和ト而  
テ満足ガアラヌデアロー

ジバッドカールドゥチ  
悪キ古法

第四 而テ左様ニ其レハ猶又罪ヲ犯ス處ノ其等ノ人ノ刑罰ヲ以テアル 其處ニハ英國ニ於  
テ若シモ一人ガ他人ヲ殺セシナラバ殺害サレシ人ノ朋友而テ親族ガ彼等自身武器ヲ用意シ  
而テ殺害人ノ家ヲ攻撃シ而テ彼レノ生命ヲ取ルベク試ルベク用非シ時ノ時代ガアリシ 勿  
論其レハ時々犯罪ノ朋友ガ被害人ノ其等ヨリヨリ多クカラ強クアリシヲ而テ彼等自身ノ方  
ニ於テ權利ヲ有タ處ノ仲間ガ撃タレシ而テ事柄ハ彼等ガ前ニアリシヨリハヨリ多ク悪クア  
ルサエモナリシ事ガ起リシ

第五 而テ實ニ何レノ方ガ成功アリシトモ結果ハ彼等或ハ彼等ノ朋友ガ受ケタ處ノ害ヲ復  
讎スベク彼等自身企テシ處ノ其等ノ人ニ向テ悪クアリシ而テ總テノ時ニ於テ吾々ガ心裡ニ

保ツデアロー處ノ二ツノ大ナル規則ヲ忘レシ

トウールス  
二ツノ規則

第一 其レハ唯一人モ彼自身ノ訴訟ニ於テ裁判官デアラヌデアロー

第二 其レハ何人モ彼レ自身ノ手ニ迄法律ヲ取ラヌデアロー

第六 是等ノ二ツノ要用ナル規則ガ觀察サル、デアローノ爲メニ企ガ總テノ爭論ニ於テ  
聞キ而テ決定スベク而テ總テノ犯人ヲ試ルベク或ル人ヲ任用スルヲニ付テ總テ開明國ニ於  
テ應用サレタ 是等ノ人ハ汝ノ知ル如ク裁判官而テ裁判長官其人ニ迄決定ヲ與ヘルベク而  
テ刑罰ヲ與ヘルベク權力ガ與ヘラル、

ジバッド  
裁判判事

第七 其レハ裁判官ガ恐レ或ハ惠ミナシニ而テ完全ナル公明ヲ以テ彼等ノ職務ヲ爲スデア  
ローノハ必用デアアル 此道理ニ向テ彼等ハ彼等ノ終身間ニ向テ任用サル、而テ必用ガ左様  
ニ爲スベク國會ニ依テ女王ニ爲サル、時ニ悪キ行ニ向テ只免職サレ能フ

第八 斯様ニ終生ニ向テ任用サレタ處デ裁判官ハ完全ニ公明デアアルベクヨリ多ク好マシク  
アル如何トナレバ彼等ハヨリ遙カナ惠ミニ迄前ニ眺メ能フ而テ如何ニ彼等ハ彼等ガ只數年  
ニ向テ彼等ガ務メタ後他人ニ迄途ヲ與ヘルベクアリシ場合ニ於テ彼等ガ爲スベク持ツデア

ロー如ク彼等自身ニ向テ最モヨク意用シ能フカニ付テ考ヘルベク持ツテ無シニ彼等自身ノ働キヲヨク爲スベク總テ彼等ノ考ヘ而テ總テ彼等ノカラヲ與ヘ能フ故ナリ

裁判官ノ職務

第九 其レハ汝ハ記臆スル國會ニ依テ爲サル、處ノ法律ヲ制定スベク裁判官ノ仕事デアリヌ 乍然何ンデモ彼等ガ爲スベク持ツ處ノモノハ國會ガ制定シタ法律ガ破ラレタカ或ハ國會ガ付テ讚成シタ規則ガ服従サレタカラ決定スベクアル

第十 此外ニ彼等ハ如何ナル刑罰ガ其等其人ハ法律ヲ破ル處ノ其等ニ迄與ヘラル、デアロ一カチ云フベク持ツ 乍然汝ハ裁判官或ハ司法官ガ何ンデモ彼レガ好ム刑罰ヲ與ヘ能フ事ヲ察シテハナラヌ反對ニ於テ彼レハ只法律ニ依テ定メラレシ規則ニ迄従フテ各々ノ罪ヲ罰スベク免サル、 例令バ二人ガ家ニ迄破ルベクアリシ而テ人民其人ニ迄家ガ屬スル處ノ人民ヲ奪フベクアリシヲ察スル

第十一 其レハ彼等ガ罪ノ犯人デアルトガ證據立テラル、時ニ法律ガ何レモ十四年間ニ於テ牢獄ニ迄送ラル、トニ依テ罰セラレ能フヲ云フ 其レハトハ雖モ二人ノ一人ガ前ニ牢獄ニ迄送ラレタテ而テ他人ハ常ニ善良ノ性質ヲ持タ乍然彼レノ仲間ニ依テ彼方ニ導カレタテガ起生シ能フ 然ル時ニ裁判官ガ法律ガ免ス丈ケ其レ丈ケ長ク全キ十四年間ニ向テ牢獄ニ

迄一人ヲ送ルデモアロー乍然他ノモノヲ彼レハ彼レガ教戒ニ依テ利益ヲ得而テ後年正直ナル生治ヲ導キ能フノ望ニ於テ只六ヶ月ニ向テ牢獄ニ迄送ルデアロー 左様ニ汝ハ裁判官ハ刑罰ヲ變更スベク權利ヲ持タテ見ルデアロー乍然彼レハ決テ何ンデモ法律ガ許ス處ノモノヲ越ヘテ或ル人ヲ罰シ能ワヌ

陪審官

第十二 私ハ只判事ニ付テ總テ此時汝ニ迄話シツタ乍併私ガ敢テ云フ汝ノ最モ多クガ知ル如ク裁判廳ニ於テ判事ノ外ニ其處ニ一般ニ陪審官ガアル 何ンデ陪審官ガアルカ 如何ニ其レノ用ガアルカ 而テ何ヲ其レガ爲シ爲スカ

第十三 囚人ガ試ミラルベクアル時ニ十二人ガ近隣ニ於テ住スル處ノ人民ノ長キ表カラ圖ニ依テ撰バル、而テ其ハ囚人ノ爲ニ或ハ逆フテ云ハル、處ノモノヲ聞クベク何ンデ裁判官ガ法律ニ付テ彼等ニ告グル處ノモノニ迄聽聞スベク而テ然ル時ニ囚人ガ有罪人或ハ無罪人デアルト考ヘルカラ云フベク彼等ノ仕事デアル 是等ノ人ハ陪審人ト稱ヒラル、而テ各々ノ英人ハ陪審官ニ依テ試ミラル、ベク權利ヲ持ツ

陪審人ノ要領

第十四 陪審官ノ大ナル要用ハ只彼レノ訴訟ヲ聞ク處ノ人ガ彼レノ敵或ハ彼レノ朋友デア

ル故ニ囚人が不正ニ罰セラレ或ハ不正ニ放免サレヌデアローノ儘メヲ爲スベクアル 汝ハ若シモ裁判官が只決定スベクアリシナラバ其レハ彼レガ囚人ヲ嫌フ故ニ或ハ彼レガ人其人ヲ囚人が害シタ處ノ人ノ朋友デアアル故ニ或ハアル他ノ道理ニ向テ左様ニ不正ニ爲スベク導カレ能フハ出來ベクアルヲ見ルデアロー 乍然十二人が大ナル數カラ偶然ニ依テ取ラル、時ニ其レハ彼等ガ囚人ノ總テ朋友或ハ敵デアアルデアローハ好マシクアラヌ 實ニ其レハカ、ルノハ殆ンド不適當デアアル 其レハ彼等ガ何レモノ方ニ迄公正デアアルデアローハ多クヨリ多ク好マシクアル 而テ此仕方ニ於テ陪審人ハ公正及ビ司法ノ訴訟ヲ助ケル

第十五 人が英國或ハ愛蘭土ニ於テ陪審人ニ依テ試ラル、時ニ其レハ總テノ陪審人が彼レガ犯罪人或ハ無罪人ト發言サル、前ニ一致サレテバナラヌ 蘇國ニ於テ陪審人ハ十五人ヲ算ス而テ規則ハ多數ガ決定スルデアアル詳言スレバ若シモ十五人カラ八人が囚人が罪其レヲ以テ彼レガ罪サレテアル處ノ罪ヲ犯タノ考ヘルナラバ然ル時ニ彼レガ犯罪人ト布告サル、

第十六 陪審人ノ決定ハ彼等ノ裁判案ト稱セラル而テ裁判案ガ與ヘラレタ時ニ然ル時ニ其レハ宣告ヲ發言スベク而テ刑罰ヲ附與スベク裁判官ノ順番デアアル次キノ章ニ於テ私ハ陪審人而テ裁判官ノ前ニ吟味ノ話ヲ汝ニ與ヘルデアロー而テ規則其レニ依テ司法ノ仕事ガ爲サル、處ノ規則ヲ汝ニ迄試ミ而テ説明スルデアロー

第八章

吟味

法律ハ人ノ尊敬者デアラヌ (註法律ハ人ノ上下ニ從フテ區別セズ則チ何人トモ貴賤上下ノ差別ナク法律ノ前ニ等シキナリ)

第十七節

格言

第一 私ハ今裁判官ノ前ニ法廷ニ於テ吟味ノ話ヲ汝ニ與ヘルベク進ミツ、アル 乍然第一ニ汝ハ大ナル規則其レハ何處デモ英國ノ法律ガ運用サル、處ノ法廷ニ於テ觀察サル、ヲヲ學バテバナラヌ 彼等ハ數ニ於テ四ツデアアル而テ次ノ如クアル

- 一 各人ハ法律ノ前ニ等クアル
- 二 各人ハ彼レガ犯罪人デアアルベク證據立テラル、迄無罪デアアルベク保タル、
- 三 何人モ同シ犯罪ニ向テ二度吟味サレ能ハヌ

四 總テノ法廷ハ公衆ニ迄開カル、

是等ノ四ツノ大ナル規則ニ迄汝ハ汝ガ既ニ學ンダ處ノ他ノ二ツガ附ケ加ヘラル、 彼等ハ次ノ如クアル

五 何人モ彼自身ノ訴訟ニ於テ裁判官デアラヌ

六 何人モ彼自身ノ手ニ迄法律ヲ取ルベク權利ヲ有セヌ

第二 今吾々ハ吾々ノ規則ヲ得タ吾々ヲシテ如何ニ彼等ガ働クカラ見セシメヨ

ジークライム  
罪

吾々ヲシテ盜罪ガ犯サレタ而テ白日ノ間ニ家カラ銀ノ匙ガ盜マレタト察セシメヨ

第三 警官ハ第一ニ彼等ガ盜罪ニ付テ能フ總テヲ見出ス 彼等ハ家ノ所有主カラ尋問ヲ問フ彼等ハ盜罪ノ時ニ於テ近邊ニアリシ處ノ總テノ人民ヲ試験スル 遂ニ彼等ハ彼等ヲシテ特別ノ人ヲ疑フシムベク充分知ル而テ彼等ハ彼レヲ囚人ニ取ルベク彼レヲ免ス爲メニ捕牒(合狀)ニ向テ裁判官ニ迄行ク如何トナレバ彼等ガ實際ニ罪ヲ犯ス處ノ人ヲ見ルニ非ザレバ巡查デスラモ斯様ナ合狀無ニ囚人ニ彼レヲ取り能ハヌ

第四 起ル處ノ次ギノモノハ囚人彼レ自ラガ裁判官ノ前ニ持チ來サル、トデアアル而テ若シモ其レガ警官ハ囚人ガ實際ノ盜賊デアルトヲ考ヘルベク明ラカナ道理ヲ持ツトガ裁判官ニ

迄見ユルナラバ然ル時ニ彼等ハ吟味ニ向テ彼レヲ托スルデアロト詳言スレバ彼等ハ裁判官ガ彼レヲ吟味スベク來ル迄持ツベク牢獄ニ迄後ロニ彼レヲ送ルデアロト 其處ニハ只少シノ罪ガ犯サレタ處ニハ司法官(註マデスドレトハ純粹ノ裁判判事ニ非ズシテ司法行政ノ權ヲ兼有スル知事ヲ云フ)ガ彼等自身罪人ヲ吟味シ能フ而テ若シモ彼等ガ彼レハ罪人デアルトトヲ見出スナラバ彼等ハ牢獄ニ迄彼レヲ送り能フ乍然總テヨリ多ク嚴重ナル罪ハ判事ニ依テ吟味サル、

第五 囚人ガ彼レノ吟味ニ向テ待ツベク牢獄ニ迄送り下サレシ時ニ彼レハ只閉チ上ダラレ而テ安全ニ保タル、彼レハ試ミラレタ而テ罪人ト見出サレタ處ノ其人等ノ如ク苦シキ勞働ヲ爲スベクナサレヌ如何トナレバ私ガ規則第二ニ於テ汝ニ告ゲタ如ク各人ハ彼レガ罪人デアアルベク證據立ラル、迄無罪デアアルベク保タル、故ナリ

ジークライム  
告 訴

第六 時ノ後裁判開庭ガ始マル詳言スレバ裁判官ガ町ニ迄來ル而テ囚人ヲ試レベク始ムル 乍然總テノ第一ニ各囚人ノ訴訟ガ訴ヘラレタル人ガ罪其レヲ以テ彼等ガ罪サル、處ノ罪ノ罪人デアルトトノ實際ノ證據ガ其處ニアルカ或ハアラヌカヲ言フベク其人ノ職務デ其レガアル處ノ二十三人ノ体デアアル處ノ大陪審官ト稱セラル、處ノモノ、前ニ持チ來サル、

若シモ大陪審官ガ訴訟ガ認告デアツタト或ハ何人モ實際告訴サレシ人ガ何ンデモ彼等ガ以テ告訴サレテアル處ノモノヲ爲セシカ或ハ爲サヌカチ云ヒ能ワヌトヲ考ヘルナラバ然ル時ニ彼等ハツマリ裁判官ニ迄行ク處ノ訴訟ヲ止メルベク權利ヲ持ツ而テ囚人ガ自由ニ置カ

法廷

第七 乍然若シモ普通ニ起ル如ク彼等ハトニカク其處ニハ警官ガ正シクアルト而テ彼等ガ實際ノ罪人ノ保チヲ得タトヲ信ズルトニ向テ或道理ガアルト考ヘルナラバ然ル時ニ彼等ハ法廷ニ於テ判官而テ陪審人ニ依テ吟味サル、可ク訴訟ニ於テ送ル 遂ニ家ヲ奪フトニ付テ告訴サレテアル處ノ囚人ノ名ガ呼バル、而テ彼レハ法廷ニ迄持チ來タサル、 彼レノ前ニ於テ彼レノ假髮ト而テ公服ニ於テノ裁判官ガ座スル而テ判事ノ一方ニ於テ近隣ニ於テ住スル處ノ人ノ大ナル數カラ抽閣ニ依テ撰マレシ數ニ於テ十二人ノ陪審人ガ座スル 罪人彼レ自ラハ彼レガ巡查ニ依テ番サル、處ノドツク (廷法ニテ罪人ノ座スル處ニ迄置カル、  
第八 乍然是レガ總テアラヌ如何トナレバ裁判官陪審人而テ囚人ノ外ニ汝ハ判事ノ反對ニ座スル處ノ假髮ト而テ黒キ上衣ニ於テノ二三人ヲ見ルデアロー是等ハ如何ニ訴訟ガ囚人ニ逆フテアルカラ示スベク而テ若シモ彼等ガ能フナラバ一方ニ於テ彼レガ罪人デアルトヲ

證據立ルベク其人ノ職務デ其レガアル處ノ代言人デアアル而テ其人ノ職務ハ其レガ他方ニ於テ罪人ヲ辨護スベク而テ無罪ト彼レヲ試ミ而テ證據立ルベクアル 第一ノモノガ政府或ハ詞訟ニ向テ辨論人ヲ意味スル處ノ帝王ニ向テノ辨論人ト稱サル、第二ノモノハ罪人ノ爲メノ辨論人デアアル

第十八節

代言人

第一 汝ハ恐ラクハ其レハ總テニ於テ代言人ヲ持ツベク必要アルデアロー事ハ奇ト考ヘルデアロー而テ其レハ其レガ囚人ヲシテ彼レ自身ニ向テ話サシムベク而テ罪ヲ犯ス彼レヲ見シ處ノ人民ヲシテ彼レニ逆フテ話サシムベクヨリヨクアルデアロー事ヲ考フルデアロー其レハ公正ガ雙方ニ於テ尋問ヲ問フ可ク法律ヲ知ル處ノ人ヲ持ツトノ此企テガ應用サル、時ニ最モヨク爲サル、デアロートガ見出サレタ此仕方ニ於テ囚人ニ逆フテ云ワレ能フ各々モノ而テ彼レノ利益ニ於テ云ハレ能フ各々ノモノガ云ハル、而テ兩方ガ彼等ガ能フ總テヲ爲タ時ニ然ル時ニ裁判官而テ陪審人ガ實際ノ其理ガ横ハル處ニ迄彼等ノ心ヲ定メル可ク適シテアル

第二 時々實ニ囚人ハ或ル代言人ノ扶助無ニ彼自身ニ向テ話スベク好ム而テ彼レハ常ニ左



様ニ爲スベク權利ヲ有ス 乍然訴訟ノヨリ大ナル數ニ於テ彼レハ此權利ヲ用非爲サヌ而テ  
彼レハ左様ニ爲スコニ於テ賢クアル如何トナレバ僅カノ人民ハ彼等ガ無罪デアルカ或ハ有  
罪デアルカ彼等ガ法廷ニ於テ持チ來タサレ而テ罪ニ付テ告訴サレシ時ニ全ク明白ニ彼等ノ  
思考ヲ保ツベク適シテアル 其上其レハ必要デアリ能フ處ノ總テノ問題ニ迄問フベク而テ  
答フルベク機敏ナル而テ教育サレシ人民ニ向テマサヘモ困難デアル而テ彼等ハ試ルコトニ依  
テ善ヨリハ彼等自身害ヲ爲スベクヨリ多ク好マシク多クアル

第三 法廷ノ殘リノモノハ吟味ヲ聞クベク願フ處ノ人民ヲ以テ滿タシ上ゲラル、而テ若シ  
モ其處ニ室ガアルナラバ汝或ハ私ガ内ニ行キ而テ吾々自身尊敬ニ而テ靜ニ身ノ行スル丈ケ  
其レ丈ケ長ク其處ニ止マリ能フ如何トナレバ公正ノ總テノ法廷ハ公衆ニ迄開カル故ナリ

判事

第四 乍然私ハ吟味ニ付テ汝ニ告ゲルベク始ル前ニ私ハ法廷ニ付テ一二ノモノヲ注意スベ  
ク汝ヲ要スル 總テノ最初ニ裁判官ガ入り來ル時ニ各人ハ尊敬ノ記シトシテ彼レノ座カラ  
起ツ而テ何人デ彼レガアロートモ彼レニ關セズ各々ノ人ハ彼レノ帽子ヲ取り去ル而テ裁判  
官ガ現在シテアル丈ケ其レ丈ケ長ク彼方ニ其レヲ保ツ 是レハ正シクアル如何トナレバ總  
テノ人民ノ善ニ向テ彼レノ仕事ヲ爲ス處ノ裁判官ハ吾々ノ尊敬ヲ値シテアル故ナリ而テ彼

處ニ國ニ於テ囚人ハ此尊敬ヲ感ズベク而テ彼レガ感ズコトヲ示スベク屬セヌ人ハ一モアラヌ  
如何トナレバ各々ノ人ハ法律ノ前ニ平等デアル故ナリ

裁判官ガスコイ子而テ太子ヘンリーノ話

第五 汝ノ英國ノ歴史ヲ記憶スル處ノ汝ノ其等ハ判事ガスコイ子而テ太子ヘンリーノ話ヲ  
知ルデアロー 其レハ法律ヲシテ尊敬セシム可ク判事ノ職務ニ付テ而テ富人及ビ貧人モ等  
シク法律ニ從フベク各人ノ義務ニ付テ吾々ニ迄ヨキ教戒デアアル プリンス ヘンリー其人  
ハ其後英國ノヘンリー五世ト爲リシ處ノ太子ヘンリーハ彼レノ若年ニ於テ惡キ仲間ト共ニ  
住ムベク而テ屢々賤ムベキ喧嘩ニ於テ混ズルベク慣ラサレシ惡漢デアリシ

第六 一日其レハ太子ノ友ノ一人ガ或ル罪ノ犯行ニ向テ大法官ガスコイ子ノ前ニ持チ來タ  
サレシ 若キ太子ハ彼レノ朋友ノ擒ニ於テ怒テ而テ國王ノ息子而テ王位ニ迄ノ後嗣トシテ  
彼レハ大法官ヲ恐怖サスベク適當シテアルデアローコトヲ信ズル處デ法廷ニ於テ現ハレシ而  
テ脅迫スル處ノ言語ニ於テ彼レノ劍ニ於テ彼レノ手ヲ横ヘシ而テ囚人ヲ免スベク裁判官ニ  
命令セシ

第七 乍然ガスコイ子ハ彼レノ官職ノ義務ニ付テ氣付ケ多クアリシ而テ法律ハ人ノ尊敬者  
デアラヌコトヲ記憶セシ 左様ニ囚人ヲ免スコカラ遙カ彼レハヘンリー彼レ自ラガ國ノ裁判

官ノ一ツヲ凌辱スルベク敢テスルコトニ向テ牢獄ニ迄入レラル、デアロー<sup>ト</sup>ノ命令ヲ與ヘシ其レ故ニ話ニ迄從フ處デ牢獄ニ迄太子ガ行キシ而テ其レガ云ハル、彼レノ信用ニ迄其レハ左様ニ裁判官ノ所爲ヲ非難スルコトカラ遙カ彼レハガスコイテガ顯ハシタ處ノ勇氣ト而テ智識ヲ認識シ而テ尊敬セシ

第八 彼レノ父ヘンリイ第四世ガ何ンデモ起タ處ノモノニ付テ告ゲラレシ時ニ彼レハ云シ彼レノ議務ノ責任ニ於テ左様ニ決斷アル裁判官ヲ持ツ處ノ而テ法律ノ權力ニ迄服從スベク左様ニ喜ブ處ノ息子ヲ持ツ處ノ國王ハ幸福デアアル 左様ニ誠ニ其レハ等ク總テニ向テ平等デアアラヌ處ノ公正司法ハ少シモ公正デアラヌ

第九 乍併吾々ヲシテ吟味ニ迄後ヘ歸ヘラシメ而テ何ガ起生スルカラ見セシメヨ  
陪審人

總テノ最初ニ陪審官ハ彼等ノ前ニ來ルベクアル處ノ尋問ヲヨク而テ誠實ニ試ムルベク誓詞ヲ取ルベク爲サル 誓詞ヲ取ルベク其レガ不正デアアルコトヲ考ル處ノ其等ノ人ハ其レハ勿論實際誓詞ダケ其レダケ全クアル而テ其レハ全ク破ルベク不正デアアルデアロー處ノ嚴格ナル約束ヲ爲スベク免サル、(註英國ニ於テピュリタン宗門ノ徒誓詞ヲ爲スコト拒ムヲ以テ斯クハ云フナリ)

吟味 ジョウミ

第十 吟味ガ始マル 第一ニ訴訟ニ向テノ辨論人(則チ檢察官ヲ云フ)ガ何故ニ其レハ囚人ガ其レヲ犯シタコトニ付テ疑ハル、コデアアルカ而テ如何ニ彼レガ爲セシコトヲ證據立テルベク進ミツ、アルカ罪ノ歴史ヲ陪審人ガ告ゲル 如何トナレバ各々ノモノハ證明サレテバナラヌ如何トナレバ汝ガ記憶スル如ク各々ノ人ハ彼レガ有罪デアアルベク證據立ラル迄無罪デアアルベク保タル故ナリ 左様ニ其レハタトヒ裁判官而テ陪審人ハ囚人ガ實際有罪デアリシコデアリ能フヲ慥メテアルトハ雖モ法律ハ何ンデモ彼等ガ考ヘシ處ノモノガ眞實デアアルベク證明サルベクアリシニ非ズレバ彼レヲ罪スルベク彼等ヲ免サヌデアロー

證人 ジョウジン

第十一 辨論人ガ彼レノ演說ヲ終ツタ時ニ彼レハ彼レノ證人ヲ呼ブベク始ムル詳言スレバ彼レハ犯サレシ罪ヲ見タ處ノ或ハ其レノ前或ハ後ニ起タ處ノモノヲ見タ處ノ而テ其レハ囚人ガ實際ノ罪人デアリシコトガ好マシク爲サシム處ノモノヲ見タ處ノ總テノ人民ヲ呼ビ而テ尋問スル 例令バ一ツ證人ハ彼レガ匙ガ盜マレシ前ニ頂度開キシ處ノ戸ヲ見シコトヲ云ヒ能フ 他ノ者ハ彼レハ頂度其後ニ町ヲ通シテ走ル處ノ囚人ヲ見シコトヲ云ヒ能フ 而テ第三者ハ他日囚人ガ或ル銀ノ匙ヲ彼レニ賣ルベク申出セシコトヲ云ヒ能フ 今是等ノモノノ一ノミ

ガ多クヲ顯ハサヌ乍然共ニ取ラレテ彼等ガ澤山ヲ示スデアロー  
第十二 汝ハトハ雖モ一ツノ證人ガ付テ話スベク或ハ其レガ稱セラル、如ク彼レガ唯ダ他  
人カラ聞タ處ノ一ニ付テ證明ヲ與ヘルベク許サレヌヲ注意セテバナラヌ 其レハ彼レハ  
彼レガ牢獄ニ送他人ヲ送ル一ニ於テ終リ能フ處ノ證明ヲ與ヘツ、アル時ニ彼レガ許サル、  
事ハ何ンデモ彼レガ彼自身見タ處ノモノ而テ何ンデモ彼レガ彼レ自身知リシ處ノモノデア  
ル

第十三 其レハ此規則ヲ記憶スベクヨクアルデアロー而テ實ニ吾人ハ吾々自身ニ向テ規則  
ト其レヲ爲スベク而テ如何ニ其レガ付テアロートモ而テ特別ニ若シモ其レガ他人ノ不信用  
ニ迄或ルモノデアアルナラバ如何ニ吾々ガ單ナル傳聞或報告ヲ信用スルカヲ甚ダ氣付ケ多ク  
アルベクヨク爲スデアロー 最大ノ害ガ余リ容易ク害惡ヲ信用スル一ニ由テ屢々爲サレタ  
而テ法律ハ傳聞ノ證明ハ受ケ取ラレヌデアロー事ヲ規則トシテ下ニ其レヲ横ヘル一ニ依テ  
甚ダ賢クアル

第十四 彼レガ進ミ來ル時ニ各々ノ證人ハ陪審人ノ如ク誓詞ヲ取ルベク或ハ其他彼レガ眞  
誠全キ眞誠而テ眞實ノ外何モアラヌデアロー事ヲ嚴格ニ慥ムルベク爲サル、而テ若シモ彼  
レガ故意ニ眞實ヨリ多ク或ハ眞實ヨリ少ナク或ハ何ンデモ眞實デアラヌ處ノモノヲ告ゲル

ナラバ彼レハ假誓ト稱サレシ法律ニ反シテ罪ヲ犯ス而テ其レヲ吾々ガ時々虚妄ノ證明ヲ保  
ツトシテ話ス而テ其罪ニ向テ彼レハ嚴重ニ罪サル、如何トナレバ其レハ總テノモノ上ニ眞  
實而テ只眞實ノミガ法廷ニ於テ話サル、デアロー事ハ必用デアアル故ナリ

第十九節

シイブゾチースケイン  
囚人ノ訴訟

第一 原告訴訟ニ向テ辨論人ガ各々ノ證人ヲ尋問スル一ヲ終リシ時ニ囚人ノ爲メノ辨論人  
ガ再ビ若シモ彼レガ能フナラバ何ンデモ彼レガ云タ處ノモノガ不正デアアル一或ハ彼レハ證  
人ガ實際知ルヨリ少ナク或ハ多ク云タ一或ハ彼レハ囚人ノ利益ニ於テアル處ノ或ルモノヲ  
略シタ事ヲ示ス爲ニ彼レニ尋問スル 然ル時ニ第一ノ辨論人ガ彼レガ爲タ或ル誤謬ヲ校正  
スベク證人ヲ許スベク如ク左様ニ備カノヨリ多クノ尋問ヲ問フ而テ然ル時ニ次ノ證人ガ呼  
バル、是レガ訴訟ニ向テ即チ原告ノ總テノ證人ガ試験サレタ迄進ム

第二 然ル時ニ罪人辨護人ノ順番ガ來ル彼レハ彼レノ方ニ迄都合宜シキ証人ヲ呼ブ 彼レ  
ハ例令盜罪ガ犯サレシ時ニ罪人が町ノ或ル他ノ部分ニ於テアリシ一或ハ彼ガ賣却セシ匙ハ  
囚人ノ自身ノ財産デアリシ一或ハ囚人ガ無罪デアリシ一ヲ示スベク助ケル處ノ其他或ル  
モノヲ證據立テル處ノ或ル人ヲ呼ブ 總テ是等ノ證人ハ彼レ等ノ順番ニ於テ頂度他ノモノ

ガアリシ如ク只此時原告ノ辨論人ニ依テ細密ニ試験サレシ而テ彼レ等ノ如ク再試験サル、  
 第三 然ル時ニ囚人ノ辨論人ガ演舌其レニ於テ彼レガ囚人ノ爲メニ而テ反シテ云ハレタ處  
 ノ總テヲ通シテ行ク處ノ演舌ヲ爲ス而テ何ンデモ彼レノ利益ニ於テ云ハレタ處ノモノガ信  
 用サルベクアルヲ而テ其レハ何ンデモ彼レニ逆フテ云ハレタ處ノモノガ不實デアアルヲ示  
 スベク試ル 總テノ終リニ同シモノヲ爲ス處ノ乍併當底囚人ガ有罪デアアルヲ陪審官ニ示  
 スベク如ク左様ニ他ノ明カニ於テ事柄ヲ置ク處ノ原告ノ辨論人ノ演舌ガ來ル

ジイッソマリトツツアソクアデイト  
 統計而テ決斷

第四 若シモ事柄ガ此處ニ止マルナラバ汝ハ憐レナル陪審官ハ左様ニ多ク兩方ニ於テ云ハ  
 レタ彼ニ彼等ノ心ヲ決定スベク甚ダ困難ナル仕事ト其レヲ見出スデアロー事ヲ想像シ能フ  
 乍然幸ニ其處ニハ彼等ヲ扶ケルベク裁判官ガアル其レハ今統計詳言スレバ兩方ニ於テ云ハ  
 レタ處ノ總テヲ通シテ進ムベク而テ陪審人ヲ導クベク如何ナル證明ガ要用デアアルカ如何ナ  
 ルモノガ不要デアアルカヲ彼等ニ示スベク而テ何ヲ罪ニ付テ法律ガ云フカヲ彼等ニ説明スベ  
 ク彼レニ向テ今時デアル

第五 然ル時ニ陪審人ガ共ニ評議スル而テ彼等ガ一致シテアル時ニ(六十八頁ヲ見ヨ)彼  
 等ノ重立タル人則チ頭人ガ陪審人ガ有罪或ハ無罪ト見出セシカチ云フベク法廷ノ書記ニ依

テ問ハル、 若シモ裁判案ガ有罪デアアルナラバ裁判官ハ然ル時ニ牢獄ニ送テラルベク而テ  
 苦シキ勞働ニ迄保タルベク囚人ヲ宣告スルデアロー 若シモ反對ニ於テ裁判案ガ無罪デア  
 ルナラバ然ル時ニ囚人ハ自由ナル人トシテ法廷ノ外ニ歩行スルデアロー而テ何事ガ起生ス  
 ルトモ彼レハ決テ盜罪ヲ以テ再ビ告訴サル、トノ危険ニ於テアラヌ如何トナレバ何人モ同  
 シ犯罪ニ向テ二度試ラレ能ワヌ故ナリ

第六 斯様ナル事仕方其レニ於テ裁判所ニ於テ導カル、處ノ吟味デアアル始メカラ終リマデ  
 各々ノモノガ無罪者ヲシテ自由ニ行カシメソシテ有罪者ヲ罪スル事ニ付テ導ク事ニ付テ眞  
 實全ク眞實ソシテ實ノ外ナシニモ見出ス事ノ目的ニ向テナサル、

刑事而テ民事ノ吟味  
 刑事而テ民事ノ吟味

第七 私ハ今囚人ノ吟味ノ說話ヲ汝ニ與ヘタ汝ハトハ雖モ刑事事代人而テ陪審官ノ總テノ  
 時ガ彼等ガ犯シタ罪ニ向テ囚人ヲ試ルヲ以テ取り上ラレテアルヲ考ヘテハナラヌ 其  
 處ニハ彼等ガ爲スベク持ツ處ノ仕事ノ他ノ種類ガアル其レハ殆ンド左様ニ要用デアアル而テ  
 其レハ彼等ノ時ノ澤山ヲ取り上ゲル

第八 昔時ニ於テ而テ野蠻ノ國ニ於テ人ガ腕力ニ依テ彼等ノ爭論ヲ定メタ<sub>ト</sub>汝ニ告ゲシ  
 時ニ而テ公正或ハ公明ノ吟味ナシニ私ハ斯様ニ殺害人或盜賊ノ如ク罪ヲ復讐スル<sub>ト</sub>ノミナ

ラズ乍然人民ノ權利ニ迄トシテ爭論ヲ定メルヲ無シ而テ二人ノ人ガ同シモノヲ請求セシ處ノ問題ヲ決定スルヲ付テ話セシ而テ吾々ガ今罪人ヲ罰スベク吾々ノ裁判官而テ陪審官ヲ用井タ如ク左様ニ吾々ハ一致シ能ハヌ處ノ其等ノ間ニ爭論ヲ一定スベク猶又彼等ヲ用井ル

刑事ノ訴訟

第九 斯様ニ若シモ前ノ章ニ於テノ如ク人ガ盜ムヲ付テ告訴サル、時ニ彼レハ裁判官ノ前ニ持チ來タサレ而テ彼レノ罪ニ向テ試ミラレシ而テ其レハ刑事訴訟ト稱セラル、而テ法廷其レニ於テ吟味ガ起ル處ノ法廷刑事裁判所ト稱セラル、

民事訴訟

第十 乍然若シモ例令バ二人ガ誰ニ迄特別ノ野或ハ家ガ屬スルカラ決定スベク不適當デアル時ナラバ或ハ察スラク其レハ一人ガ他人カラ馬ヲ買タ而テ買人ガ彼レガ馬ヲ得タトハ雖斤金ヲ仕拂ハヌナラバ然ル時ニ各々ノ場合ニ於テ彼等ハ裁判官ノ前ニ事柄ヲ持チ來タスデアロー而テ彼レハ其レヲ吟味スルデアロー而テ何レガ正ニ於テアルカ誰レニ迄野ガ屬スルカ或ハ馬ヲ買タ處ノ人ガ金ヲ仕拂フベク屬スルカラ決定スルデアロー 是レノ如キ斯様ナル吟味ガ民事訴訟ト稱セラル、而テ法廷其レニ於テ其レガ保タル、處ノ法廷ガ民事裁判所ト稱サル、

第十一 私ハ汝ガ今刑法而テ民法ノ間ノ差ヲ見ルデアローヲ望ム 第一ノモノハ斯様ニ殺害人盜賊詐偽竊盜而テ多クノ他ノ犯行ノ如キ斯様ナルモノ、法律ニ反シテ罪ヲ犯セシ處ノ總テ其等ノ人ノ刑罰ヲ以テ爲スベク持ツ 第二ノモノハ一致シ能ハヌ處ノ人民ノ權利ニ付テ而テ借地代ニ付テ賣買ニ付テ他ノ人民ノ財産ニ迄害ヲ爲スヲ付テ遺言其レニ依テ人民ハ彼等ノ死ノ後彼等ノ金錢ヲ遺贈スル處ノ遺言ニ付テ詳言スレバ彼レガ彼自身ニ向テ決定シ能ハヌ處ノ人ノ權利ノ各々ノ問題ニ付テノ方法ノ數百ニ於テ起生シ能フ是等ノ爭論ノ處置ヲ以テ爲スベク持ツ

第十二 總テ是等ガ何ンデモ民事ノ訴訟ト稱セラル、處ノモノ詳言スレバ雙方ノ權利ヲ見出スノ目的ニ向テノ吟味訴訟ニ迄起リヲ與ヘ能フ

第八章 第二篇

法律ノ權力

第二十節

法律而テ司法ノ尊敬並ニ權力

刑事ノ權力

第一 私ハ法律ヲ破タベク裁判所ノ前ニ證明サレタ處ノ其等ノ人ハ牢獄ニ迄送ラル、

依テ罰セラル、ヲ汝ニ告ゲタテテ實ニ汝ハ總テ知ル 故意ニ而テ不法ニ他人ノ生命ヲ取  
 タ處ノ其等ノ人ハ法律ニ依テ死ニ迄彼等自身置カル、  
 第二 其レハ一日ニ向テマサヘモ自由ニ付テ奪ハル、ベク甚ダ恐ロシキモノデア  
 數月ニ向テ數年ニ向テ而テ或ル場合ニ於テハ全キ終生間ニ向テ牢獄ニ於テ閉ヂ上  
 格ラレ、  
 或ル遙カヨリ多ク恐ロシキモノデア  
 世ノ中ニ於テ最モヨキ道理ニ向テマサヘモ他人ノ  
 生命ヲ取ルベク一人ニ向テ甚ダ嚴重ナルモノデア  
 若シモ或ル人ガ復讐カラ是等ノモ  
 、或ルモノヲ爲スベクアリシナラバ共ニ等シク惡クアルデアロー而テ何モノモ斯  
 様ナル道  
 理ヲ取リシ處ノ人ヲ恕シ能ハヌ

刑罰

第三 第一ノ場所ニ於テ復讐ハ全ク不正デア  
 場所ニ於テ不正ヲ爲タ處ノ人ヲ害スベク只企テラレシ處ノ刑罰ハ甚ダ僅少ノ善ニ付  
 デアロー 只ノ仕方其レニ依テ刑罰ガ實際要用ニ爲サレ能フ處ノ只ノ方法ハ其レハ  
 法律ガ罰シタ處ノ罪業ヲ犯シ能ハヌ事程左様ニ彼等ガ例デアリ而テ他人ニ迄諫言  
 デアル  
 アロー程氣付ヲ取ルコトニ依テアル 全ク短簡ニ其レヲ置クベク總テノ刑罰ハ豫防  
 デアル  
 第四 此仕方ニ於テ禁錮其レニ迄窃盜或假誓人ガ宣告サル、處ノ禁錮ハ斯様ナル  
 刑罰ニ迄

導ク處ノ罪ニ逆フテ他ノ人民ヲ扶ケ而テ諫言スルコトニ於テ要用デア  
 第五 而テ左様ニ吾人ハ私ガ左様ニ屢々前ニ汝ニ與ヘタ處ノ説明ニ迄再ビ廻リ來ル而テ法  
 律違反人ヲ罰スベク裁判官ヲ權力付ケルコトニ於テ汝ハ總テノ善ニ向テ總テニ依テ爲サレシ  
 仕事ノ他ノ例ヲ見ルデアロー

第六 如何トナレバ裁判官ハ實際彼等ニ向テ彼等ノ仕事ヲ爲スベク人民ニ依テ任用サレテ  
 アル故ニ而テ其レハ只彼レハ彼レガ宣告スベク而テ罰スベク或ル權利ヲ持タ處ノ人民ニ向  
 テ働キツ、アル故デア  
 第七 汝ハ是レヲ了解スル時ニ汝ハ何故其レハ各々ノ人ガ裁判官トシテ撰任サル、處ノ其  
 等ノ人ヲ尊敬スベク而テ貴崇スベク義務デア  
 第八 汝ハ第七章ニ於テ學ビシ如ク何人モ彼レ自身ノ手ニ迄法律ヲ取ルベク權利ヲ有セヌ

何故ニ吾人ハ裁判官ヲ尊敬スルデアローカ

其レハ只人ハ死ニ彼レノ同胞ヲ罪スルベク牢獄ニ迄彼等ヲ送ルベク或ハ市街ニ於テ彼等  
 ナ取ルベクサヘモノ如ク彼レガ斯様ナル嚴格ナルモノヲ爲スベク權利ヲ有スルコト程總テ彼

レノ國人ノ爲メニ働ク時ニアル

警官

第九 而テ是レガ倚子ニ於テ座スル裁判官ニ付テ誠デアルノミナラズ乍然其レハ司法ノ事  
務ヲ爲スベク扶ケル處ノ各々ノ單ナル人ニ付テ眞デアル 汝ハ巡查ハ市街ニ於テ不亂心放  
恣ナル處ノ人或ハ盜ムト 或ハ鬪争シツ、見ラレシ處ノ人而テ彼レハ汝ハ私ハ爲スヘク權  
利ヲ有セヌ處ノ大ナル多クノ他物ヲ爲シ能フ處ノ人ヲ捕ヘルベク權利ヲ有ス

第十 何故是レガアルカ 何ガ巡查ト而テ或ル他ノ人トノ間ニ差別ガアルカ 差別ハ警察  
官ハ頂度裁判官ガ國ノ全キ人民ノ爲メニ彼レノ仕事ヲ爲スベク任用サレタ如ク任用サレタ  
事デアル 若シモ人民ガ彼レノ權力ヲ彼レニ與ヘナンダナラバ彼レハ汝或ハ私ガ緊合フベ  
ク或ハ他人ヲ以テ干涉スベク持ツヨリハヨリ多ク仕事ヲ有セナンダデアロ 乍然彼レハ  
斯様ニ法律而テ司法ノ味方ニ於テ彼レノ仕事ヲ爲シツ、小ナル仕方ニ於テアル故ニ吾人ハ  
法律而テ司法ナシニ吾人ハ最モ悪キ野蠻人ヨリヨリヨクアラヌデアロ 事ヲ記憶スル處デ  
彼レノ官職ヲ尊敬スベク而テ彼レノ仕事ニ於テ彼レヲ扶ケルベク義務アル

特別ノ巡查

第十一 如何ニ誠ニ其レハ巡查ガ彼レノ權力ヲ彼レニ與ヘタ處ノ總テノ人民ノ爲メニ實際

爲サ、ル處ノ仕事ガアルトヲ汝ニ示スベク私ハ何ンデ彼等ガ爲スベク持ツ處ノ仕事ニ向テ  
巡查余リ僅少デアル時ニ或ハ彼等ガ公衆ヲ保護スベク爲ノニ出會フベク持ツ處ノ危害ガ余  
リ大ニアル時ニ起ル處ノモノヲ汝ニ告ゲルデアロ

第十二 斯様ナル時ニ於テ企ハ誓フ處ノ特別ノ警官ニ付テ詳言スレバ巡查ヲ扶助スベク通  
常ノ市民ヲ任用スルコトニ付テ續ケラル、 特別ノ巡查ガ任用サレタ時ニハ彼等ハ猶又巡查  
ノ如ク頂度人民ヲ捕ヘルベク而テ平和順序ヲ保ツベク權利ヲ有ス 其レハ彼等ガ任用サル  
、事ハ騒動或ハ大ナル擾亂ノ時ニ於テ通例デアル而テ私ハ如何ニ實際巡查ガ汝或ハ私ニ向  
ニ而テ吾人ハ若シモ彼レガ其處ニアラザリシナラバ吾人自身ニ向テ爲スベク持ツデアロ  
處ノモノヲ吾々ニ向テ仕事ヲ爲シツ、アルカラ示スベク只彼等ニ付テ話シタ

第九章

海軍而テ陸軍 第一篇

人ノ血ハ決テ人ノ血ヲ救ベク外ハ溢サレヌデアロ 其レハ吾々ノ家族ニ向テ吾々ノ  
明友ニ向テ吾々ノ神ニ向テ吾々ノ國ニ向テ吾々ノ同胞ニ向テヨク溢サル、デアロ  
他ハ無用デアアル他ハ罪業デアアル

(註) エドマンドバーク氏云ヘルアリ 吾人ハ人ノ身命ヲ救フ爲メニアラズンバ決テ血ヲ





第五 私ハ左様ニ爲スベク願ヒシ處ノ其等ノ人ガ只陸兵而テ海トナリシコト云ヒシ而テ幸ニ吾人ヲ以テ其レガ左様デアアルトハ雖モ多クノ國ニ於テ其レガ其他デアアル

第六 佛蘭西ニ於テ日耳曼ニ於テ魯西亞ニ於テ埃斯太利亞ニ於テ而テ伊太利ニ於テ各々ノ人ハ彼レガ其レヲ好ムト或ハ好マヌトモ兵士或ハ海兵トナルベク余義ナクサル、而テ三年或ハ四年ニ向テ軍艦或ハ聯隊ニ於テ務メ上グルベク爲サル、各人ヲ陸兵或ハ海兵ト爲スコト此企テハ徵兵ト稱セラル、汝ガ知ル如ク英國ニ於テ而テ總テノ大英帝國ニ於テ其處ニ斯様ナルモノガアラヌ而テ吾々ノ海軍而テ陸軍ガ義勇兵ニ依テ募集サル、詳言スレバ其處ニハ彼等ニ結合スベク願フ處ノ其等ノ人ニ付テ只組成サル、

ジイアロンドヤ、カフィンランド  
英國ノ國境

第七 其レハ吾々ガ徵兵無ニ安全デアアルベク適當シテアルコトハ感謝ニ向テ大ナル道理原因デアアル而テ吾人ハ吾人ノ幸運ヲ英國ガ島國デアアルコトニ迄而テ彼女ノ帝國ガ歐羅巴カラ分離サレテアルコトニ迄歸スル 斯様ニ分離サレテアル處デ吾人ハ外國ノ國民ノ如ク不意ニ攻撃サル、コトノ恐レガアラヌ如何トナレバ如何ナル敵モ海上ヲ横切ルコトノ外ハ吾々ノ境界ヲ横切リ能ハヌ

第八 其レハ歐羅巴其處ニハ二國ノ中間ニ分界ガ通過スル處ノ歐洲ニ於テ是等ノ場所ノ或

ルモノヲ見ルベク汝ヲ面白ガラセルデアロー 頂度其途ヲ横切ルコトニ依テ汝ハ佛蘭西迄日耳曼カラ或ハ日耳曼カラ埃斯太利西ニ迄行キ能フ而テ汝ハ決テ汝ガ他ニ迄法律ノ一組織一國語而テ一政府カラ變更シタコトヲ汝ガ見出ス迄アルヨリ賢キ人デアラヌデアロー

第九 汝ハ爰ニ二ツノ畫圖ガアル 彼等ノ一ツハ如何ニ吾々自身ノ國ノ國境線ガ如クアルカラ汝ニ示ス其レハ佛蘭西カラ而テ常ニ變更スル處ノ水ノ二十海英里ニ依テ歐羅巴ノ全キモノカラ吾々ヲ分ツ處ノ英吉利西海峽ノ荒レタル水ニ於テ眺メ下ス處ノタザアーノ名高キ白キ巖壁ノ畫圖デアアル 其レハセークスピヤーガヨク知ラレタル行文其レニ於テ彼レガ英吉利西ノ昔時ノ名譽ヲ記載セシ處ノヨク知ラレタル行ニ於テ話スコトハ吾々ノ大洋ノ境界ニ付テアル

城壁ノ役目ニ於テ其レヲ務メル處ノ或ハ幸福少キ國ノ嫉妬ニ對シテ本國ニ迄防禦タル濠トシテ務メル處ノ銀ノ海ニ於テ置カレタル此貴重ナル石 此幸福ナル場所此土此領土是レハ英國デアアル

(註海中ニ置カレタルモノニシテ城壁トナリ敵國ニ對シ防禦ノ濠トナル此貴重スベキ土地場所領土是コソ實ニ我英國ノ狀体ナリ 斯様ナルモノガ勝利アル海ニ於テ四圍サレタルコトニ付テ吾々ニ迄ノ利益デアアル

他國ノ國境

第十 而テ今其レニ於テ伊太利ナル文字ヲ持ツ小ナル圓柱ヲ他ノ畫圖ニ於テ眺ノヨ 其レハ西イツアールランドト而テ伊タリノ境界ノ記號ノ一ツデアアル 柱ノ一方ニ於テ汝ハ西イツアールランドト共私政府ニ於テアル而テ西國ノ法律ニ於テ支配サレシ他方ニ於テ汝ハ若シモ汝ガ國ニ於テ住ツ、アルナラバ羅馬チーブルス或ハテユリンニ於テ伊太利ノ陸軍ニ於テ兵卒トシテ務メルベク爲サル責ヲ受クベク伊太利ノ王國ニ於テアル而テベルチニ於テノ代リニ羅馬ニ於テ制定サレシ法律ニ依テ支配サレン 左様ニ汝ハ吾人ハ國境其誰一人モ誤リ能ハヌ處ノ而テ誰一人モ吾々ノ充分ノ警誠ヲ持ツ、無ニ横切り能ハヌ處ノ國境ヲ持ツ、ニ於テ向テ感謝多クアルベク澤山ヲ有スルヲ見ル

第二十二節

何故ニ海軍ガ第一ニ來ルカ

第一 汝ハ私ガ此章ニ於テ海軍ニ付テ話タ事ヲ氣付ケルデアロー、而テ恐ラクハ汝ノ或ルモノハ何故ニ私ハ人民ガ甚ダ屢々爲ス如ク陸軍而テ海軍ニ付テ話シ爲サレヌカヲ驚クデアロー、乍然タトヒ其レハ海軍ヲ第一ニ置クベク少シ不恩儀ニ響クトハ雖モ其レハ全ク正シクアル如何トナレバ海軍ハ實際第一等ニ位スル故ニ而テ若シモ汝ガ水兵而テ陸兵ノ何レモガ

現ハレテアル年ノ觀兵ニ於テアルベクアリシナラバ汝ハ海兵ハ陸兵ノ前ニ過ギテ進行セシ、  
一ヲ見ルデアロー

第二 甚ダ長キ以前デナク女王ハウインドソーニ於テ義勇兵ノ大ナル觀兵ヲ持タ而テ三萬人ヨリ多クガ彼女ノ前ニ通過セシ

乍然通過スベク甚ダ最初ノモノハ彼等ノ廣キ戴ノ帽子ト而テ白キシヤツニ於テ海軍ノ義勇兵デアリシ 是レハ實際アルベク屬スル如何トナレバ當底其レハ吾々ノ大ナル防禦デアアル處ノモノハ海デアアル而テ其レハ最初ニ起ルベク屬スル處ノ人ハ海ニ於テ吾人ノ利益ヲ防禦スル處ノ其等ノ人デアアル故ナリ 海軍ハ第一ノ防禦線ナリ詳言スレバ其レハ海軍ガ打チ破ラレタ迄ハ吾々ノ海岸ガ敵兵ニ於テ攻撃サレ能ハヌデアアル 而テ斯様ニ其レハ海軍ガ下役ノ職務デアアルコトガ付テ來ル

吾々ノ水兵

第三 私ヲシテ其故ニ吾々ノ水兵而テ彼等ガ於テ帆走ル處ノ舟ニ付テ或ルモノヲ汝ニ告グシメヨ 全キ艦隊ニ於テ戰爭ノ目的ニ向テ仕用サレシ而テ異リタル大サノ砲門ヲ以テ充タサレシ三而ノ漁船ト而テ帆船ガアル 以前ハ總テノ船ハ木制デアリシ而テ場所ニ迄場所カラ得ルコトニ向テ只彼等ノ帆ニ於テ屬セシ

第四 今日殆ンド總テノ軍艦ハ鐵或ハ鋼鐵ニ付テ製造サル、而テ彼等ノ或ルモノハ彼レノ方側ニ於テ置カレシ鐵或ハ鋼鐵ノ甚ダ厚キ板ニ依テ敵ノ彈丸カラ保護サル、其等ハ鋼鐵艦ト稱セラル、是等ノ大小ノ船ノ總テハ今日ハ蒸氣船デアアル而テ彼等ノ機關ノ方法ニ依テ全ク風ハ波ニ付テ獨立シ彼等ガ好ム處ニ行キ能フ

第五 艦隊ノ頭ラニ於テ水師提督ガアル而テ彼レノ下ニ副提督而テ第三等水師提督ガアル各々ノ船ハ艦長ニ依テ支配サレシ而テ彼レノ下ニ副艦將、機關司、外科醫、水夫長、砲手、工匠、他ノ役人ノ大ナル數ガアル各々ハ特別ノ職務ヲ以テ任セラレシ 各々ノ船ノ船夫ハ時々藍色短衣（水兵ハ藍色ノ短衣ヲ着スルヲ以テカクハ稱セラル、ナリ）ト稱セラル、處ノ海兵ニ付テ而テ機關ノ後ニ眺ムル處ノ機關司而テ火夫ニ付テ組織セラル、

戰闘海兵（マリーリン）

第六 又ハ私ハ海兵ヲ記載スベク忘却シテハナラヌ 各々ノ軍艦ニ於テ其處ニハローヤルマリーリンニ迄屬スル處ノ人ノアル時ガアル 是等ノ人ハ陸兵ノ如ク訓練サル、乍然彼等ハ水兵ノ如ク軍艦ニ迄行ク而テ其レガ必要デアアル時ニ彼等ハ陸上ニ於テ闘フベク軍艦カラ上陸セラル、戰闘海兵ハタトヒ精密ニ海軍或ハ陸軍ニ迄カニ屬シ爲サヌトハ雖モ世界ノ各々ノ部分ニ於テ吾々ノ國ノ爲メニ大胆ニ戰フタ而テ正シク名高ク爲タ

第七 藍色短衣兵ノ最モ多クハ彼等ガ全ク小兒デアリシ時ニ海軍ニ迄行ク而テ是レガヨキ企テデアアル如何トナレバ良キ水兵デアアルベク其レハ總テ一ツノ終生ヲ海ニ迄慣サルベク要用デアリシ故ナリ 海軍ニ於テノ士官ハ猶又彼等ガ小兒デアリシ時ニ其レニ結合スル而テ彼レガ他ニ迄一ツノ位階カラ昇進サレ能フ前ニ彼等ハ彼等ガ彼等ノ仕事ヲヨク知リシ事ヲ見ル爲メニ試験サル、如何トナレバ其レハ大洋ノ總テノ危險ノ中ニ大ナル船ノ責任ヲ取リシ處ノ其等ノ人ハ正シキ時ニ於テ正シキ物ヲ爲スベク準備シテアリ而テ暴風雨カラ或ハ敵カラ落チ能フ處ノ多クノ不意ノ出來事ニ向テ用意シテアルデアロト事ハ最モ要用デアアル故ナリ

何ヲ海軍ガ爲スカ

第八 海軍ニ向テノ軍艦ハ四ヶ所ノ大ナル造船所ニ於テ重ニ製造サル、其四ヶ所トハポルトマウスプリマウスカサム而テプンブロク彼等ガ總テ準備シテアル時ニ彼等ハ海ニ迄送ラル、或ルモノハ大英國ノ海軍ヲ番スル或ノモノハカナダニ於テオーストラリヤニ於テニュージランドニ於テユニオン旗ガ翻ル處ノ世界ノ總テ其等ノ他ノ部分ニ於テ吾々ノ國ヲ保護スベク大洋ヲ横切テ行ク

第九 他ノモノハ再ビ此國ニ迄穀物而テ羊毛而テ百ノ他ノモノヲ持チ來スベク或ハ海ヲ越

ヘテノ國ニ迄吾々ノ礮山而テ吾々ノ機械場カラ鐵而テ石炭而テ毛布ヲ取ル處デ年中海ヲ横切リツ、アル處ノ商船ノ數千ニ付テ氣付ヲ取ルベク送ラル、

第十 或ル者ハ奴隸船ニ於テ見張リヲ保ツ而テ他ノ者ハ知ラレザル入江而テ半島ノ形体ヲ見出ス、ニ於テ而テ汝ノ地圖ニ於テ保タレシ處ノ地圖ヲ校正スル、ニ於テ海ノ深サヲ測量スル、ニ於テ用非ラレシ吾々ノ水兵ハ平和ノ時ニ於テ爲スベク多クヲ有ス戰爭ノ時ニ於テ吾々ハ吾人ノ生命ノ安全而テ吾人ノ國ノ自由ニ向テ彼等ニ於テ屬シ依頼スル

第十一 英國ノ海軍ノ歴史ハ甚ダ名譽アル一ツデアツタ 恐ラクハ左様ニ其レヲ爲スベク其他ノ或ルモノヨリハヨリ多ク扶タ處ノモノハ士官カ或ハ水夫デアアルカ其レハ吾々ノ最大ナル水兵ハ彼等ノ義務ノ履行ヲ彼等ノ重ナル考ヘト爲タ事實デアアル 義務ハ海軍ノ大ナル番語デアツタ而テ其レガアリシ如何トナレバ彼レハ如何ニ大ナル力ヲ此短簡ナル語ガ彼レノ人ノ心裡ヲ越ヘテ有シタデアローカヲ知リシ故ニ水師提督子ルソンハ英國ハ彼レノ義務ヲ爲スベク各々ノ人ヲ要スナル名高キ語詞ヲトラフワルガノ大ナル勝利ニ於テ艦體ニ迄彼レノ消息ニ向テ撰ビシ

第十章

海軍而テ陸軍 第二篇

兵士等ヨ汝ノ勞動汝ノ艱難而テ汝ノ勇胆ハ恩ヲ謝スル國人ニ依テ忘レラレヌデアロー

(註) エンリ其兵士ニ向テ演舌セシ時ニ云ヘルアリ曰ク兵士等ヨ汝等ノ勞苦汝等ノ艱難

セシ、汝等ノ勇胆ナル行爲ハ此國人ヨリ忘却セラレザルナリ)

第二十三部

陸軍

第一 而テ今私ハ陸軍ニ迄來ル 海軍ノ歴史ノ如ク陸軍ノ歴史ハ甚ダ有名デアアル而テ多クノ書物ガ其レニ依テ爲サレタ處ノ大胆ナルモノニ付テ告ゲル處デ書カレタ 乍然何ンデモ私ガ其處ニ爲スベク得タ處ノモノハ陸軍ノ歴史ヲ汝ニ與ヘルベクアラヌ乍然只如何ニ其レガ組織サル、カ而テ如何ニ其レガ爲スベク得タカラ汝ニ告ゲルベクアル

砲兵——騎兵——步兵——工兵

第二 陸軍ハ四大部ニ分タル——砲兵、騎兵、步兵、工兵 砲兵ハ異リタル砲兵大隊ニ付テ騎兵ハ而テ歩兵ハ聯隊ニ付テ工兵ハ工兵隊伍而テ組ニ付テ組立ラル、是等ノ重ナル分チノ外ニ其處ニ猶又病人而テ負傷者ノ後ニ眺ムベク醫師而テ看病夫而テ其人ノ職務ハ糧兵而テ戰ヒツ、アル處ノ兵士ニ向テ總テノ種類ノ武具ヲ運送スル處ノ人ノ体ナル輕重兵ガアル

第三 砲兵ハ或ルモノハ四頭而テ或ルモノハ六頭ノ馬ニ依テ曳カレシ大砲ヲ持ツ 騎兵ハ劍或ハ鎗ヲ以テ武備サレテアル而テ馬上ニ於テ乘テアル處デ場所カラ場所ニ迄急速ニ動クベク報知ヲ得ルベク而テ驚カサル、一カラ軍勢ヲ妨グルベク適シテアル 工兵ハ爲スベク仕事ノ澤山ヲ持ツ彼等ハ橋ヲ造リ砦ヲ建テ電線ヲ横タヘ而テ當今戰爭ノ時ニ於テ要用デアル處ノ多クノ他ノモノヲ爲ス

第四 歩兵ハ銃而テ銃鎗ヲ以テ武備サレテアル而テ種々ノ聯隊ニ迄分タル、其レノ各々ハ國ノ或ル部分ノ名ヲ有ツ例令バローヤルサセツキス聯隊サザーラン一而テアルグルハイラレダーコーノトレンヂヤウエリツシボーダリース及ビカナデイヤンフシラース聯隊ナリ

各々ノ聯隊ハ其レノ歴史ニ付テ自負シテアル而テ士官及ビ兵士ハ彼等自身ノ聯隊ヲシテ大胆ノ所爲ニ於テ忍耐ニ於テ而テ武器ニ於テ熟練ニ於テ總テ他ニ優ラレムベク勤メル

第五 各々ノ聯隊ノ頭ニ於テ其處ニ仕官ガアル而テ佐官ノ上ニ將官ガアル而テ彼等ノ上ニ再ビ總督ガアル

何人ガ陸軍ト而テ海軍ヲ指令スルカ

第六 名義ニ於テ女王ガ何レモ海軍而テ陸軍ノ頭ラニ於テアル乍併汝が察シ能フ如ク彼女ハ彼等ヲ命令スルコト而テ導クコトニ於テ或ル活動ノ部分ヲ取り爲サヌ猶其レハ國王或ハ女王

ガ稱セラル、如ク國君ガ實際何レモノ職務ノ頭デアルコトヲ記憶サレテバナラヌ

第七 乍然勿論若シモ其處ニ以テ彼等ニ仕拂フベク金ガアラザリシナラバ其處ニハ兵士モ又ハ水兵ガアラヌ而テ私ガ汝ニ告ゲシ如ク金衆議院ニ依テ投票サレシ租税ニ依テ只得テレ能フ 左様ニタトヒ如何ニ多ク國君ガ全人民ニ評議スルコト無ニ艦隊或ハ陸軍ヲ任用スベク要セシトハ雖モ其レヲ爲シ能ハヌ如何トナレハ國會ハ水兵陸兵ニ仕拂フベク金ヲ投票スベク拒ミ能フ故ナリ

第八 私ハ女王國會而テ陸軍ニ付テ是レヲ汝ニ告ゲタ如何トナレハタトヒ其レハ當時甚ダ要用デアラヌトハ雖モ其處ニハソコニ人民ヲ壓制スベク或ハ不正ニ而テ法律ニ迄反對デアリシ處ノモノヲ爲スベク陸軍ヲ任用スル處ノ實際ノ危險ガアリシトハ時代ガアリシ 幸ニ其レハ吾々ノ現在ノ女王ガ法律ニ迄反對ニ働クベク嘗テ試ミヌデアロー事ハ慥カデアリシ乍然汝ハ若シモ嘗テ或ル時ニ於テ英國ノ國王或ハ女王ガ左様ニ爲スベク試ルデアローナラバ人民ハ方法其レニ依テ彼等ハ彼等自身ヲ保護シ能フ處ノ方法ヲ有スルコトヲ見ルデアロー

軍法規律

第九 或ル事柄ニ於テ海軍或ハ陸軍ニ於テアル處ノ英吉利西ノ公民ハ其等ノ人其人ハ海陸軍ニ迄屬セヌ處ノ其等ノ人カラ異リタル法律ノ下ニアル 其レハ一ツノ陸軍モ而テ一ツノ

艦隊モ其處ニ其レニ於テノ其等ノ人ノ中ニ嚴密ナル規律ガアルニ非ズンバヨク支配サレ而テ指令サレヌトガ見出サレタ。汝ハ何ンデ規律ガアルカヲ知り爲スカ汝ハ爲サヌカ其レハ彼等ニ與ヘルベク權利ヲ有スル處ノ其レ等ノ人ニ依テ與ヘラレシ命令ニ迄服從ノ習慣ガアル其レハ預メ前ニ制定サレ而テ實行サレシ規則ニ迄從フテ働クトノ而テ其處ニハ混雜或ハ爭論ガアリ能ハヌト程斯様ナル仕方ニ於テ他ハ共ニ働クトノ習慣デアアル

第十 小兒及ビ小女ガ一人ツ、階級ツ、順序ニ於テ學校ノ外ニ行クルニ彼等ハ彼等ガ規律ノ用ヲ學ンダトヲ示ス。彼等ガ指令ノ言語ニ於テ彼等兩手或ハ彼等ノ兩足ヲ動かス處デ彼等ノ訓練ヲ爲スルニ彼等ハ彼等ガ規律ノ仕用ヲ學ンダトヲ示ス

第十一 其處ニハ世界ニ於テ僅ナモノガアル其レハ吾々ガ少シノ訓練ニ向テヨリヨク爲サヌデアロー如何トナレバ規律ヲ定ムベク行ク處ノモノデアアル處ノ實行忍耐他人ニ於テノ信用而テ正シキ命令ニ迄ノ服從ハ吾々ガ爲スベク持ツ處ノ總テニ於テ用要デアアル故ナリ

第十二 乍然總テノ上ニ陸軍而テ海軍ニ於テ其レハ私ガ付テ汝ニ告タ善キ性質ガ彼等ガ或ル他ノ人ニ迄アルヨリハ兵士水兵ニ迄ヨリ多ク必要デアアル故デナク乍然戰爭ノ危險而テ困難ニ於テ彼等ノアルモノ無ニアル處ノ結果ハ左様ニ嚴重ニ恐ロシクアルデアロー故ニ法律ガ完全ニ而テ嚴重ニアルデアロー事ハ必要デアアル。私ハ戰爭ノ時ニ於テ規律ノ要用ノ或ル

例ヲ汝ニ與ヘルデアロー

フタクタイヌ  
練習

第十三 エドワード第三世ノ御世ニ於テ佛蘭西ヲ以テ大ナル戰爭ニ於テ英吉利西ノ弓手ハ幾度幾度モ勝利多クアリシ而テ何ガ道理デアリシカ。單ニ其レハ各々ノ体ハ彼レガ生長セシルニ彼レガヨキ弓手ニ成ル迄長キ弓ヲ以テ目標ニ於テ打ツベク爲サレシ。戰爭ノ時ガ來リシルニ彼レハ勝利ヲ得シ如何トナレバ彼レガ練習シタ故ナリ敵ハ打タレシ如何トナレバ彼等ガ練習ニ迄怠タ故ナリ

ベインコンヌ  
忍耐

第十四 規律ノ部分トシテ忍耐ノ價值ノ例ヲ汝ニ與ヘル可ク私ハ佛蘭西ノ艦隊ヲ見張リシ海軍總督子ルソンノ物語ヲ汝ニ告ルベクヨリハヨリヨク爲シ能ハヌ。其レハナポレオンボナパルトノ下ニ佛蘭西ガ陸ニ於テ大ナル多クノ勝利ヲ得タ片而テ歐羅巴ノ殆ンド總テノ他ノ國ニ打チ勝タ處デ英國ヲ侵シ而テ打チ勝ツベク試ミツ、アリシ片ニ一千八百零五年ニ於テアリシ。其時ニ於テ佛蘭西ノ艦隊ハ佛蘭西ノ南方ニ於テタウロンノ港ニ於デアリシ而テ其レハ其レガ頂度反對ノタヴァーニ彼レノ軍勢ヲ以テ其レニ向テ待チツ、アリシ處ノボナパルトヲ逃レルベク而テ結び付クベク免サレヌデアロー事ガ最モ要用デアリシ。冬ノ總テ

ノ暴風雨ヲ通シテ幾月モ幾月モ總督チルソンハ猫ガ鼠ヲ見張ル如ク敵ヲ番シツ、タウロ  
ノ入口ノ向フニ待ツトニ於テ横ハリシ

第十五 其レハ疲レ多キ仕事デアリシ乍併チルソンハ其レニ迄等クアリシ 彼レノ傳ヲ書  
キシサウセーガ云シ如ク忍耐其レヲ以テ彼レガタウロン番セシ處ノ忍耐ハ決テ優レナンダ  
處ノ海ニ於テ忍耐ノ例デアリシ 一千八百零五年ノ八月迄一千八百零三年ノ五月カラ總テ  
ニ於テ二年五ヶ月彼レハ只三度彼レノ軍艦ノ外ニ行キシ是等ノ時ノ各々ガ國王ノ職務ニ於  
テアリシ而テ一ツノ場合ニ於テモ彼レノ不在ハ一時間ヲ越ヘ爲サヌ 左様ニヨキ例ニ依テ  
獎勵サレテ總督ノ船ノ甲板上ニ於テノ人ハ彼等ノ總督ダケ左様ニ決定シ而テ左様ニ忍耐シ  
デアリシ而テ終ニ報酬ガ來リシ 其レガ誠デアル佛蘭西ノ艦体ハ逃レシ乍然チルソンガ彼  
等ニ續キシ 彼レハ西印度ニ迄大西洋ヲ横切テ彼等ヲ追ヒシ而テ歸リシ

第十六 彼レハ彼レノ長キ追撃ノ後ポトスマウスニ迄歸リシ時ニ彼レハ到底敵ガ彼レヲ  
逃レタ事ヲ恐レシ如何トナレバ彼レハ彼等ノ報知ヲ得能ハヌ故ナリ 乍然彼レハ彼等ノ後  
ニ離レテ出立スル事ニ於テ長クアラザリシ彼レハ西班牙ノ海岸ヲ離レテ遂ニ彼等ヲ見出セ  
シ而テ一千八百零五年ノ十月ニ於テ彼レハトラフルガノ大ナル戦争ニ闘ヒシ其レニ於  
テ彼レハ佛蘭西而テ西班牙ノ艦隊ヲ全ク打ち破リシ而テ攻撃ノ最後ノ恐レヲ取り去リシ

汝ガ知ル如ク彼レハ勝利ノ時ニ於テ彼レノ生命ヲ亡ヒシ乍然彼レハ彼レノ後ロニ如何ニ大  
ニ規律ノ部分トシテ忍耐ノ要用ガアルカ而テ如何ニ大ナル結果ガ攻撃ニ於テノ勇氣而テ準  
備ニ依テヨリハ大ニ待チツ、忍耐ニ依テ勝利得ラレ能フカノ教戒ヲ彼レノ後ロニ遺セシ

第二十四節

フエイスインアキス  
他人ニ於テノ信用

第一 クリミヤノ戦争ニ於テインカーマンノ闘ニ於テ吾々ノ軍勢ハ厚キ霧ニ依テ取り圍マ  
レシ而テ彼等ガ暗黒ニ於テ蓋ハレテアリシ間ニ彼等ハ魯西亞人ノ數千人ニ依テ攻撃サレシ  
何人モ何ンデモ彼レノ隣人ガ爲シツ、アリシ處ノモノヲ見能ハヌ其レハ右ニ於テカ左ニ  
於テカ敵ガ勝利ヲ得ナンダカラ告ゲルベク不適當デアリシ其處ニハ只爲サルベク一ツノモ  
ノガアリシ則チ彼レノ仲間ノ各々人ハ同シ事ヲ爲スデアロー事ヲ信用スル處デ彼レガ能フ  
最モヨキモノヲ爲スベク各々ノ人ニ向テアリシ

第二 是レハ何ンデモ吾々ノ兵士ガ爲セシ處ノモノデアリシ 彼等ノ命令ハ止マリ而テ闘  
フベクアリシ而テ彼等ノ各々ハ彼レノ命令ヲ行ヒシ 彼等ハ他人ニ於テ而テ雙互ニ於テ信  
用ヲ持タ而テ終ニ於テインカーマンノ戦争ガ勝利得ラレシ

ホスダイエンストワーローフヘイダーズ  
規則正シキ命令ニ迄服従

第三 甚ダ長キ以前デナク英吉利西ノ軍艦ミイグラガ暴風雨ニ於テ不意ニ捕ヘラレシ而テ大ニ害サレシ 水ハ彼女ニ迄注入スベクアリシ而テ其レハ彼女ガ岸ニ於テ走り能フニ非ズンバ彼女ガ沈没セテバナラヌ而テ甲板上ニ於テノ其等ノ人ハ彼等ノ生命ヲ亡ハテバナラヌ事ハ明ラカデアリシ 其處ニ岸ニ於テ船ヲ走ラスルノ一方ガアリシ而テ其レハ水ノ下ニ遙カ機關室ニ於テ残り止マルベク而テ充分速カニ運轉シツ、機關ヲ保ツベク機關司ト而テ火夫ニ向テアリシ 其レハ船ガ岸ニ打タ時ニ彼女ガ彼女ノ働ニ於テ轉倒スルデアロー<sup>1</sup>而テ甲板上ニ於テノ其等ノ人ノ外ハ何人モ彼等ノ生命ヲ以テ逃レヌデアロー<sup>1</sup>ハ實ラシク而テ殆ンド慥カデアリシ

第四 乍然機關司ト而テ火夫ハ火ヲ燒キツ、而テ機關ヲ轉シツ、保ツベク命令ヲ持タ而テ彼等ノ命令ニ從フベク彼等ハ下ニ止マラテバナラヌ而テ恐ロシキ死ノ危險ヲ走ラテバナラヌ 彼等ハ下ニ止マリ爲セシ而テ終ニ沈没スル處ノ船ハ岸ニ迄充分ノ急速ニ走リシ

第五 幸福ニモ彼女ハ固ク着キシ而テ甲板上ニ於テ其等ノ人ノミナラズ猶又船底ノ大胆ナル人ガ逃レルベク適シテアリシ 乍然其レハ全キ船夫ガ彼等ノ保全ヲ歸セシ<sup>1</sup>ハ彼等ノ盡力ニ迄アリシ彼等ハ彼等ガ命令ニ服從セシ故ニ船ヲ扶ケシ 汝ハ是等ノ例カラ如何ニ大ニ陸軍而テ海軍ニ於テ規律ニ向テ要用ガアルカラ見ルデアロー

バリニョウダイシツリン  
規律ノ價值

第六 其レハ實ニ命令ヲ違反スル處ノ彼等ノ職務ヲ怠ル處ノ或ハ戰爭ノ時ニ於テ卑怯或ハ不行狀ノ罪デアアル處ノ其等ノ人ヲ罰スベク特別ノ規則而テ法律ガ制定サル、<sup>1</sup>ハ左様ニ大ニアル

第七 是等ノ特別ノ規則ハ軍法ト稱セラル、而テタトヒ其レハ人が若シモ彼レガ水兵或ハ陸兵デアラザリシナラバ彼レハ少シモ罰セラレヌデアロー<sup>1</sup>處ノ事ヲ爲ス<sup>1</sup>ニ向テ嚴重ニ罰セラル、デアロー<sup>1</sup>ハ最初ニ於テ六ツカシク見ユルトハ雖モ汝ハ其レハ要用テアルダケ其レダケ正シクアル<sup>1</sup>ヲ速カニ見ルデアロー 如何トナレバ察スラク若シ水兵ガ彼レハ彼レガ何ンデモ爲サルベク屬スル處ノモノヲヨリヨク知ル<sup>1</sup>ヲ考ヘル故ニ彼レノ軍曹ニ服從スベク拒ムベクアリシナラバ然ル<sup>1</sup>ニ何故ニ彼レノ順番ニ於テ軍曹ガ彼レノ尉官ニ尉官ガ彼レノ佐官ニ而テ左様ニ以上其ノ如ク服從ズベク拒マヌデアロー<sup>1</sup>カ 實ニ其ノ割合ニ於テ各々ノ人ガ彼自身ノ仕方ヲ行ヒツ、アルデアロー<sup>1</sup>而テ敵ハ敗北ニ迄斯様ナル不規律ノ軍勢ヲ送ル<sup>1</sup>ニ於テ甚ダ僅カナ困難ヲ持ツデアロー

第八 或ハ再ビ察スラク兵士ハ彼レガ番兵トシ番ヲ保チツ、アリシ間ニ彼位地ニ於テ睡眠スベクアリシト假定セヨ 睡眠ハ其レ自身ニ於テ不正デアラヌ併何ンデ結果ガアリ能フ



處ノモノヲ考ヘヨ 幾度モ幾度モ大ナル軍勢ガ敗北ヲ受タ軍艦ガ取ラレテ而テ數千人ガ其等其人ノ義務ハ其レガ不意ノ攻撃ニ對シテ見張リスベクアル處ノ其等ノ人ガ彼等ノ勤メヲ怠リシ故ニ彼等ノ生命ヲ亡ヒシ 其レ故ニ總テノ安全ニ向テ其レハ彼レノ位地ニ於テ睡眠スル處ノ人ガ嚴酷ナル仕方ニ於テ罰セラル、デアロー事ハ正シクアル

第九 而テ最後ニ若シモ水兵或ハ兵士ガ敵ノ前ニ卑怯ト彼レ自身ヲ證據立テルナラハ彼レハ直チニ而テ嚴重ニ罰セラル、デアロー事ハ正當デアル 如何トナレバ若シモ一人ガ彼レノ恐レニ迄途ヲ與ヘルトニ依テ彼自身ヲ扶ケルベク試ミル處ノ惡キ例ヲ置クヘク免ルサレシナラハ然ル時ニ吾々ハ兵士ガ彼レノ惡キ例ニ依テ勳サル、デアロー或ハ從レノ逃亡ニ依テ勇氣ヲ失ハル、ト而テ大ナル利益ガ敵ニ迄與ヘラル、トハ慥メテアリ能フ 左様ニ吾人ガ是等ノ物ノ結果ニ考ヘルベク來ル片ニ吾々ハ何故其レハ其レガ軍法ノ下ニ罰セラルベク正當デアルトデアアルカヲ了解スルデアロー

第十 乍然何レデモ兵士或ハ水兵デアアル處ノ一人ニ向テ誠デアアル處ノモノハ他人ニ向テ誠デアアル 軍曹ハ一個ノ兵士ヲシテ彼レニ服從セシムルデアロー乍併若シモ彼レガ左様ニ爲スベク彼レヲ要スルナラバ彼レハ其順ニ命令ヲ彼レニ與ヘル處ノ尉官ニ服從スベク用意シテアラチバナラヌ而テ其順ニ尉官ハ彼レノ自身ノ願ヒヲシテ尊敬セシメチバナラヌ乍然彼

レハ彼レ自身彼レノ上官ニ迄服從ノ龜鑑デアラチバナラヌ

第十一 而テ左様ニ階級カラ階ニ迄最高位カラ最下位ニ迄進ム其處ニ彼等自身服從スベク學ンダ處ノ其等ノ人カラ命令ヲ受取ルトニ於テ耻辱ガアラヌ而テ汝ハ若シモ嘗テ汝ガ規律ニ付テ惡ク語り而テ命令ニ服從スベク持ツトニ付テ訴ヘル處ノ兵士或ハ水兵ヲ聞クナラバ彼レハ惡性デアアルト而テ彼レハ彼レノ軍艦或ハ彼レノ聯隊ニ迄甚ダ僅少ノ信用ヲ爲スデアロー事ヲ慥メテアリ能フ

#### バーケンヘツド艦ノ損失

第十二 私ガ此長キ章ヲ終ル前ニ私ハ如何ニ貴重ナルモノト規律ガ成ルカラ汝ニ示スデアロー處ノ今一ツヨリ多ク說話ヲ汝ニ與ヘルデアロー 其レハ他ノ海上ノ說話デアアル 只此時物語ノ勇者ハ陸兵デアアル而テ水兵デアラヌ

第十三 バーケンヘツドナル大ナル軍艦ガ亞非利加ノ海岸ヲ沿フテ航行シツ、アリシ彼女ノ甲板上ニ於テ陸兵ノ數ガアリシ而テ兵士ノ外ニ多クノ婦人而テ小兒ガアリシ 不意ニ船ハ岩礁ニ於テ打チシ而テ水ハ遂ニ其レハ乗込人ノ總テノ盡力ニ關ハテズ彼女ガ速カニ沈没セチバナラヌ事ハ明カニ成リシ事程左様ニ速カニ彼女ニ迄注入スベク始マリシ 一ツノ救助ガ見ヘニ於テアラザリシ逃レノ只ノ方法ハ小舟ニ依テアリシ乍然脚船ハ不幸ナル軍艦ノ

甲板上ニ於テ今群集シテアリシ處ノ其等ノ人ノ全キ數ヲ運送スベク余リ僅少デアリシ 何人ガ行クベクアリシカ 強壯ナル人其人ハ彼等自身ヲ救助スベク試ミ能フ或ハ柔弱ナル婦人而テ柔弱ナル小兒其人ハ彼等ノ憐恤ニ於テアリシ處ノ婦人而テ小兒ガ行クカ

第十四 英吉利西ノ陸軍ノ信用ニ迄其處ニ躊躇ガアラヌ 兵隊ヲ指令スル處ノ士官ハ頂度彼等ガ屢々兵營ノ庭ニ於テ前ニ爲タ如ク甲板ニ於テ語ルベク命令ヲ彼等ニ與ヘシ 其處ニ命令ニ於テ彼等ガ立チシ然ル間ニ軍艦ノ水兵ハ脚船ニ迄婦人而テ小兒ヲ扶ケシ 一人モ外カラ破レヌ一人モ歎訴セヌ規律ノカラハ其ノ危険ナル時ニ於テツサヘモ感セラレシ而テ遂ニ打チ毀サレタル軍艦ガ暗黒ナル水ニ迄沈没セシ時ニ彼女ト共ニ下ニ行タ處ノ赤衣ノ英兵ハ嘗テ難戰ノ戰場ニ於テ得タ處ノ或ルモノダケ其レダケ名譽ナル勝利ヲ得タ

第十五 一ツノモノハパーケンヘツドノ損失ニ付テ汝ニ告ゲルベク私ニ向テ殘ル 其後日耳曼ノ帝王ト成タ處ノブラシヤノ王ウイリヤムハ物語ヲ聞キシ 彼レハ兵士迄規律ノ眞誠ノ價值ノ是レ程ヨリヨキ教戒ヨク與ラレヌヲ正シキ考ヘシ 說話ハ日耳曼語ニ翻譯サレシ而テ國王ノ命令ニ於テブラシヤ軍ニ於テ各々ノ聯隊ノ頭ニ於テ兵士ニ迄高聲ニ讀マレシ

第九章

助 兵 ジョーキーヤリフオーセス

防禦ニシテ挑戰デアラヌ 義勇兵ノ題目

第二十五章

何人ガ助兵デアルカ フーパーニシカキヤリフオーセス

第一 何ガ助兵ニ付テ意味サル、カ 助兵ハ陸軍而テ海軍或ハ彼等ガ屢々稱セララル、如ク正規ノ軍兵ノ助ケニ迄來ルベク要用ノ時ニ於テ準備シテアル處ノ其等ノ人ヲ意味スル 汝ハ恐ラクハ屢々助兵ニ付テ聞カナンダ乍然汝ハ殆ンド汝ノ總テハ民兵隊義勇兵而テ義勇兵ニ付テ聞タ而テ其レハ此章ノ頭首ニ於テノ語ニ依テ意味サル、處ノモノハ是等デアアル如何トナレバ其レハ要用ノ時ニ於テ水兵而テ陸兵其人ニ付テ私ガ終リノ章ニ於テ汝ニ告グシ處ノ水兵而テ陸兵ノ援助ニ迄來ルデアロー處ノ人ハ彼等デアアル故ナリ

第二 民兵隊ハ陸軍ノ如ク砲兵隊歩兵隊而テ工兵隊ニ迄分タレテアル乍併其處ニ其レニ迄屬スル處ノ騎兵隊ガアラヌ 民兵隊ニ結合スル處ノ人ハ只時ノ或ル長サニ向テ左様ニ爲ス而テ一年ノ間ニ二三ヶ月ニ向テ兵士トシテ勤メルベク持ツ 彼等ガ隊ニ於テ勤メツ、アル間彼等ハ正規ノ兵ノ如ク仕拂テ受取ル乍然他ノ時ニ於テアテヌ 二三ヶ月ガ終リテアル時ニ彼等ハ次キ年迄彼等ノ家ニ迄歸リ行ク

第三 トハ雖モ若シモ國が大ナル危害ニ於テアルナラバ而テ其處ニハ戰爭ノ脅迫ガアルナラバ或ハ若シモ其處ニ實地戰爭ガ行ヒツ、アルナラバ民兵隊ニ於テノ總テノ人ガ招集サル、而テ其處ニ彼等ノ職務ニ向テ最早或ル必要ガアラザリシ迄彼等ノ聯隊ニ於テ共ニ保タル、法律ニ依テ民兵隊ハ外ニ行キ而テ外國ニ闘フベク爲サレヌ乍然幾度モ幾度モ其處ニ戰爭ノ危急ガアツタ時ニ士官而テ人ハ恰モ彼等ノ國ノ戰爭ヲ闘フベク是等ノ島ノ外ニ要サレシカノ如ク彼等自身ノ一致ニ付テ進ミ出タ

エブリマレマストウイフクエヤ  
若シモ要サレシナラバ各人ハ軍ニ勤メテバナラヌ

第四 私ハタ、ヒ當今ニ於テ左様ニ爲スベク願ヒシ處ノ人デ民兵隊ニ結合スルトハ雖モ猶其處ニハ法律ガアル其レハタトヒ其レハ長キ時ニ向テ任用サレナンダトハ雖モ猶成立スレニ依テ總テノ適當シタル人ハ國ノ防禦ニ向テ其レニ結合スベク爲サレ能フ處ノ法律ガ猶成立ス 若シモ國會ガ或ル時ニ於テ要用ト其レヲ考フルナラバ武器ヲ保ツベク適シテアル處ノ各々ノ人ハ民兵隊ニ於テ勤務スルベク招集サレ能フ是レハ民兵ニ向テノ投票徵集ト稱セラル、而テ私ハ法律ニ依テ各々ノ人ガ兵士トシテ彼レノ國ニ勤ムルベク爲サレ能フ事ヲ汝ニ告ゲシ時ニ私ガ意味スル處ノモノデアアル

ジョーレリ  
騎兵民兵隊

第五 騎兵民兵隊ハ歩兵民兵隊カラ全ク異リテアル 第一ノ場所ニ於テ彼レハ騎兵デアアル詳言スレバ彼等ハ馬ニ乗テアル 彼等ハ一般ニ農夫而テヨク國ヲ知ル處ノ其等ノ人デアアル而テヨキ乗者デアアル

彼等ハ彼等自身ノ自由ノ意思ニ付テ結合スル而テ一年ノ中只甚ダ僅少ノ時ニ向テ勤メル  
—— 屢々一週間ヨリヨク多クアラヌ

ボオルンゲイヤス  
義勇兵

第六 汝ノ最モ多クハ義勇兵ニ付テ或ルモノヲ知ル 殆ンド各々ノ都府而テ村ニ於テ其處ニハ歩兵砲兵カ或ハ工兵カノ義勇兵ノ軍隊ガアル 僅カノ場所ニ於テ猶又乘馬ノ義勇兵ガ見出サルベクアル而テ海岸ノ都府ノ或ルモノニ於テ海軍ノ義勇兵即チ水兵ガアル

第七 義勇兵ハ若シモ其レガ嘗テ侵襲サル、ナラバ國ノ防禦ニ向テ闘フベク用意シテアル處ノ總テノ人デアアル而テ其人ハ實際ノ職務ニ付テアルベク適スル要用ナル兵士ト爲ルベク爲メニ如何ニ訓練スベク發砲スベク而テ兵士ガ當時彼レガ多クヨリアリ能前ニ學ババナラヌ處ノ他ノモノヲ爲スベクカラ學ブベク彼等ノ時間ト而テ注意ノ部分ヲ廢止スベク喜ンデアアル處ノ人デアアル

第八 最初ノ義勇兵ノ軍隊ハ其處ニ吾々が佛蘭西ニ依テ侵攻サル、デアロー事ノ或ル恐レ

ガアリシ時ニ一千八百六十年ニ於組織サレシ其時ハ公民兵ノ新兵ニ依テ取ラレシ處ノ題目ハヨク撰バレシ處ノ而テ其レハ猶ホ心中ニ於テ保ツベク各々ノ義勇兵ニ向テ甚ダヨキ一ツデアル處ノ一ツデアアル

第九 其題目ハ挑戰スルニ非ズシテ防禦スルナリ詳言スレバ其レハ侵襲サレシ時ニ彼レノ國ヲ防グベク義勇兵ノ義務デアアル乍然吾々ヲ以テ關シ爲サヌ處ノ或ル他ノ國ノ安全ヲ脅スベクアラズ

第十 是レガ吾人が要スベク屬スル處ノ總テ、アル 如何トナレハ他ノ國ガ唯獨リ吾々ヲ見捨ルデアローダケ其レダケ長ク吾人ハ決テ彼等ヲ挑戰スベク或ハ彼等ニ於テ戰爭ノ恐ロシキ困難ヲ持チ來タシ能フ處ノ或ルモノヲ爲スベク要シ能ハヌ

義勇兵ノ要用

第十一 義勇兵ハ必要ノ時ニ於テ吾々ヲ防禦スベク適シテアルデアロー處ノ兵隊一共ニ吾々ヲ充ストニ於テ吾人ニ迄大ナル扶助デアアル而テ平和ノ時ニ於テ其レハ銃兵隊ガ組織サレ而テ保チ上ダラル、デアロー事ハヨキモノデアアル 第一ノ場所ニ於テ其レハ各人ハ彼レハ其ノ法律ニ依テ彼レヲ保護スル處ノ而テ其レハ彼レガ喜ブ處ノ自由ヲ彼レニ與ヘル處ノ國ニ迄或ルモノヲ歸スルコトヲ(則チ御陰蒙ル)感ズルデアロー而テ其レハ彼レガ職務ヲ其レニ

爲スベク或ル時間ト而テ或ル氣付ヲ止メ與ヘルベク用意シテアルデアロー事ハ正シクアル

第二ノ場所ニ於テ其レハ方法其レニ依テ人而テ特別ニ若キ人が如何ニ規律ガ服従ニ於テ屬スルカ而テ如何ニヨキ順序而テ要用ナル仕事ガ何レモニ於テ屬スルカヲ學ビ能フ方法ヲ持ツベクヨキモノデアアル

第二十六節

殖民地ニ於テ吾々ノ國人

第一 乍然私ハ此章ヲ終ル前ニ私ハ此書籍ノ初メニ於テノ地圖ニ於テ今一度眺メルベク而テ私ガ汝ニ告ゲン如ク同盟旗ガ飄ル處ノ場所デアアル處ノ而テ其處ニ吾々ノ同胞國人ガ住シ而働ク處ノ赤ク記サレシ場所ノ數ヲ今一度算ヘルベク汝ニ乞ハチバナラヌ

第二 其處ニハ汝ガ亦キ色ヲ見ヌデアロー處ノ世界ノ隅ガアラヌ

第三 北ニ於テ英領コロンプヤニ於テ南方ニ於テ大ナルオーストラリア州而テ遙カ下テ小ナルフオルク島ニ於テ東ニ於テホンコンニ於テ而テ西方ニ於テカナダ州而テチヤマイカニ於テ汝ハ其レヲ見出スデアロー而テ汝ハ如何ニ遙カ其レガ廣ガルカ而テ如何ニ大イナル世界ノ部分ヲ其レガ蓋フカヲ見ルハ汝ハ如何ニ總テ是等ノ大小ノ殖民地而テ所領ガ同盟王國ヲ組成スル處ノ小ナル島ノ陸軍而テ海軍ニ依テ保全サレ而テ保護サレ能フカヲヨク尋チ

能フカ

第四 實ニ若シモ吾々ガ助ケ能ハヌナラバ仕事ガ爲サレ能ハヌ 其レハ總テ吾々ノ勇力ヲ以テ而テ總テ吾々ノ富ヲ以テ吾々ニ向テ余リ大ニアルデアロー 乍然幸ニ吾々ハ唯獨リ仕事ヲ爲スベク殘サレテアラヌ 吾々ノ國人ハタトヒ彼等ハ海ヲ横切テ遙カ遠クニ住スルトハ雖モ彼等ハ彼等自身ノ防禦ニ於テ而テ彼等自身ノ權利ニ向テ闘フベク用意シテ而テ適シテアラヌ事程何ンデモ彼等ノ祖先ガ本國ニ於テアリシ處ノモノカラ變ゼナシ

第五 カナダ州ニ於テ塊ストリヤ州ニ於テ而テニユージーランドニ於テ其處ニハ兵器ノ仕用ニ迄而テ軍艦ノ取り扱ヒニ迄訓練サレシ人ガアル而テ其處ニ若シモ是等ノ大ナル殖民地ノアルモノガ外國ノ國民ニ依テ攻撃サルベクアリシナラバ彼等ハ唯獨リ彼等ノ戰爭ヲ闘フベク吾人ヲ見捨テヌデアロー 乍然彼等自身ノ防禦ニ於テ攻撃ヲ打ツデアロー事ノ疑ヒガアリ能ハヌ

第六 又ハ是ガ總テマアラヌ 其レハ其等其人ハ吾々ノ海岸ヲ離レタ而テ遙カ彼方ノ殖民地ニ於テ彼等ノ資財ヲ求ムルヘク行々處ノ其等ノ人カ國ソレカラ彼等ガ起タ處ノ而テ其人ノ高名ニ付テ彼等ガ左様ニ自負シテアル處ノ國ヲ忘却セナシナラズ猶彼等ハ故國ヲ害スベク求メ只僅少以前デアリシ 彼等ガ其レヲ忘却セナシナラズ猶彼等ハ故國ヲ害スベク求メ

ル處ノ或ル國民ニ依テ彼等ガ算ヘラレテバナラヌ事ヲ總テノ世界ニ迄明ラカニ示シタ

ハウォーネストリヤヘルブドジョールドカウソト  
如何ニ塊ストリヤ州ガ故國ヲ助ケシカ

第七 私ハ汝ノ最モ多クガ如何ニ甚ダ長キ以前デナクニユーザウスウエールスノ大ナル殖民地ニ於テ吾々ノ國人ガ亞非利加州ニ於テ吾々自身赤衣隊ト共ニ兼テ闘フベク彼自身ノ一致ニ付テ前方ニ進ミ來リ而テ彼等ノ兵隊ヲ送リシカチ記憶スルデアロー 望ム 彼等ハ吾々ノ危險ヲ分ケ前スルベク彼等ノ兵隊ヲ送リシノミナラズ猶彼等ハ兵器及ビ軍服ヲ以テ彼等ヲ備ヘルコニ付テ海ヲ横切テ蒸氣船ニ於テ彼等ヲ運送スルコニ付テ彼等ガ要サレシダケ其レ丈ケ長ク士官而テ兵士ニ仕拂フコニ付テ而テ戰場ニ於テ害サレシ處ノ人ノ場合ニ於テ彼等ノ親族ニ迄救助ヲ與ヘルコノ全キ費用ヲ仕拂ヒシ

第八 其レハ新南ウエールス殖民地ノ人ガ龍動カラエデインバーカラダブリンカラノ吾々ノ兵士ト共ニ肩ヲ並ベテ闘フベク來リシ時ニ此大英國ニ迄屬スル處ノ汝而テ私及ビ吾々ノ總テニ向テ大ナル口デアリシ 其レハ若シモ嘗テ實際ノ危險ガ吾々ノ國ヲ脅ナラバニユーザウスウエールスノ人ノミナラズ猶ホグイクトウリヤ殖民地ノカナダ殖民地ノニユージーランド殖民地及ビ總テ吾々ノ他ノ殖民地ノ人ハ吾々ヲ扶ケルベク準備シテアルデアロー事ハ望マルベクアル 私ハ彼等ガ用意シテアルデアローヲ信ズル

第九 乍然吾人が左様ニ多ク而テ左様ニ權力多キ朋友ヲ有スルコトノ知了ハ吾々ヲシテヨリ多ク吾々ノ權力ヲ任用スルベク用意セシムルベク屬セヌ 反對ニ於テ吾人ハ吾人ガ今アルヨリハ爭鬪ヲ避ケルベクヨリ多ク十倍氣付ケ多クアルベク寧ロ屬スル如何トナレバ吾人ハ吾人ガ付テ考ヘルベク吾人自身ヲ持ツノミナラズ猶ホ又其レハ吾人ハ吾々ノ過失カラ苦ミヲ受ケル處ノ而テ吾々ガ彼等ニ問フ事無ニ戰爭ヲ爲スベク仕事ヲ有セヌ事ヲ充分正シク云フデアロー處ノ世界ヲ越ヘテ總テ吾々ノ國人ノ數百萬ヲ考ヘルベク持ツ

戰爭ノ恐怖

第十 而テ私ガ彼等ハ正規ノ海軍而テ陸軍ニ迄屬スル處ノ其等ノ人デアアルカ或ハ彼等ガ義勇兵デアアルカ私ハ彼等ノ總テニ付テ而テ彼等ガ爲スベク持ツ處ノ仕事ニ付テ眞デアアル處ノ一ツノモノヲ云フデアロー

第十一 水兵而テ陸兵ノ仕事ハ鬪フベクアル 而テ其處ニ私ガ既ニ汝ニ告タ如ク其レガ彼等ガ左様ニ爲スデアロー事ハ正シク而テ要用デアアル時ノ時ガアル 乍然吾々ハ瞬間ニ向テ戰爭ハ其レガ正シク行ハルトモ人民ニ落チ能フ最モ恐ロシキ不幸ノ一ツデアアル事ヲ忘レテハナラヌ 幸ニ英國ニ於テ吾々ハ戰爭ノ結果デアアル處ノ不幸而テ困難ノ甚ダ僅カラ知ル

第十二 吾々ハ其レガ左様デアアル事ヲ謝シテアルベク屬スル乍然吾々ハ戰爭ハ嘗テ痛ミ而

テ哀ミ而テ零落而テ多クノ者ニ迄死ヲ引キ起スコト無ニ鬪ハレヌコト而テ而テ戰舉ガ引ヲ起ス處ノ外形ノ不幸ヨリヨリ惡クデサヘモ其レハ屢々其レヲ爲ス處ノ或ハ其レニ於テ仲間ヲ取ル處ノ其等ノ人ノ胸中ニ於テ起リヲ興ヘル處ノ惡キ而テ殘忍ナル感情妬シ而テ殘忍ガアル

第十三 私ノ何人モ曾テ戰場ヲ見ヌ或ハ頂度其レガ戰爭ニ由テ掃キ去ラレタ後國ヲ見舞ハナンダデアロー事ヲ信用スル 若シモ汝ガ戰爭ガ譽ムベキモノデアアルコト或ハ其レハ鬪爭ガ曾テ恐懼ノ外アルモノデアリ能フコトヲ考ヘルベク感ハサル、ナラバ其等ノ人其人ハ如何ニ其レノ結果ガ常ニアリ而テアラチバナラヌ處ノ實地ノ戰爭ヲ見タ處ノ其處ノ物語リカラ試ミ而テ學ベ

第十四 戰場ニ於テ死没而テ死スルコト負傷人ノ長キ行列苦痛ノ彼等ノ景況ヲ以テノ病院零落セシ而テ燒捨テラレシ家収納ハ散亂セラレ而テ野ハ耕サレザリシ而テ然ル時ニ再ビ戰爭ノ場所ヨリ遙カニ鬪ヒツ、アツタ處ノ其等ノ人ノ親屬并ニ朋友ハ彼等ガ失フタ親愛ナル一ツヲ越ヘテ哀ムコト而テ一步猶遙カ止メラレタ處ノ貿易而テ干涉サレタ處ノ職業而テ軍隊ニ於テ消費サレタ處ノ人民ノ難ク儲ケシ金ニ依テ引キ起サレテアル處ノ貧困ヲ汝自身ニ迄盡ケ而テ汝ハ如何ナルモノガ戰爭ノ結果ノ或ルモノデアアルカラ了解スベク始ムデアロー

不正ナル戰爭

第十五 而テ若シモ總テ是等ノモノガ必要デ而テ正シクアル處ノ戰爭ニ付テ誠デアロナラバ如何ニ多クヨリ多ク恐ロシク必要デモ無ク又ハ正理デモ無クアル處ノ戰爭ニ於テ入込ム  
一ノ結果ガアラホバナラヌヨ 然ル時ニ私ガ記載シタ處ノ困難而テ不幸ノ總テニ迄吾々自身ノ失策而テ吾々自身ノ惡キ情慾ノ結果ヲ罪無キノ人ノ幾千万ニ持チ來タシタ一ノ耻辱ト而テ罪業ガ附ケ加ヘラル、デアロー

第十六 過去ニ於テ英國ハ不充分ナル道理ニ向テ或ハ結果ニ付テ充分考ヘル一無ニ惡キ道理ニ向テ戰爭ニ於テ入込ム一ノ罪カラ常ニ自由デアラナシタ 其處ニハ汝汝等ノ總テガ兒童デアルカ或ハ童女デアルカ汝ガ成長シタ時ニ英吉利西ノ公民トシテ仕遂グルベク持ツデアロー處ノ義務ハ不氣ナル或ハ不必要ナル戰爭ニ於テ入り込ム一カラ此國ヲ保ツベクヨリハヨリ多ク要用ナル義務ガアラヌ

第十七 平和而テ戰爭ノ間ノ決斷ハ汝ヲ以テ倚ル如何トナレバ當時吾々ハ昔時ニ於テノ如ク英國ハ國王ニ依テ貴族ニ依テ或ハ人民ノ或ル少數ニ依テ戰爭ニ迄追ハル、事ヲ云ヒ能ハヌ 全人民ハ今日其處ニ戰爭ガアルカ或ハアラヌカラ云フベク權利ヲ持ツ 而テ若シモ英國ガ嘗テ不正ニ戰爭ヲ爲スナラバ其レノ非難ハ其レヲ妨止スベク彼レ或ハ彼女ノ最モヨキモノヲ爲サナシタ處ノ各々ノ公民ノ肩ニ於テ自今横ハルデアロー

第十二章

旗章一第一篇

爰而テ茲ニ英國ガ私ヲ扶ケ爲セシ如何ニ私ハ英國ヲ扶ケ能フカ

第二十七節

同盟旗章

第一 私ハ汝總テガ英國ノ旗ナル同盟旗ヲ知ルヲ望ム トニカク爰ニ如何ニ其レガ如クアルカラ汝ニ告ゲルデアロー處ノ其レノ畫圖ガアル總テノ後恐ラケハ汝ノ總テハ同盟旗付テ課業ヲ吾々ニ與ヘル一ノ要用ハ如何ニアルカ如何ニ其處ニ吾々ガ知リ爲サヌ處ノ一ニ付テ告ゲルベクアリ能フカラ云フデアロー

第二 吾々ハ其レハ共ニ縫ハレシ織物ノ片ニ付テ制セラレシ奇麗ナル手本デアローヲ知ル吾々ハ其レハ其處ニ行列ガアル時ニ都府ヲ飾ル一ニ向テ用非ラル、而テ戰爭ニ於テ兵士而テ水兵ニ依テ運バル、一ヲ知ル 今總テ是等ノモノハ誠デアアル乍然彼等ハ全キ誠デアラヌ如何トナレバ實ニ其處ニ之レヨリハ同盟旗ニ付テ云ハルベクヨリ多ク澤山ガアル 最初ノ場所ニ於テ如何ニ吾々ガ總テニ於テ旗ヲ持ツベク來リ爲スカ而テ其レノ意味ハ如何ニアルカ

第三 旗ハ今日英人ノ權力ノ外形ノ記章デアアル 其レハ眞デアアル其レ自身ニ於テ其レハ只絹ハ或ハ毛織物ノ一片デアアル乍然實際其レハ之レヨリヨリ多クアル如何トナレバ其レハ其レガ記號其レハ英人ガ彼等而テ總テ世界ヲ越ヘテ彼等ノ所領ヲ區別スベク而テ何處ニ英人ガ支配スベク而テ從ハルベク請求スルカヲ他ノ國民ニ迄示スベク撰ンダ處ノ記號デアアルヲ總テノ世界ニ迄知ラル、故ナリ

第四 其レハ恐ラクハ汝ハ私ガ旗ノ要用ニ付テ而テ其レガ勤メルベク正シク屬スル處ノ目的ニ付テ汝ニ與ヘルデアロー處ノ或ル例ニ迄來ル迄何ンデモ私ガ告ゲタ處ノモノヲ了解スベク甚ダ容易デアラヌ

ホラットシニニカンギツクミン  
何ヲ同盟旗章ガ意味シナスカ

第五 乍然最初ニ私ハ其レハ如何ニ其レガユニオン旗ガツマリ英國ノ旗ト成リシカ而テ何故ニ其レハ其レガ汝ニ畫圖ニ於テ見ル處ノ異リタル模様ニ付テ拵ヘラル、一デアアルカヲ知ルベク汝ヲ面白ガラステデアロート考ヘル 吾々ヲシテ片片ニ迄手本ヲ取ラシメヨ而テ再ビ共ニ其レヲ置カシメヨ 若シモ汝ガ氣付多ク眺ムルデアローナラバ汝ハ旗ハ或ルモノハ赤色或ルモノハ白色ノ異リタル十字形ノ數ニ付テ拵ヘラル、一ヲ見ルデアロー 今是等ノ十字形ノ各々ハ意味ト而テ歴史ヲ持ツ

第六 第一其處ニ斯クノ如ク十字形造スル處ノ中央ニ於テ大ナル赤キ十字ガアル而テ其レハ聖イントヂョーヂノ十字形ト稱サル、處ノ其レノ圍リニ白キ境ヲ持ツ而テ英國ノ記號デアアル若シモ汝ノ或ル者ハ新サヴァレン(貨幣ノ名)ヲ持ツベク充分幸デアアルナラバ汝ハ其レニ於テ昔物語ニ於テ告ゲラル、如ク龍ヲ殺ス處ノ聖イントヂョーヂノ圖畫ヲ見ルデアロー 甚ダ早キ時代カラ聖イントヂョーヂハ英國ノ保護聖人ト稱サレタ而テ其レガ何故聖イントヂョーヂノ十字形ガ英國ノ場所ヲ記スベクユニオンヂヤツクニ於テ用非ラル、カデアアル

第七 然ル時ニ若シモ汝ガ再ビ眺ムルナラバ汝ハ其處ニハ青キ地ニ於テ×ノ如ク形ヲ造ラレシ白キ十字ガアルヲ見ルデアロー 其レハ古物語ニ迄從フ處デア聖イントアレドリユーノ十字デアアル而テ蘇國ノ長キ<sub>一</sub>ニ向テ記號デアアル 而テ最後ニ汝ハ其處ニ最後ノ如ク白地ニ於テ只赤色ノ同シ形チノ十字形ガアル而テ其レハ愛國ノ大ナル聖人ナル聖イントパトリツクノ十字ガアル而テ左様ニ三個ノ十字形ハ意味ヲ持ツ而テ何ンデモ彼等ガ意味スル處ノモノハ英國蘇國愛國ノ同盟デアアル

第八 其レハ三國ノ十字ヲ共ニ結ビ付ケル處ノ觀念ガ三國ノ同盟ヲ記スベク實行ニ迄最初ニ置カレシ事ハ一千八百〇一年ニ於テヂョーヂ三世ノ御世ニ於テアリシ其時以來同盟章ハ國ノ旗章デアツタ而テ世界ノ各々ノ隅ニ迄運バレタ



旗章ノ用

第九 今私ハ何チ同盟旗章ニ於テノ模様ガ意味スルカラ汝ニ告ゲタ私ハ何ンデモ私ガ本章ノ始メニ於テ云フタ處ノモノニ迄後歸リ而テ何ニ向テ其レガ用非ラル、カ而テ何が其レニ付テ善デアアルカラ汝ニ説明セキバナラヌ

第十 汝ハ汝ガ戰爭ニ於テ而テ海上ニ於テ軍艦ニ依テ運バレシ旗ニ付テ屢々聞クヲ知ル乍然タトヒ同盟旗章ガ多ク困難ナル戰爭ニ於テ英吉利西ノ兵士而テ水兵ニ依テ運バレタトハ雖厄汝ハ其レガ平和ノ時ニ於テ或ル用ヲ持タヌヲ察シテハナラヌ 全ク反對ニ實ニ吾々ノ旗ガ勤メルベク爲サル處ノ最モ要用ナル目的ノ或ルモノハ何ンデモ戰爭而テ鬪争ヲ以テ爲スベク何シニモヲ持タヌ

第十一 短簡ニ於テ同盟旗ガ或ル場所ニ於テ適當ニ用非ラル、時ニ其レハ云ベク如ク左様ニ多クアル此處ニ英國ニ迄屬スル處ノ或ルモノガアル而テ其レハ英吉利西ノ人民ハ防禦スベク了解シタ 其レハ城砦ニ於テ或ハ軍艦ニ於テ置カレ能フ或ハ其レハ家ニ其レニ於テ英吉利西ノ公使ガ外國ニ於テ住スル處ノ家ヲ越ヘテ置カレ能フ然ル間ニ時トシテハ其レハ國其レハ嘗テ開明ノ政府ヲ持タナンダ處ノ國ニ於テ上ゲラル、而テ然ル時ニ總テノ世界ハ其時カラ先キハ英國ガ其國ノ政府ヲ支配スベク行キツ、アルヲ而テ公正而テ司法ガ其處ニ

爲サル、ヲテ見ルベクアルヲ知ル

第十二 旗ガ引キ下サル、時ニ或ハ取り去ラル、時ニ然ル時ニ其レハ吾々ノ國ハ最早場所其レカラ旗ガ行々處ノ場所ニ於テ服従サレシ其レノ願ヲ持ツベク意思或ハ權力ヲ持タヌ事ガ知ラル、

第二十八節

カーツームノ話

第一 左様ニ其レハサーチヤールスウイルソンガ彼レノ水兵而テ陸兵ノ僅カナ隊ヲ以テ彼等ヲ圍ミツ、アリシ處ノ亞ラビヤ人カラゴルドレ將軍而テ彼レノ大胆ナル城兵ヲ救助スベク余リ遅ク來リシ時ニ左様ニ其レガアリシ 數時間ニ雙ノ漁船ガ河ヲ上テ彼等ノ途ヲ爲セシ而テ遂ニ彼ハ圍コレシ都府ニ迄近ク得シ敵ハ兩方ノ岸カラ彼等ニ於テ砲發セシ而テ仲間ノ多クガ負傷セシ乍然尙ホ彼等ハ若シモ彼レガ尙ホ生テアリシナラバ彼等ノ國人ヲ助ケルベク決定ニ於テ押セシ

第二 速カニ總テノ眼ハ旗ガ猶ホゴルドンガ左様ニ長ク住シタ而テ彼レガ左様ニ大胆ニ防禦シタ處ノ家ヲ越ヘテ飄ガヘツテアリシカラ見ルベク引キ延バサレシ嗚呼彼等ハ無益ニ於テ眺メシ旗ガ其處ニアラザリシ而テ然ル時ニ彼等ハ彼等ガ實ニ余リ遅クアリシ事其レハ其

日ノ戦争ガ破レシ事而テカーツームガ敵ノ手ニ迄落タ事ヲ知リシ 總テ是レヲ彼等ガ旗ガ最早飄リツ、アラザリシ事ヲ見シ時ニ瞬間ニ於テ學ビシ

ラツクナウニ於テノ旗

第三 幸ニ吾々ハ常ニ余リ遅クアラザリシ而テ私ハ其處ニハ旗ガ救助ガ來リシ時ニ猶ホ飄リツ、アリシ處ノ危険而テ救助ノ他ノ話ヲ汝ニ告ゲルデアロト

第四 其レハ英吉利西ノ政府其レニ付テ私ガ既ニ汝ニ話タ處ノ英吉利西ノ政府ニ逆フテ印土兵ノ恐ロシキ一揆ノ間ニ印度ニ於テラツクナウノ有名ナル攻圍ニ於テアリシ

第五 英吉利西ノ男兒婦人而小供等ハ僅カノ信用アル土人ト共ニレシデンシイト稱サレシ大ナル家屋ニ於テ閉ゲ上ダラレシ而テ敵ノ數千人ニ依テ攻圍サレシ彼等ハ殆ンド五ケ月ニ向テ晝夜敵ノ彈丸ニ迄露サレシ 多クノ者ハ殺サレシ多クノ者ハ負傷サレシ而テ多クノモノハ印度ノ恐ロシキ熱ノ下ニ病氣ニ落チシ

第六 指令ニ於テ大盟ナル將軍サーヘンリイローレンスハ大砲ノ彈丸ニ依テ殺サレシ乍然猶ホ僅ナル英吉利西ノ隊ハ止メルベク拒ミシ 或ル時ニ於テ彼等ノ望ミハ英吉利西ノ僅ナル數ヲ以テハベロツク將軍ガ敵ヲ通シテ出デ來リシ而テレシデンシイニ迄彼レノ途ヲ爲セシ時ニ生キ歸リシ乍然將軍彼等自身ガ彼等ノ順番ニ於テ閉ゲ上ダラレリシ而テ外ニ出ル

ベク不適當デアリシ事程攻圍者ノ軍勢ガアリシ 左様ニ望ミガ消失セシ迄疲レタル三ケ月ガアリシ而テ終リガ近ク見ヘシ

救助

第七 乍然救助ガ手近ニ於テアリシ 五千ノ新兵ヲ以テサーコリンカンブベルハ攻圍サレシ都府ノ救助ニ迄急行ニ依テ進ミツ、アリシ

第八 幾度モ幾度モ彼レノ僅カナ軍勢ガ今彼等ノ勝利ニ依テ高メラレシ敵ノ軍勢ヲ通シテ彼等ノ通路ヲ切り能フ事ハ不適當ト見ヘシ 乍然一ツノ考ヘト常ニ將軍カラ下ノ方ニ至ル迄救助者ノ各々ノ一ツノ心中ニ於テアリシ 英人而テ其レヨリヨリ多ク英吉利西ノ婦人而テ小兒等ノ生命ハ彼等ノ成功ニ於テ屬セシ

第九 若シモ彼等ガ余リ遅ク到着セシナラバ彼等ノ國人ノ軍命ガ如何デアアルデアロカ、而テ左様ニ焦ゲル處ノ大陽ノ下ニ而テ敵ノ彈丸ノ下ニ彼等ガ進撃セシ而テ遂ニ彼等ガ都府ニ迄近ク來リシ時ニ問題ハ各人ノ唇ニ迄起リシ 其レハ余リ遅クアルカ

第十 然ル時ニ遠クノ城壁而テラツクナウノ塔ガ見ヘニ於テ來リシ時ニ彼等ハ戦争ノ烟ニ依テ猶ホ取り圍マレシ一ツノ建物ニ於テ彼等ノ眼ヲ向ケシ而テ其處ニラツクナウノレシデシノ上ニ彼等ハ猶ホ飄ヘル處ノ英吉利西ノ旗ヲ見シ而テ旗ハ彼等カ余リ遅クアラザリ

シ事ヲ遙カ向フカラ彼等ニ告ケシ其レハ彼等ノ働キハ無益ニ於テアラザリシ而テ其レハ他ノ口ガ過サレシ前ニ彼等ガ死ノ境ニ於テ左様ニ長ク立タ處ノ愛セシ一ツヲ彼等ノ心中ニ迄押シ能フ

第十一 其處ニテニソンニ依テ作ラレシ大ナル詩ガアル其レハラツクナウノ攻圍ノ話而テサーヘニリイハベロツクニ依テ最初ノ救助ニ付テ告ゲル 私ハ汝ハ自身ニ向テ其レヲ讀ムデアローヲ望ム乍然一二節ヲ私ハ今汝ニ與ヘルデアロー第一ニ詩人ハレシデンシイノ打チ毀タレタル城壁ヲ越ヘテ猶ホ飄ヘル處ノコラオヂヤツクヲ以テ攻圍サレタル城砦ヲ記スル而テ僅ナ城兵ノ困難而テ危險ノ畫圖ヲ吾々ニ與ヘル

第十二 英國ノ軍旗ヨ 時ニ限ラズオー 英國ノ軍旗ヨ汝ハ勝利アル戰爭ニ於テ浮ビシ或ハ戰爭ノ号叫ニ迄垂レ下リシラツクナウノ恐ロシキ圖ニ於テ屋根ノ頂上ニ於テ飄ヘル處ノ吾人ガ汝ヲ高メ舉ゲタ時ヨリハ決テヨリ大ナル名譽ヲ持タヌ 柱木或ハ索ヲ通シテ嘗テ吾人ハ新タニ汝ヲ高メ上ゲシ而テ嘗テ家屋ノ頂上ニ於テ英國ノ軍旗ハ吹キ飄リシ 吾々ガ吾々ノ生命ヲ以テ保チ守リシ處ノ攻サレシ城ヲ防禦セシ處ノ仕事ハ破レ易キナリ 婦人而テ吾々ノ中ノ小兒吾々ノ小供而テ婦妻實ニ憐ムベキ有様ナリ 吾人ガカラ及ブ丈ケ其レヲ保守シ 而テ五十日或ハ最極端ノ危キ時二十日ニ向テ守レリ「余ハ汝ニ命ズ決テ降ル

ナ乍然各人ハ彼レノ位置ニ於テ死セヨ」死セシ處ノ吾々ガ愛セシ 大胆女ノ最モヨキ吾々ノローレンスノ語氣ガアリシ 吾々ガ彼レヲ接吻セシ時ニ彼レノ額ハ冷クアリシ 吾々ハ其夜彼レノ墓ニ於テ彼レヲ横ヘシ 「各々ノ人ハ彼レノ位置ニ於テ死スルヨ」 而テ其處ニ吾々ノ家而テ座敷ニ於テ彼等ノ小銃ノ彈丸カノ死而テ彼等ノ大砲ノ彈丸ノ死吾々ノ極内部ノ室ニ於テノ死而テ吾々ノ輕キ堡柵ニ於テノ死吾々ガ銃ヲ持テ立チシ間ニ死而テ吾々ガ鐵ニ迄俯セシ間ニ死死人ニ迄死而テ負傷人ニ迄負傷ガ穢ノ如ク注ギ下リシ 如何トナレバ屬々其處ニ病院ノ牆壁ヲ撃ツ處デ而テ其レヲ通打チ碎ク處デ彼等ノ彈丸而テ彼等ノ爆彈ガ落チ下リシ故ナリ

第十三 而テ詩ハ救助ノ喜バシキ報知而テ婦人而テ小兒其人ヲ彼等ガ救助スベク來タ處ノ憫レナル婦人而テ小兒等トハベロツク將軍ノ出會ヲ以テ終ル 聞ケヨ 大砲ノ轟撃ヨ 小銃ノ轟撃ヨ 其レハ何ンデモ斥候ニ依テ告ゲラレシ處ノモノハ眞實デアルカ アウトラム而テハベロツクハ兇猛ナル謀反兵ヲ通シテ彼等ノ道ヲ破リツ、アルカ 慥カニ歐羅己ノ軍歌ガ吾々ノ耳ニ於テ再ビ起リツ、アルヨ 突然城兵ハ歡喜ノ叫ビヲ發言セシ ハベロツクノ率イシ名譽アルハイランド兵ハ勝利アル歡ノ喜ノ聲ヲ以テ答ヘリ 病院カラ病人ハ彼等ニ反答セシ婦人而テ小兒ガ出來リシ ハベロツクノ善キ輕歩兵

ノ健康ナル白キ顔ヲ幸福ヲ祈ル處デ 彼等ノ涙ヲ以テ滋リシハイランド兵ノ苦戰セシ手ヲ  
 接吻スル處デ凱歌ニ迄躍リシヨ 救助ヨ 吾々ハ救助サレシヨ 其レハ汝デアアルカ  
 其レハ汝デアアルカ ハベロツク將軍ノ勇氣ニ依ノ救助サレシヨ 天ノ幸福ニ依テ救助サレ  
 シヨ 「五十日間ニ向テ其レヲ保守セシカ 吾人ハ八十七日ニ向テ其レヲ保守セシ  
 ヲ」而テ常ニ宮殿ノ屋上ニ於テ高ク英國ノ古キ軍旗ガ飄ヘル  
 第十四 私ハ如何ニ旗ハ世界ニ迄記號面表章ノ部分ヲ働クカヲ汝ニ示スベク失敗而テ成功  
 ノ是等ノ二ツノ物語ヲ汝ニ告ゲタ カーツームニ於テ彼ガ去テアリシ而テ其レハ英國ハ其  
 處ニ善ニ向テ或ハ害ニ向テ最早或ル權力ヲ有セヌ事ヲ意味スル ラツクナウニ於テ旗ハ猶  
 ホ浮ビシ而テ其レカラ人ハ英吉利西ノ權力ガ尙ホ維持サレシ事ヲ知リシ  
 第十五 カーツームノ話或ハラツクナウノ話ニ迄トシテ彼等ハ充分ナル長サニ於テ彼等ニ  
 付テ汝總テニ告ゲル處ノ或ル書籍ニ於テ讀テヨク價値アル 彼等ハ汝等總テヲシテ英國  
 人デアアルコトニ付テ高慢シテ感ゼシムデアロー處ノ大胆而テ忍耐ノ立派ナル說話デアアル  
 私ハ何ンデモ私ガ旗ニ付テ意味スル處ノモノヲ只汝等ニ示スベク茲ニ全ク短簡ニ彼等ニ付  
 テ汝ニ告タ

第十三章

旗——第一篇

大帝國而テ心ガ共ニ惡ク行カヌ

(註我英國ハ大帝國ニシ其人民ハ悉ク善ク其道ヲ守レリ

第二十九節

平和

第一 乍然ユニオン旗ハ戰爭ノ時ニ於テノ如ク左様ニヨク平和ノ時ニ於テ其レノ用ヲ持ツ  
 常ニ其處ニ汝ガ汝ノ歴史ニ於テ操リ反サレテ見出スデアロー處ノ大ナル格言ガアル事ヲ  
 記憶セヨ 英國ノ旗下ニハ奴隸ガ呼吸セヌ  
 第二 此格言ノ意味ハナンデアアルカ 其レハ英國ノ法律ニ依テ何人モ奴隸デアリ能ハヌ故  
 ニ左様ニ何處デモ英國ノ旗ガ飄ル處ニハ各人ガ自由デアリ而テアラテチバナラヌ事ヲ意味ス  
 ル  
 第三 其レハ私ガ左様ニ要用ト是レヲ考ヘルデアロー事ハ不思議ト見ヘ能フ如何トナレバ  
 汝ハ何人ガ當時他人ニ付テ奴隸ニ爲スコトニ付テ考ヘ能フカヲヨク問フ故ナリ  
 第四 幸ニ是レハ英國而テ大英帝國ノ總テノ部分ニ付テ實ニ誠デアアル乍然常ニ英國而テ彼  
 女ノ殖民地ニ付テサヘモ誠デアラサリシ而テ今日此時ニ於テ其處ニナオ奴隸トシテ男而女

ヲ賣リ而テ買フ一ノ惡キ實行ガナオ實行ガナオ保存サル、處ノ國ガアル

旗而テ奴隸制

第五 其レハ一千七百七十二年ニ於テ裁判官ハ英國ノ法律ニ依テ英國ノ内ニハ何人モ奴隸デアリ能ハヌ一ヲ決定セシ一ハ百年以前ヨリ多クヨリ多クデアラヌ乍然タトヒ吾々ハ本國ニ於テ奴隸制ニ付テ耻テアリシトハ雖モ吾々ハナオ外國ニ於テ其レヲ實行スヘク吾々ノ國人ヲ許セシ

第六 トハ雖モ遂ニ英國ニ於テ人民ハ世界ノ或ル部分ニ於テ奴隸制ガ英國ノ旗下ニ許サル、ハ如何ニ耻辱デ其レガアリシカチ了解スベク始メシ而テ總テノ最初ニ盡力ガ國會ニ於テ最モヨキ人ノ或ルモノニ依テ爲サレシ其人ノ中ノ重立タル人ハ奴隸賣買ニ迄終リヲ置クベク詳言スレバ亞米利加ニ於テ奴隸ヲ買フ一而テ捕ヘル一而テ亞米利加而テ西印度ニ於テ殖民地ニ迄大洋ヲ横切テ彼等ヲ運送スル一ニ迄終リヲ置クヘク重立タル人ノ中ニウイール一フオースガアリシ 多クノ功果ナキ試ミ而テ多クノ失望ノ後奴隸ノ味方ハ遂ニ彼等自身ノ道ヲ得シ而テ國會ハ一度ニ而テ總テニ向テ奴隸賣買ヲ廢セシ

第七 乍然奴隸賣買ヲ廢スベクハ充分デアラザリシ 其レハ吾々ノ旗ガ最早其等ノ恐ロシキ奴隸船ヲ越ヘテ搖動セザリシ一ハ誠デアリシ乍然ユニオン旗ガ英國ガ規則ヲ保チシ一ヲ示セシ處ノ國ニ於テ奴隸ガ尙ホ保タレ而テ賣買セラレ而テ癩ノ動物ノ如ク働クベク爲サレシ ウイールバ一フオースノ大ナル働キガ全フサレザリシ乍然幸ニ其處ニハヨキ味方ニ於テ彼レヨリハ少カラザル熱心ノ他ノ人ガアリシ其人ハ何處デモ英吉利西人ガ法律ヲ制定シタ處ノ世界ヲ通シテ何處デモ奴隸ヲ以テ廢止スベク英國ノ人民ヲ説キ進メルベク彼等ノ身命ヲ抛チシ

第八 一ツノ大ナル困難ガ打チ勝タルベク持タ奴隸ノ所有主ガ法律ノ下ニ彼等ヲ買フタ而テ法律ガ變化サレシ迄彼等ハ彼等ヲ保ツベク法律上ノ權利ヲ持タ 其レハ其レ故ニ彼等ガ總テ法律ニ於テ變更ニ依テ零落シテアリ能ハヌ事程左様ニ貨幣ニ於テ或ル仕拂ヲ奴隸所有主ニ迄與ヘルベク正シク考ヘラレシ 遂ニ人民而テ國會ハ説キ進メラレシ而テ一千八百二十三年ニ於テ國會ノ例令カ發布セラレシ其レニ依テ總テ大英帝國ヲ通シテ奴隸ハ自由ニ置レシ而テ二千萬磅ノ仕拂ガ前ノ奴隸所有主ニ迄爲サレシ

第九 今遂ニ英國ハ自由ニ彼女ノ手ヲ持タ而テ彼女ガ彼女自身廢シタ處ノ大ナル弊害ヲ廢止スベク扶ケ能フ

第十 總テノ開明國ハ奴隸賣買ヲ廢止スベク一致セシ而何時デモ奴隸賣買人ガ軍艦ニ於テ英國ノ旗ヲ見ル時ニ彼レハ逃レルベク試ル如何トナレバ彼レハ英吉利西ノ艦長ハ奴隸ヲ自

由ニ置クベク而テ賣買人ヲ罰セラルベク打テ棄ルベク彼レガ見ル處ノ各々ノ奴隸船ヲ取ル  
ベク命令ヲ持ツコトヲ知ル故ナリ

ユニオンヅツクノ下ニ自由

第十一 長キ以前デナク亞米利加ノ海岸ニ於テ或ル奴隸ガ英吉利西ノ船ニ迄群集セシ而テ  
英國ノ旗下ニ自由デアアルベク請求セシ或ル誤リニ於テ彼等ハ彼等ノ主人ニ迄送り歸サレシ  
乍然是ガ英國ニ於テ知ラレシ片ニ各々ノ人ガ怒テ而テ憤激シテアリシ而テ其レハ斯様ナル  
モノガ決テ再度起ルベク免サレヌマデアローコトノ命令ガ興ヘラレシ 左様ニ何時デモ奴隸  
ガユニオンヅツクノ陰ノ下ニ彼自身ヲ置キ能フ片ニ彼レハ自由デアアルデアローコト而テ其  
レハ何人モ彼レヲ請求スヘク免サレヌデアローコト事ヲ知リシ

第十二 扱テ然ル片ニ私ガ汝ニ告ゲシ如ク旗ハ或ハ無人ノ或ハ開ケザル國ガ英國ノ人民ノ  
爲メニ女王ノ名儀ニ於テ取ラレタコト而テ其時カラ其レハ英吉利西帝國ノ部分ト爲ルベクア  
ルコトヲ示スベク用非ラル、 ニューギニヤト稱サレシ汝ノ地圖ニ於テノ島ニ於テ眺メヨ其  
處ニ汝ハ私ガ汝ニ告ゲシ如ク其レハ其レガ大英帝國ノ部分デアリシ事ヲ意味スル處ノ赤  
キ色ノ土地ヲ見ルデアロー

第十三 只數年以前其赤色ノ土地ガ其處ニアラナシ如何トナレバ其レハ吾々ノ國人ノ  
間ガ其島ニ於テ上陸セシ而テ女王ビクトリアノ名ニ於テユニオンヅツクヲ上ゲシコトハ一  
千八百八十三年ニ於テ只アリシ故ナリ

何故吾々ガ旗ヲ尊敬スルデアローカ

第十四 私ハ私ガ如何ニ旗ガ實際アルカ而テ如何ニ其レノ仕用ガアルカヲ汝ニ示スベク充  
分告タト考ヘル 何ンデモ私ガ特別ニ記憶スベク汝ニ要スル處ノモノハ旗ハ其レ自身ニ於  
テ何モアラヌ乍然其レハ吾々ノ記章トシテ他ノ人民ノ前ニ立ツ故ニ其レガ譯山ヲ意味スル  
コトデアアル 其レハ人ガ旗ヲ尊敬シ而テ愛スルデアローコト事而テ吾々ノ國人ノ多クガ今ヨリ前  
ニ爲シタ如ク其レヲ防禦スルコトニ於テ彼等ノ生命ヲ亡フベク用意シテアルコトハ正シク而テ  
用要デアアル乍然吾々ハ其レハ爲メニ闘ヒ或ハ爲メニ死スルコトヲ價シテアル處ノモノハ實際  
染色セシ絹ノ片デアアラヌ乍然其レノ自身ニ向テ其レヲ撰ダ處ノ國ノ尊敬ト而テ名譽ニ向テ  
ッアルコト心中ニ於テ保子バナラヌ

第十五 而テ左様ニ汝ガ正シク而テ公正デアアル處ノ總テニ於テ各國ノ中ニ第一等ト大英帝  
國ヲ爲ズベク汝ノ最モヨキモノヲ爲スダケ其レダケ長ク左様ニ長ク汝ハ吾々ノ祖先ノ大胆  
而テ名譽ニ依テ左様ニ有名ニ成タ處ノ旗ヲ尊敬スベク而テ愛スベクヨク爲スデアロー

第十四章

租稅

各々ニ向テ總テ而テ總テニ向テ各々

(註公共ノ利益ノ爲メニ各人ハ其ノ費用ヲ出サズンバアルベカラズ)

第三十節

何ガ収稅ハットアップルタキセスデアアルカ

第一 終リノ僅カノ章ニ於テ私ガ國ガヨク治メラレ而テ防禦サレ能フ事ノ爲メニ爲サルベク持ツ處ノ總テ異ナリタル物ニ付テ汝ニ告ゲツ、アツタ 汝ハ遞信省外務省文部省而テ他ノ官省ガ働カル、カ如何ニ司法ガ爲サル、カラ學ンダ

第二 勿論其レハ總テ是等ノモノガ何モ無ニ爲サレ能ハヌ事ハ全ク明白デアアル 裁判官ガ仕拂レキバナラヌ軍艦ガ製造サレキバナラヌ郵便配達人ガ彼等ノ貨銀ヲ受取ラキバナラヌ而テ金ガ私ガ汝ニ迄記載シタ處ノ總テノ異ナリタル目的ニ向テ用意サレキバナラヌ 如何ニ此金ガ得ラルベクアルカ誰ガ其レヲ仕拂フカ而テ如何ニ其レガ集メラル、カ 吾々ヲシテ第一ニ何人ノ善ニ向テ金ガ費サル、カ而テ然ル時ニ吾々ハ速カニ其レヲ仕拂フベクソレハ何人カ義務アルカラ見ルデアロ

第三 昔時ハ何ンデモ今日和蘭多ノ國デアアル處ノ大ナル部分ハ海ノ下ニ横ル幾百年ノ間年

年和蘭多人ハ陸其レニ於テ彼等ノ都府ガ建テラル處ノ陸而テ野其レニ於テ彼等ガ彼等ノ家蓄ヲ飼ヒ而テ彼等ノ動物ヲ生スル處ノ野ヲ波カ恢復スベク働キシ日耳曼洋ノ水ヲ外ニ保ツベクダイク(堤)ト稱セラレシ土而テ煉瓦ノ大ナル堤ガ海岸ヲソフテ幾里モ建ラレタ 土手ノ外側ハ海デアアル 内側而テ下ノ海ノ水平ガ和蘭多ノ豊饒ナル野デアアル

第四 若シモ堤ガ破レルベクアリシナラバ水ガ注入シ來ルデアロ而テ數時間ニ於テ多クノ年ノ忍耐シタル勞働ノ仕事ガ打崩サル、デアロ 若シモ斯様ナル不幸ガ起ルベクアリシナラバ其レハ富人而已ナラズ或ハ貧人而已ナラズ其レハ農夫而已ナラズ又ハ製造人而已ナラズ乍然富人モ貧人モ高貴ノモノモ下賤ノ者モ各体其人ハ水ノ打人ニ依テ覆滅サル、デアロ 其レハ其レ故ニ總テノ保護ニ向テ堤ガ維持サレ而テ善キ修繕ニ於テアルデアロ 事ハ必要デアアル 而テ各人ハ等シク堤ニ依テ保護サル、故ニ左様ニ各人ハ彼等ヲ維持スルコトニ向テ仕拂フベク於テ呼バル、 何ンデ公共ノ善ニ向テ保タル、處ノモノハ公クノ金カラ仕拂ル、デアロ

第五 長キ以前デナク高等裁判廳トシ知ラレシ甚ダ大ナル建築ガ龍勤ニ於テ建築サレシ其レノ内側ニ法庭其レニ於テ裁判官ガ英國ノ總テノ部分カラ彼等ノ前ニ持チ來タサル、處ノ訴訟ヲ裁判スベク座スル處ノ法庭ガアル 而テ法庭ノ外ニ其處ニ其等ノ人其人ハ司法

ヲ管理シ而テ法律カラ適當ナル運轉ノ後ニ眺メル處ノ其等ノ人ガ彼等ノ仕事ヲ爲ス處ノ役所ノ甚ダ大ナル數ガアル 此大ナル建築費用ハ汝ガ許ス如ク甚ダ大ナル金高而テ或ル單ナル人ガ仕拂フベク許シ能フヨリハ遙カヨリ多ク大ナル百萬磅ヨリ少カラザルナリ

何人ガ仕拂フカ

第六 今何人ガ此大ナル金高ヲ仕拂爲セシカ其レハ法庭ヲ用非シ處ノ只其等ノ人其等ノ人其人ハ裁判官ニ依テ彼等自身ノ爭論ヲ一定シ得ルベク法律ニ訴フル處ノ其等ノ人ガ仕拂フベク持タナラバ彼等ハ甚ダ速カニ零落スルデアロー而テ實ニ彼等ハ若シモ其レガ左様ニ高價ニ費用スルナラバ彼等ニ迄爲サレシ公正ヲ得ルベク決テ試ミヌデアロー 如何ニ然ル時ニ金ガ得ラレタカ總テノ最初ニ吾々ハ其レハ法庭ヲ用非ル處ノモノ何人デアアルカ而テ其レハ法律ニ訴ヘル處ノ人ハ何人デアアルカヲ考ヘテバナラヌ 實際ノ事柄トシテ實地法律ニ訴ヘ爲ス處ノ人民ノ數ハ甚ダ大ニアラヌ 乍然タトヒ各々人ハ法庭ヲ用非爲サヌトハ雖モ各々ノ人ハ何時デモ彼レガ左様ニ爲スベク要スル時ニ彼等ヲ任用スベク權利ヲ有ス

第七 法律ハ富人貧人モ等シク總テノ利益ニ向テ成立ス而テ其レハ只其等其人ハ實際彼等ノ爭論ヲ裁判官ノ前ニ一定シ得タル處ノ其人而已ガ法律ノ利益ヲ得ルノ人デアラヌ 其處ニ公明ニ決斷スルデアロー處ノ裁判官ガアルダケ其レダケ長ク左様ニ長ク國ハ常ニ其處ニ

ハ誠ノ司法ガアラヌ處ノ起生スル處ノ總テノ危險而テ不和カラ安全デアアル 而テ斯様ニ其レハタトヘ各人ガ高等法庭ヲ用非爲サヌトハ雖モ尙ホ各人ガ彼等ニ依テ利益スル

第八 而テ左様ニ吾々ハ何人ガ法廷ヲ建築スルコトニ向テ仕拂フベク屬スルカノ問題ニ迄歸リ來ル 而テ答ハ彼等ノ利益ヲ得ル處ノ其等ノ人ガ彼等ニ向テ仕拂フベク屬スルコトデアアル 乍然吾々が見タ如ク各体ガ彼等ノ利益ヲ得ル而テ其故ニ各体ハ彼等ニ向テ仕拂フベク屬スル 而テ是レハ何ンデモ實際起ル處ノモノデアアル 公共ノ仕事ハ公金カラ仕拂ハル

第九 是等ノ二ツノ説明カラ私ハ汝ガ何ンデモ私ガ租稅而テ取稅ニ付テ告ゲルベク進ミツ、アル處ノモノデアアル而テ其レハ汝ハ如何ニ其レハ法庭ヲ建築スルコトニ向テノミナラズ尙ホ私ガ前ノ僅カナ意ニ於テ汝ニ告ゲシ處ノ總テ大ナル公ケノ仕事ヲ爲スコトニ向テ金ガ徵集サル、僅カヲ學ブデアロー

何ガ租稅デアアルカ

第十 租稅ハ總テノ人ノ善ニ向テ總テノ人ニ依テ爲サレシ仕拂デアアル 其處ニハ分レタル人民ニ於テ出來ベク爲サレ能ハヌ乍然總テノ人ノ利益ニ向テ國ノ政府ニ依テ企テラレテバナラヌ處ノ英國ノ如キ大ナル國ニ於テ爲サレテバナラヌ處ノ多クノモノガアル



第十一 斯様ニ例令バ私ガ前ニ汝ニ告ゲシ如ク裁判官ガ任拂ル、デアロート法庭ガ建築サル、デアロート郵便配夫ガ彼等ノ賃銀ヲ受取ルデアロート而テ船ガ製造サル、トハ其レガ必要デアアル 總テ是等ノ物ハ等シク各体ニ向テ必要デアアル 其レハ各人ガ法律ニ訴ヘ爲サヌトハ誠デアアル乍然其ハ猶又若シモ其處ニ裁判官ガアラザリシナラバ正シク爭論ヲ定メルトノ方法ガアラヌ而テ犯罪人ヲ罰スルトノ道ガアラヌデアロート事ハ誠デアアル而テ吾々ハ甚ダ速カニ國其レニ於テ其處ニ法律又ハ司法ガアラザリシ處ノ國ハ一ツ其レハ何人モ安全ト而テ幸福ヲ以テ生活シ能ハヌ處ノ國デアリシト見出スデアロート

第十二 左様ニ猶又吾々ノ陸兵而テ水兵ヲ以テアル 各体ハ軍陸或ハ海軍ニ迄行クベク願爲サヌ其レハ望マルベクアル甚ダ僅カナ人民ハ只鬪争ノ爲メニ戦争ニ迄行クベク國ヲ願フ乍然吾々ノ總テハ如何ニ生活ニ於テ吾々ノ位置ガアルトモ陸軍而テ海軍ガ此國ニ迄興ヘル處ノ保護ニ付テアル故ニヨリ多ク安全ニ爲サル、而テ若シモ汝ガ汝自身ニ向テ考ヘルナラバ汝ハ總テノ人ノ善ニ向テ爲サル、處ノ多クノ他ノモノヲ見出スデアロート而テ其レ故ニ其レハ總テノ人ニ依テ任拂ハルベク屬スル

第十三 是等ノ物ニ向テ任拂フベク金ハ租稅カラ來ル 私ハ何ンデ租稅ガアルカ而テ如何ニ彼等ガ徵集サル、カニ於テ少シヨリ遙カ汝ニ告ゲルデアロート 汝ハ總テ私ガ話シタ處ノ

物体ハ何處ニデモ彼等ガ住スル處而テ如何ニ彼等ノ職業ガアリ能フトモ王國ニ於テ各人ニ關スル

レイト(我國地方稅戶數割ヲ云フ)

第十四 汝ハ大ナル多クノモノガ其ニ於テ住スル處ノ其等ノ人ノ愉快而テ便利ニ向テ各々ノ都府而テ村ニ於テ爲サルベク持ツトヲ知ル 市街ガ修繕サルベク持ツ街渠ガ成サレ而テ順序ニ於テ得タルベク持ツ警官ガ順序ヲ保護シ而テ罪人ノ責任ヲ取ルベク任拂ルベク持ツ勿論市街ニ於テノ各々ノ人ハ町其レヲ通シテ彼レガ通行セシ處ノ町ヲ順序ニ於テ保シ能ハヌ又ハ或ル一人ハ彼自身ノ任用ニ向テ警官ニ任拂フベク適シテアラヌデアロート又ハ實ニ許サレルデアロート 左様ニ總テ是等ノモノ而テ多クノ他ノモノニ向テ其レハ私ガ汝ニ告ゲシ如ク裁判官警官陸軍而テ海軍ノ場合ニ於テ採用サレシ同シ企テヲ採用スベク普通デアアル 都府人而テ村人ハ都府或ハ村ニ於テ住スル處ノ總テニ迄必要デアアル處ノ是等ノ物ニ向テ任拂フベク共ニ結び付ク 最等ノ目的ニ向テ爲サル、處ノ任拂戸數稅ト稱セラル、

第十五 勿論其處ニ大ナル都府ニ於テ而テ小ナル村ニ於テ要サル、處ノモノ、間ニ屢々大ナル差別ガアル 例令バ大ナル都府ニ於テハ火事ノ危險ハ其レガ總テノ家屋ガ互ニ離レテアル處ノ村ニ於テアルヨリハ多クヨリ大ニアル而テ夫レ故ニ其レハ他ニ於テ要サレヌ處ノ

一方ノ場合ニ於テ消防機械而テ消防夫ヲ準備スベク必要デア  
第十六 而テ二ツノ大ナル都府ノ間デスラモ其處ニハ屢々大ナル差別ガアル例令バブライ  
トノ如キ斯様ニ河岸ニ於テノ都府ニ於テハ其レハ海チ外ニ保ツベク強キ壁ヲ持ツベク要  
用デアアル其レニ反シテバーシングハム或ハリーダノ如キ斯様ナル内地ノ都府ニ於テハ海壁  
が要サレヌ

第十七 此道理ニ向テ戸數稅ノ徵集ハ租稅ノ其レニ反シテ各々ノ都府而テ村ノ人民ニ迄打  
チ任サル、而テ國會ニ依テ決定サレヌ 龍動ノ都府ニ於テ其レハ戸數稅ノ高ヲ定メ而テ彼  
等ヲ徵集スル處ノモノハ知事而テ會社デアアル 最モ多クノ都府ニ於テ其レハ此義務ヲ仕遂  
ル處ノ人ハ市會義院デアアル其レノ議員ハ猶又戸數稅仕拂人ニ依テ撰舉サル、多クノ都府  
ニ於テ戸數稅ハ私ガ記載シタ處ノ其レ等ヨリハ他ノ目的ニ而テ徵集サル、例令バ市街ヲ  
點火シ而テ水ノ供求ハ地方稅カラ仕拂ル、

第十八 トハ雖モ龍動而テ或ル他ノ場所ニ於テ瓦斯並ニ水ハ何レモ水ヲ用意シ而テ彼等ノ  
自身ノ費用ニ於テ瓦斯ヲ制シ而テ彼等ヲ要スル處ノ其等ノ人ニ迄彼等ヲ賣ル處ノ私ノ會社  
ニ依テ供求サル、其レハ龍動而テ其他ノ場所ニ於テ瓦斯而テ水ニ向テ爲サル、處ノ仕拂ハ  
瓦斯稅而テ水稅ト稱サル、乍然彼等ハ私ガ付テ話シツ、アツタ他ノ仕拂ノ如ク同シ意味ニ

於テノ地方稅デアアラヌ如何トナレバ彼等ハ市府或ハ長老會義院或ハ或ル役所ニ迄仕拂  
ヌ乍然利益ヲ爲スノ爲メニ要サル、處ノ仕事ヲ爲ス處ノ私ノ人ニ迄仕拂ハル、故ナリ  
其レハ吾々ガレートニ付テ話ル時ニ心中ニ於テ此區別ヲ承知スベク而テ何人ニ迄仕拂ガ實  
際行バル、カラ記憶スベクヨクアル

學校稅(教育費)

第十九 其處ニタトヒ汝ハ第十八章ニ於テ其レニ付テヨリ多ク見出スデアロートモ私ガ爰  
ニ記載セキバナラヌ處ノ稅ノ他ノ種類ガアル而テ其レハ教育費デアアル是レハ總テ他ノ稅ノ  
如ク總テノ人ノ善ニ向テ總テニ依テ爲サレシ仕拂デアアル 其レハ小供等ガ無學ニ於テ成長  
スベク許サレヌデアロートハ總テノ人ノ善ニ向テアル而テ其レ故ニ其レハ教育ノ適當ナル  
方法ガ供求サル、トヲ見ルベク總テノ人ノ義務デアアル 教育費ハ市府或ハ會社ニ依テデハ  
ナクシテ乍然或ル都府或ハ村ニ於テ小供等ノ教育ノ後ニ眺ムルベク目的ニ於テ撰舉サレシ  
体デアアル處ノ學務課ニ依テ定メラル

第三十一節

何ガ國ノ仕拂デアアルカ

第一 私ハ國ノ仕事ヲ爲スノ向テ一年ニ於テ要サル、處ノ金ノ量ニ付テ汝ヲ益スル處ノ

一二ノ事實ヲ今汝ニ與ヘルデアロー  
 第二 汝ハ如何ニ各々ノ家ニ於テ其處ニ左様ニ多ノ金ガ入り來リ而テ左様ニ多ガ出行カラ  
 知ル 凡テノ金ソレハ一家ノ父或ハ其レノ或ル他ノ仲間ガ儲ケ職業或ハ商業ニ於テ爲サレ  
 シ利益而テ家ニ於テ住スル處ノ其等ノ人ニ迄仕拂ル、處ノ他ノ金高ハ收入則チ入金アルデ  
 第三 斯様ニ地代金ノ如キ屠人而テ雜貨商ノ勘定書ニ向テノ金衣類長靴而テ其他ノ如キモ  
 ノニ向テノ金ノ如キ斯様ナルモノガ出金或ハ費用ヲ成ス 若シモ其レガ賢ク整理サレシ家  
 事デアアルナラバ取ガ出費ヨリ多クアル事程常ニ氣付ガ取ラル、デアロー而テ若シモ其レガ  
 受取ラレタヨリヨリ多クガ費サレタ事ガ起生スルナラバ賢キ人ハ一度ニ彼レガ金ヲ値スル  
 處ノ物ノアルモノヲ廢シ能ハヌカヲ見ルベク働クベク始ムルデアロー而テ左様ニ其レハ一  
 年ノ終リニ於テ彼レガ品物ニ迄少シヲ持タ而テ他人ニ迄借金ヲ負フ事ノ代リニ銀行ニ迄置  
 クベクアルモノヲ持ツ事程少シ少キヲ以テ爲ス  
 第四 左様ニ其レハ國ヲ以テアル或ルヘク屬スル 一方ニ於テ其處ニ收入ガアル而テ他方  
 ニ於テ出費ガアル而テ其レハ常ニ受取ラル、ヨリ少ク費スベク善キ政府而テ賢明ナル國會  
 ノ義務デアアル

ジーカウントリースアカウレンツ  
 國會ノ會計

第五 例令バ一千八百八十三年ノ一年間ニ於テ英國ノ收入即チ歳入ハ八千七百萬磅ニ迄總  
 計セシ而テ出金則チ歳出ハ八千六百九十九萬九千磅ニ迄計算サレシ  
 第六 受取ラレシ八千七百萬カラ四千六百萬則チ半額以上ガ麥酒、酒類、煙草、茶而テ他物  
 其レニ付テ私ガ是ヨリ後汝ニ告ゲルデアロー處ノ僅カノ他ノ物ニ於テノ稅カラ來リシ 殆  
 ンド三百萬磅ガ家屋而テ陸ニ於テノ稅カラデアリシ然ル間ニ八九百萬磅ノ間ガ電信料ニ於  
 テ仕拂ハレシ一志而テ書翰ニ於テノ郵便切手ニ向テ仕拂レシ一ペニーニペンズ而テ三ペン  
 スカラ成サル、  
 第七 出金サレシハ千六百九十萬カラ殆ンド二千九百萬或ハ殆ンド全額ノ三分ノ一ガ軍  
 艦、銃砲、人、年金、而テ軍服ニ向テ海軍而テ陸軍ニ迄行キシ 六百萬磅ガ裁判官、法庭建築  
 而テ監獄而テ罪人ヲ保ツトニ仕拂フトニ向テ費サレル 四百五十萬磅ガ教育ニ於テ費サレ  
 シ 如何ニ金ノ總テ此驚クベキ總高ガ徵集サルベクアルカ而テ何人ガ其レヲ仕拂フベクア  
 ルカ 其レハ租稅仕拂人ニ依テ仕拂ハレ而テ二ツノ異リタル方法ニ於テ徵集サル、  
 直稅而テ間稅  
 第八 私ガ汝ニ告ゲシ如ク租稅ハ全國ノ普通ノ善ニ向テ彼レノ家産ニ迄比例ニ於テ各人ニ  
 依テ爲サレシ仕拂デアアル 彼等ハ直稅而テ間稅ト稱サル、 此レハ最初ニ於テハ了解スベ

ク寧ロムツカシキ文章ト見ユル乍然其レハ實際左様ニアラヌ私ヲシテ説明セシメヨ  
直税 ダイレクトキセス

第九 直税ハ彼等ヲ取ルベク政府ニ依テ廻リ送ラレシ集税吏ニ迄直接ニ仕拂ハレシ金ノ高デア  
アル 例令バ其處ニハ所得税ト稱サル、處ノ租税ガアル 一年ニ百五十磅ヨリヨリ多ク  
ヲ受ケ取ル處ノ各々人ハ各百磅毎ニ幾何ツツ租税ヲ仕拂フベク持ツ ヨク大ナル所得ヲ人  
ガ受ケ取ルト彼レガ仕拂フベク持ツ處ノ金高ガヨリ大ニアル 所得税ハ各百磅ニ向テ三磅  
ニ迄殆レド一磅三志カラ變ズル

第十 扱又家屋ヲ所有スル處ノ其等ノ人ハ彼等ニ向テ租税ヲ仕拂フベク持ツ 租税ハ馬車  
ヲ有スルベク或ハ犬ヲ保ツベク許ニ向テ仕拂ハテバナラヌトヒ其レハ恐ラク彼等ノ主人  
ガ爲ス如ク彼等ノ生計ニ向テ左様ニ苦ク働ク處ノ羊飼ノ犬ガ負税サレヌ事ヲ知ルベク汝ヲ  
面白ガラルデアロトトハ雖モ犬ヲ保ツベク許ニ向テ仕拂テバナラヌ又ハ盲目ノ人ガ時々市  
街ニ付テ彼レヲ道クベク保ツ處ノ犬ガ徵税サレヌ 是レハ全ク正當デアアル如何トナレバ其  
レハ常ニ人民ガ若モ彼レガ撰ブナラバ無ニ爲シ能フ乍然其レハ彼等ガ彼等自身ノ愉快而テ  
慰ニ向テ保ツ處ノ只其等ノ物ヲ税ヲカケルベク賢クアル 此方法ニ依テ其處ニ貧人而テ彼  
等ヲ仕拂フベク不適當デアアル處ノ其等ノ人ニ於テ余リ困難ニ負擔スル處ノ税ノ少キ機會ガ

アル

第十一 總テ是等ノ例ハ何ンデモ直接税ノ意味ガ如何ニアルカラ汝ニ示スベク與ヘラル、

間税 インダイレクトキセス

第十二 今私ハ間税ニ付テ而テ何ヲ其レガ意味スルカラ汝ニ迄一言ヲ云ハテバナラヌ 私  
ハ敢テ云フ汝等ノ甚ダ多ガ其レヲ知ルヲ無ニ汝自身間税ヲ仕拂フタ

第十三 汝ガ茶ノ一杯ヲ呑ム各々ノ時汝ハ間税ヲ仕拂ツ、アル 麥酒ノ一杯或ハ葡萄酒ノ  
一杯ヲ人カ呑ム各々ノ時彼レハ間税ヲ仕拂テ仕拂ツ、アル

第十四 是レハ寧ロ初見ニ於テハ不思議ト見ユル乍然其レハ私ハ何ンデモ私ガ意味スル處  
ノモノヲ説明シタ時ニ汝が見ルデアロト如ク全ク誠デアアル 汝ガ知ル如ク此國ニ於テ呑マ  
ル、處ノ總テノ茶ハ外國カラ吾々ニ迄來ル 汝ガ雜貨商ノ店ニ於テ買フ處ノ茶葉ハ支那或  
ハ印度ニ於テ販ニ於テ生ゼラル、而テ船ニ於テ海上ヲ横切テ袋ニ持チ來タサル、

第十五 茶ガ此國ニ達スルヤ否ヤ其レヲ持チ來ル處ノ商人ハ如何ニ多ク其處ニ各々ノ船貨  
ニ於テアルカヲ告知スベク持ツ而テ上陸サレテアル處ノ茶ノ各々ノ磅ニ向テ彼レハ政府ニ  
迄税トシテ六ペンスヲ仕拂フベク持ツ 私ハ茶ノ一億五千八百萬磅ノ重量ヨリ少カラザル  
モノ時々一年ニ於テ此國ニ於テ陸上ケサル、事ヲ汝ニ告ル時ニ汝ハ此仕方ニ於テ政府ニ迄

仕拂ハレシ金高ハ甚ダ實ニ大ニアラネバナラヌ事ヲ見ルデアロー 而テ左様ニ其レガアル  
一千八百八十三年ニ於テ四百二十萬磅ヨリ少カラザル金ガ茶ニ於テ税ノ仕方ニ於テ受取  
ラレシ

第十六 乍然茶ハ此仕方ニ於テ課税サル、處ノ只ノ物デアラヌ 葡萄酒、麥酒而テ精酒ガ  
國ノ職務ニ向テ要サル、處ノ金ノ部分ヲ充スベク總テ爲サル、

第十七 葡萄酒而テ精酒ニ於テノ税ハ甚ダ大ニアル而テ是ガ全ク正クアル如何トナレバ第  
一ノ場所ニ於テ其レハ常ニ慰ミ而テ快樂ニ向テ只任用サル、處ノモノ而テ其レハ人ノ用非  
ニ向テ實際必要デアラヌ處ノ其等ノ物ヲ課税スベク最モヨクアル故ナリ而テ第二ノ場所ニ  
於テ左様ニ多クノ害ガ葡萄酒而テ精酒ノ悪キ用非ニ依テ爲サル、而テ酩酊ガ左様ニ恐怖ス  
ベク而テ憎惡ススベキモノデアアル其レハ若シモ當底或ルモノガ課税サル、ナラバ其レハ左  
様ニ多クノ不幸ノ原因デアラヌ處ノ強キ飲料ガ選出サル、デ(廢セラル、チ云フ)アロー  
故ナリ

第十八 茶而テ葡萄酒而テ麥酒及ビ酒精ノ外ニ其處ニ大ナル多クノ人民ニ依テ任用サ、ル  
處ノ他物ガアル乍然其レハ實際生計スベク人民ヲ適スルベク必要デアラヌ而テ其レハ煙草  
デアアル而テ其故ニ煙草ハ猶又課税サル、其處ニ猶又斯様ニ組系而テ干葡萄酒而テ香料ノ如

キ甚ダ多クノ他ノ物ガアル其レハ同シ仕方ニ於テ課税サル、乍然遙カ最モ要用ナルモノハ  
私ガ汝ニ迄記載シタ其等ノ物則チ茶、葡萄酒、精酒而テ煙草デアアル

第三十二節

何人ガ間税ヲ仕拂フカ

第一 乍然恐ラクハ汝ハ汝或ハ私ガ嘗テ是等ノ租税ノ部分ヲ仕拂フ事ヲ云フニ依テ當底  
何ンデモ私ガ意味スル處ノモノヲ問フデアロー如何トナレバ私ガ頂度今云シ其レハ金ガ外  
國カラ英國ニ迄品物ヲ持チ來セシ處ノ商人ニ依テ政府ニ迄仕拂レシハ全ク眞實デアルー  
秒待テ而テ汝ハ私ガ當底正シクアリシヲ見ルデアロー

第二 察スラク國ニ迄茶ヲ持チ來ス處ノ商人ガ仕拂フベク税ヲ持タヌト假定セヨ彼レハ如  
何ニ彼レノ花主ニ迄彼レノ茶ヲ賣ルニ依テ利益ヲ爲スベクカノ他ハ考ヘルベク何モヲ持  
タヌデアロー 彼レハ何ンデモ彼レガ支那或ハ印度ニ於テ茶ヲ生ズルニ於テ而テ此國ニ  
迄船ニ於テ越ヘテ其レテ持チ來タスニ於テ費シタ處ノモノニ向テ彼レニ拂ヒ及スベク充  
分ニ取り歸スベク持デアロー

而テ之ヲ越ヘテ彼レハ利益ヲ爲スベク詳言スレバ何ンデモ彼レガ彼レノ勞苦ニ向テ彼レニ  
仕拂フベク費タ處ノモノヲ越ヘテ而テ上ニ而テヨリ富有ニ成ルベク彼レヲ扶ルベク或ルモ

ノヲ得ルベク持ツデアロー

第三 乍然然ル時ニ彼レガ海上ヲ越ヘテ持チ來ス處ノ茶ノ各々ノ磅ニ向テ彼レガ六ペンスノ稅ヲ仕拂フベク持ツヲ記憶セヨ而テ若シモ彼レガ何ンデモ彼レガ費々處ノモノ、部分トシテ稅ヲ計算スベクアラヌナラバ彼レハ速カニ茶ノ賣却ニ於テ利益ヲ爲スノ代リニ彼レハ實際金ヲ損失シツ、アリシト見出スデアロー 何ヲ其故ニ彼レガ爲サチバナラヌカ其レハ彼レガ政府ニ迄稅金トシテ仕拂フ處ノ各々ノペニニ向テ彼レガ少フトモ彼レガ彼レノ花客ニ迄交換スル處ノ代價ニ迄一ペニナ附ケ加ヘテハナラヌ

第四 今何人ガ實際彼レノ花客デアアルカ 扱勿論汝而テ私而テ茶ヲ飲ム處ノ吾々ノ各々ノ一ツデアアル而テ汝而テ私而テ總テ他ノ茶ヲ飲ム人デアアル其人ガ實際茶ニ於テ稅金ヲ仕拂フ而テ左様ニ何ンデモ私ガ云シ處ノモ則チ其レハ汝ガ茶ノ一杯ヲ飲ム各々ノ時汝ハ間稅ヲ仕拂ツ、アルトハ全ク眞實デアアル

ジイフイニロータキビシスター  
租稅ガヨリ少クアルトヨリヨクアル

第五 勿論人民ガ馬車而テ犬ニ於テノ其等ノ如キ或ハ茶而テ煙草ノ其レ等ノ如キ間稅ヨリ僅カ租稅ヲ仕拂フベクアルトヨリヨクアル 如何トナレハ何レノ場合ニ於テモ仕拂ハル、處ノ金ハ此國ノ人民ノ囊中ヨリ來ル而テ彼等ノ多クハ汝ガ知ル如ク彼等ノ生計ヲ爲スベ

ク彼等地位(但シ家屋ノ借料ヲモ共ニ云フ)彼等ノ生活料而テ彼等ノ衣服ニ向テ仕拂フベク充分困難ト其レヲ見出ス 其レ故ニ其レハ出來ル丈ケ其レ丈ケ僅少ノ稅ガ國ニ於テ横ヘラ、デアロー事ハ最モ大ナル要用ニ付テアル而テ若シモ彼等ガ仕拂ハルベク持ツナラバ其レハ彼等ガ仕方其レニ於テ甚ダ貧窮デアアル處ノ其等ニ最少ノ難澁而テ困苦ヲ引キ起ス處ノ仕方ニ於テ仕拂ハル、デアロー事ハヨリヨクアル

タキビシスター  
麵麩ニ於テノ稅

第六 多クノ年以前デナク英國ニ迄來ル處ノ總テノ穀物ハ課稅サレシ而テ勿論穀物ヲ持チ來セシ處ノ其等ノ人或ハ寧ロ此穀物カラ制セラレシ處ノ麵麩ヲ持チ來セシ處ノ其等ノ人ガ此稅ノ仕拂人デアリシ 此ノ結果ハ麵麩ガ甚ダ高價ニナリシ 而テ國ヲ通シテ人總テ幾百萬人が彼等ノ麵麩ノ塊リニ向テ高價ヲ仕拂フベク持タ事デアリシ

第七 今麵麩ハ各人ニ向テ必要デアアル而テ高價ノ麵麩ニ向テ仕拂フベク許サレ與ハヌ處ノ其人ノ數ガ甚ダ大ニアリシ 各々ノ方ニ於テ歎訴ガ聞カレシ而テ多クノ場所ニ於テ其處ニ穀物ニ於テ課稅ニ依テ引キ起サレシ麵麩ノ高價ニ付テノ故ニ多クノ難澁而テ不幸ガアリシ 第八 多クノ地方ニ於テ騷動而テ擾亂ガ破裂セシ而テ人民ハ饑餓ヲ以テ脅カセシ而テ不正ナル而テ有害ナル法律ヲ以テ怒リ暴虐ヲ所爲ヲ犯セシ其レハタトヒ無智ニ彼等ガ彼等自身

ニ於テアツタトハ雖凡引キ起サレタ處ノ困難ハ如何ニ實際ニ而テ如何ニ大ニアリシカヲ示セシ

第九 長ラキ時ニ向テ穀物稅ヲ廢止シタヲ見ルベク願ヒシ處ノ人而其人ハ人民ノ食物ヲ課稅スベク不正ニ而テ無智ニ何レモ其レヲ考ヘシ處ノ其等ノ人ハ彼レ等ノ盡力ニ於テ不成功デアリシ乍然遂ニ一千八百四十六年ニ於テ穀物條令廢止ト稱サレシ國會ノ條令ガ發布サレシ而テ人民ノ食物ニ於テ此稅ガ永久ニ向テ廢止サレシ

第十 此大ナル變更ヲ持チ來スニ於テ重立タル部分ヲ取リシ處ノ人ハ常ニ英國ノ歴史ニ於テ有名デアアルデアロー 其處ニハリチャードコブデンヂオンブライトチャールスピアース而テサーロバートピールガアリシ 今私ハ私ガ何デ稅ガアルカ其レハ彼等ヲ仕拂フ處ノ人ハ何人デアアルカ而テ如何ニ彼等ガ徵集サル、カノ觀念ヲ汝ニ與ヘルベク充分汝ニ告タト考ヘル

國會ハ租稅ヲ投票スル

第十一 其處ニ彼等ニ付テ記憶サルベク一ツノヨリ多クノモノガアル而テ其レハ之レデア  
ル 其レハ當時其レハ租稅ヲ仕拂フ處ノ人其人ガ何ンデ彼等ガアルベクアルカ而テ如何ニ彼等ガ徵集サル、カラ決定スル處ノ人デアアル 是レハ常ニ左様ニアラザリシ 其處ニ

ハ國王ガ如何ナル金高デモ彼レガ撰ム處ノモノヲ人民ヲシテ仕拂ハシムルベク慣レテアリシ  
申ノ時代ガアリシ其レハトハ雖凡此企テノ不正ガ感セラレシハ長キ以前デアラザリシ而テ  
ヘンリ王第三世ノ御世ダケ其レ丈ケ遙カ以前ニ英國ノ國會ハ如何ニ多ク英國ノ人民ガ仕  
拂フデアローカラ決定スル事ノ權利ヲ請求セシ其レハ其權利ハ其レガ決テ其後止メラレ  
ナンダ

第十二 勿論其レハ權利ヲ請求スベク而テ其レヲ承認スベク他人ヲ得ルベク同シモノデア  
ラヌ ヘンリ第八世ノ御代ノ後數百年ニ向テ其處ニ國會ニ評議スルコト無ニ租稅ヲ徵集スベ  
ク國王ニ依テ試ミガ爲サレシ而テ甚ダ屢々國會ガ此爲サル、コトヲ妨碍スベク不適當デアリ  
シ

第十三 チヤールス王第一世ノ時ニ於テ内亂ヲ持チ來セシ而テ其レハ國王ガ彼レノ頭ヲ失  
フコト而テオリバールコロンウエルガプロテクトー(大宰攝政官)ニ爲サル、コトニ於テ終リシ處  
ノ内亂ヲ生セシ處ノ重ナル爭論ノ一ツハ國王ガ不法ニ徵集スベク願シ處軍艦製造ト稱セラ  
レシ租稅ノ仕拂ニ迄トノノ爭論デアリシ 彼レハ彼レノ設計ニ於テ名ニ依テヂヨンハンブ  
デンナル衆議院ノ甚ダ有名ナル議員ニ依テ抵抗サレシ而テタトヒ最初ニ於テハンブデンハ  
彼レノ大胆ナルコトニ向テ苦ヲ受クルベク好マシク見ヘシトハ雖凡終リニ於テ道理其レニ向





々自身カラ全ク異ナリタル或ルモノデアリシカノ如ク語ル  
 第四 時々トシテハ汝ハ小兒ダケ其レダケヨク成長シタル男而テ女ノ何レモガ恰モ彼等ガ  
 彼等自身ニ迄劣リタル或ル仕方ニ於テ彼等ヲ考ヘルカノ如ク外國人ニ付テ嘲弄シテ語ル  
 而テ汝ハ他ノ人ガ恰モ外國人ガ彼等ノ敵デアリシカノ如ク而テ其レハ世界ニ於テ英人佛人  
 ニ向テ或ハ英人日耳曼人ガ常ニ喧嘩シツ、アルベク常ニ雙互ニ怨ミツ、常ニ雙互ニ付テ利  
 益ヲ取ルベク試ミツ、アルベク最モ自然ノモノデアリシカノ如ク語ルヲ聞クデアロ  
 第五 何時デモ汝ガ此仕方ニ於テ語リツ、或ル体ヲ聞ク時ニ或ハ何時デモ汝ハ斯様ナル習  
 慣ニ於テ語ルベク或ハ考ヘルベク汝自身傾ニ感ズル時ニ其レハ希臘人支那人ヲ記憶スベク  
 而テ其レガ彼等ノ隣人ニ付テ斯様ナル馬鹿ラシキ説ヲ保ツトニ向テ彼等ニ於テ笑フベク全  
 ク明ラカデアリシカラ汝自身問フベク汝ニ向テ時デアアルデアロ

無學ノ結果  
ギリヤルトガライノラシ

第六 當底其レハ古昔ノ希臘人而テ今日ノ支那人ヲシテ夷狄ニ付テ語ラシムルハ此國ニ  
 於テノ人民ヲシテ日耳曼人佛蘭西人或ハ伊太利人ニ付テ無法ナル而テ不正ナルモノヲ云ハ  
 シメ而テ彼等ヲシテ人民其人ニ付テ彼等ガ實際何モヲ知ラヌ處ノ人民ヲ憎ミ而テ輕蔑セシ  
 ムルハ實際頂度同シ道理デアアル 何レノ場合ニ於テモ道理ハ無學デアアル

第七 小國ノ都會ニ於テ彼レガ二十歳デアアル迄住スル而テ決テ其レノ外ニ行カヌ處ノ小兒  
 ハ恐ラクハ其處ニハ寺領ノ寺ノ塔ノ如キ左様ニ高キモノハ世界ニ於テ何モアラヌヲ而テ其  
 レノ下ニ流レル處ノ小川ノ如ク左様ニ廣キ川ガアラヌヲ考ヘルデアロ 乍併彼レガ彼  
 レノ家ヲ去リ而テ外國ニ旅行スルヤ直チニ彼レハ彼レガ見ナシダ處ノ世界ニ於テ大ナル多  
 クノモノ而テ猶又彼レガ決テ付テ聞カナンダ處ノ澤山ガアルヲ見出スベク始ムル而テ甚  
 ダ長キ前ニ(直チニト云フ意味)彼レハ彼レガ出會スル處ノ人民ニ依テ笑ハルベク要スルニ  
 非ズンバ彼レ自身ノ故郷ノ驚クベキ事物ニ付テ語ルヲ止ルデアロ

如何ニ施行ガ吾人ニ教ユルカ  
ハットウラスルチニエス

第八 而テ同シ仕方ニ於テ左様ニ其レハ其處ニハ其レノ外方ニ善而テ善行而テ善制デアアル  
 處ノ甚タ僅少ガアル事ヲ吾々自身自信スベク此國ニ於テ吾々ガ住セシダケ其レ丈ケ長ク吾  
 々ニ向テ充分容易デアアル 乍併吾人ガ海上ヲ横ルト直チニ吾人ガ其處ニハ英國ノ外ニ各々  
 其レ自身ノ美而テ其レ自身ノ利益ヲ以テ或ル點ニ於テハ吾々ニ優リ他ノ點ニ於テ吾々ニ迄  
 劣ル處ノ他ノ大ナル國ガアルヲ見出スデアロ

第九 順番ニ各々ノ國ニ於テ吾々ハ吾々ガ本國ニ於テ吾人ガ慣レテアル如キ斯様ナル要用  
 ナル而テ幸福ナル生計ニ營ム處ノ男女而テ小兒ヲ見出スデアロ 而テタトヒ吾々ハ最初ニ

於テ吾々ガ見ル處ノ其等ノ人ノ仕方及ビ風俗ニ於テ大ナル區別ヲ觀察スルトハ雖モヨリ多ク吾人ガ人民而テ彼等ノ仕方ニ付テ知ルトヨリ少ナク實際ノ區別ヲ吾々ガ彼等ト而テ吾人自身トノ間ニ見出スデアロー

第十 何處ニデモ吾人が行ク處ニハ吾人ハ彼等ノ日々ノ食事ニ向テ苦ク而テ正直ニ働ク處ノ男而テ女ヲ見出スデアロー吾人ハ學校ニ迄行ク處ノ小兒等戀情ニ於テ落ちル處ノ而テ婚姻スル處ノ若キ男子而テ婦人數百ノ異リタル仕方ニ於テ善其レハ彼等ガ吾人ガ慣レテアル全ク同シ仕方デアラヌ故ニ少ク要用デアラヌ處ノ百般ノ仕方ニ於テ善ヲ爲ス處ノ總テノ年齢ノ男而テ女ヲ見出スデアロー

第十一 吾人ガ外國人ヲ見而テ語ル彼レヲ聞ク最初ノ時吾人ハ彼レノ奇ナルコトニ依テ而テ彼レヲ了解スルコトノ困難ニ依テ驚愕シテアルベク慥メテアル而テ吾人ガ外國ニ於テ足ヲ置ク最初ノ時吾人ハ何ンデモ吾人ガ本國ニ於テ慣レテアツタ處ノモノニ異リテアル處ノ總テノ事物ヲ直チニ觀察スルベク慥メテアル 乍併若シモ吾人ガヨリヨク外國人ヲ知ルベク得ルナラバ或ハ若シモ吾人ガ外國ニ於テヨク長キ時ヲ費スナラバ吾人ハ殆ンド一ツモ又ハ他モ實際吾人ガ最初ノ考ヘノ如ク左様ニ半分モ奇異デアラヌ事ヲ見出スベク慥ニアル

例 エニキザンフル

第十二 其處ニハマサシク彼等ガ奇異ニ見ユル故ニ事物ニ於テ笑ヒ或ハ彼等ノ仕方而テ風俗ガ最初ノ見ヘニ於テ吾々ノ仕方風俗ト異リテアルベク見ユル故ニ他ノ人民ニ於テ輕蔑セヌコトニ付テ甚ダ善課業ヲ吾々ニ教ユル處ノ話ガアル 汝ガ於テ笑ヒツ、アル處ノ奇異ナルモノハ實際本國ニ近ク全ク見出サルベクアル事ヲ汝ガ見出サヌデアロー丈ケ其レ丈ケ屢々只其レハ吾々ガ異リタル名稱ニ於テ其レヲ呼ビ而テ他ノ仕方ニ於テ其レヲ任用スル 私ハ次章ニ於テ話ヲ汝ニ告ゲルデアロー

第十六章

外國ニ對スル吾人ノ義務——第二篇

其處ニハ山ヲ越ヘテ人民ガアル

(註 日耳曼人ノ格言ニ自國境界ノ山ノ向フニモ人民アリト云ヘリ)

第三十四節

ゴーストレンザカウントリ  
奇異ナル國

第一 一度時ニ於テ或ル人ガ彼レノ旅行ノ物語ヲ與ヘルベク乞ハレシ 彼レガ云ヒシ「私ハ何ンデモ私ガ國其レハ私ガ近頃見舞而テ其レニ於テ私ガ其人ノ仕方而テ風俗ハ彼等ガ可笑カリシ如ク左様ニ奇異デアリシ處ノ奇体ナル人民ヲ見出セシ處ノ著ルシキ國ニ於テ見シ

處ノモノヲ汝ニ告ゲルデアロー  
第二「問題ニ於テノ國ハ島國デアリシ而テ私ハ私ガ其國ヲ見舞タ處ノ只人デアラヌヲ信ス  
ル而テ其レノ岸ニ達スルコトニ於テ成功シタ處ノ其等ノ他人ハ私ガ慥カテアル私ノ物語ノ信  
ヲ汝ニ慥メ而テ何ニデモ私ガ此特別ナル種屬ニ付テ云フ處ノモノハ旅行ノ物語ノ集メデア  
ラズシテ或ル理辭心而テ開明ノ或ル遺跡無シニアラヌ處ノ實際ノ人民ノ話デアルコトヲ汝ニ  
證據立ルデアロー

エンアカンツトオフシトライヤス  
種屬ノ話

第三「私ガ年ノ殆ンド此時ニ一度其處ニハ其レガ甚ダ寒冷デアリシ而テ貪賤ナル住民ハ饑  
餓カラ彼等ヲ保ツベク多クノ困難ヲ持タ處ノ國ニ於テアリシ 彼等ハ特別ナル技術ニ依テ  
柔カク而テ光潤ニ爲サレシ獸類ノ皮ニ於テ半バ乍併重ニ彼等ハ彼レガ生活シテアリシ間ニ  
彼レノ背後カラ剝ギ去ルベク如ク左様ニ殘忍デアリシ處ノ並体格ノ四足獸ノ外方ノ蓋カラ  
制セラレシ衣服ニ於テ着服サレシ

第四「彼等ハソレノ一部分ハ地中ニ沈ミシ住所ニ於テ住セシ質料ハ火ニ依テ固クサレシ石  
或ハ土カデアリシ而テ彼等ノ多クハ石ヲ以テ總テ越ヘテ彼等ノ屋根ヲ蓋シ事程此國ニ於テ  
左様ニ暴烈ニ風而テ雨ノ荒レガアリシ 彼等ノ家ノ壁ハ光ヲ入レシムベク突ヲ持タ乍併入

リ來ルコトカラ寒冷ナル空氣而テ濕氣ヲ妨グベク彼等ハ溶カセシ砂或ハ火石ニ付テ人爲ニ制  
セシ透明ナル石ノ種類ヲ以テ蓋ハレシ

ビシータイエツト  
彼等食物

第五 「彼等ノ食事ハ猶ホ又著クアリシ 彼等ノ或ルモノハ彼等ガ全ク乾テ而テ固クアリ  
シ迄烟ニ於テ懸ケ上ゲテレタ處ノ魚ヲ食ヒシ而テ其レト共ニ彼等ハ植物ノ根或ハ粉ニセラ  
レシ種ニ付テ制セラレシ粗ナル黒キ菓子ノ種類ヲ食セシ 是等ハ貧ナル階級デアリシヨリ  
富タル人ハ彼等ガ彼等ノ中ニ大ナル動物ノ産物デアリシ處ノ脂多キ物質ヲ以テ越ヘテ塗ル  
コトニ付テ好ンデアリシ處ノ菓子ノヨリ白キ種類ヲ持タ 此脂ヲ猶又彼等ガ殆ンド總テノ食  
品ニ於テ使用セシ而テ新鮮デアアル時ニ其レハ實際粗デアアル

第六 「彼等ハ等ク彼等ガ其レヲ得能フ時ニ多クノ鳥而テ獸類ノ肉ヲ食セシ而テ國ニ於テ  
生スル處ノ葉而テ植物ノ各種ノ他ノ部分ヲ食ヒシ或ルモノハ全ク生デ他ノモノハ種々ニ火  
ノ助ケニ依テ用意セラレテ食ヒシ 食物ノ他ノ大ナル品物ハ固キ塊ニ迄制セシ而テ鹽ヲ交  
ゼシ牛乳ノ凝乳デアリシ

ビヤードリク  
彼等ノ飲料

第七 「飲料ニ向テ彼等ハ水其レニ於テ或ル乾キタル葉ガ浸サレタ處ノ水ノ大ナル使用ヲ

爲ス 私ガ告ゲラレシ葉ハ大ナル隔リタル地方カラ來リシ 彼等ハ等クヨリ苦キ草ノ附ケ  
加ヘテ以テ而テ然ル片ニ沸騰或ハ釀造ニ迄置カレシ水ニ於テ浸サレシ草ノ如キ植物ノ種子  
ノ飲料ヲ用意スルノ方法ヲ持タ 私ハ其レヲ味フベク進メラレシ而テ最初ニ於テ充分嘔  
氣ヲ催スト其レヲ考ヘシ乍然時ニ於テ私ハ誠ニヨク其レヲ好ミシ 成分ノ大ナル量ガ用井  
ラル、時ニハ其レガ全ク酔フテナル

第八 「乍然何ンデモ最モ多ク私ヲ驚カセシ處ノモノハ其レガ火ノ飲料ノ如ク見ヘシ處ノ  
左様ニ非常ニ烈キ而テ鋭キ飲料ノ彼等ノ仕用デアリシ 私ハ一度水ニ向テ其レヲ取ル處デ  
誤リニ依テ其レノ口一杯ヲ得シ其レハ其レガ容貌ニ於テ似ル乍然私ハ其レガ直チニ私ノ呼  
吸ヲ取去タデアロト考ヘシ 實ニ人民ハ屢々其レニ依テ殺サル、而テ猶ホ彼等ノ多クガ  
何時デモ彼等ガ其レヲ得與フ時ニ貪リテ其レヲ吞ミ込ム 是レハ猶又上ニ記載セシ種子カ  
ラ準備サルベク云ハル、種子ハ斯様ナル毒害ナル汁ヲ生ズルベク爲サルトハ雖モ彼等ノ自  
然ノ状態ニ於テ無罪デ而テ讚ムベクサヘモアル

ゼー・ストレン・ボーン・ブランツ  
彼等ノ奇異ナル鳥而テ植物

第九 「私ハ此寒冷ナル氣候ノ地ヲ見捨ルベク充分喜ンデアリシ 而テ其後殆ンド半年ニ  
私ハ空氣ノ甘キ温度ヲ喜ブ處ノ人民而テ美麗ト而テ綠色ニ付テ充滿シタル國ニ於テ來リシ

木而テ灌木ハ果物ノ大ナル各種ヲ以テ充サレシ其レハ他植物ノ產物ト共ニ住民ノ食物ノ  
大ナル部分ヲ組立テシ 私ハ特別ニ或ハ白ク或ハ赤キ甚ダ愉快ナル酸味ノ房ニ於テ生スル  
處ノ而テ吾々ガ彼等眞ノ内心ニ於テノ種子ヲ見能フ事程左様ニ透明ナル或ル果實ヲ味ヒシ  
第十 「爰ニ全キ野ハ花其レハ彼等ガ私ニ告ゲシ種子ヲ保ツ處ノ殼ニ依テ續ガレシ而テ人  
而テ獸類ニ迄ヨキ滋養ヲ與ヘシ處ノ非常ニ香シキ花ニ付テ充滿シデアリシ 鳥ノ大ナル各  
種ハ小林而テ森林ヲ爽快ニセシ其レノ中ニ私ハ一ツヲ以テ樂ンデアリシ其レハタトヒ實ニ  
單一ナル語ノ總テ探リ反シデ其レガアリシトハ雖モ或ル教授ナシニ鸚鵡ノ如ク殆ンド左様  
ニ明白ニ話セシ

ゼー・ストレン  
彼等ノ行狀

第十一 「人民ハ可ナリ温和ニ而テ關テアリシ而テ生活ノ術ノ多クヲ所有セシ 彼等ノ衣  
服ハ甚ダ様々デアリシ 多クガ彼等ガ水ニ於テ浸スノニ依テ而テ然ル時ニ大ナル木槌ヲ以  
テ打ツノニ依テ用意セシ處ノ目的ニ向テ耕作セシ處ノ植物ノ莖ノ長キ纖維ニ付テ制セラレ  
シ薄キ衣服ニ於テ只着衣セシ

ゼー・ストレン  
彼等ノ衣裳

第十二 「他ノ者ハ藪ニ於テ生スル處ノ植物ノ毛ノ種類カラ織ラレシ衣裳デアリシ 乍然最

モ著キ質料ハ私ガ信ズベク告ゲラレシ如ク私ガ用非ラレシヲ見シ如ク織物ノ左様ニ大ナル量ノ生産ニ迄要用ナル螟蛉ノ無量ノ大ナル數ヲ若シモ吾人ガ考ヘルナラバ最モ驚クベク事情ナル處ノ螟蛉ノ巢カラ製造サル、處ノヨリ富ダる階級ニ依テ重ニ仕用サレシ奇麗ナル光澤アル織物デアリシ

第十三 「此人民ハ彼等ノ衣裳ニ於テ特別ニモ婦人其人ノ衣裳ハ記載サルベク不適當ナル品物ノ大ナル種類ニ付テ成立スル而テ奇妙ニ身体ノ自然ノ形チヲ變スル處ノ彼等ノ衣裳ニ於テ甚ダ想像的デアアル 或ル場合ニ於テ彼等ハ甚ダ清潔デアアルベク見ヘル乍然他ニ於テ特別ニモ彼等ノ毛髮ノ取扱ニ於テ其レハ總テ豕而テ他ノ動物ノ脂ヲ以テ固クサレ各種ノ色而テ成分ノ粉ヲ以テ混交サレシ脂ヲ以テ固クサレテアル處ノ毛髮ノ整ヘニ於テホント人種モ彼等ヲ越ヘテ行キ能ハス

ビヤールドハヒツツ  
彼等ノ古キ習慣

第十四 「最モ多クノ印度ノ國民ノ如ク彼等ハ頭飾ニ於テ羽ヲ用非シ 私ヲ甚ダ多ク驚カセシ一ツノモノ其レハ彼等ノ家内ニ於テ恐ロシキ齒而テ爪ヲ持ツ虎ノ種類ノ動物ヲ養ヒシ一デアアル其レハ其レノ自然ノ勇猛ニモ關セズ彼等ノ女ノ最モ臆病ナル而テ嬌艶ナルモノニ依テ共ニ遊バレ而テ愛セラル、此國民ノ言語ハ外國人ニ迄甚ダ粗野ナル解スベカラ

ザル如ク見ユル乍然彼等ハ大ナル自由ト而テ速カサヲ以テ雙互ノ中ニ談話スル」

ホワットイニシチムホフシカウソトリ  
何ガ國ノ名デアアルカ

第十五 汝ハ此ノ語ヲ以テ或ル遙カ進ムベク私ニ要セヌ 汝ハ既ニ私ヲ見出タ私ハ慥メテアル而テ汝ハ奇異ナル國其レニ付テ旅行者カ彼レノ話ヲ告ゲシ處ノ奇異ナル國ハ吾々自身ノ英國ノ外デアアラヌ處ノモノデアリシ而テ其レハ彼レガ記載セシ處ノ總テノ奇異ナルモノハ何ンデモ汝而テ私ガ吾々ノ生活ノ各々ノ日ニ迄慣レテアル處ノ事デアリシ事ヲ知ル

第十六 汝ハ島人ノ食品ニ於テ仕用セシ脂ハ牛酪ヨリ他物ニアラザルヲ而テ其レハ其レヲ生ズル處ノ大ナル動物ハ牝牛デアアルヲ知ル水ニ於テ浸サレテアル處ノ乾タル葉ハ茶葉デアアル而テ若シモ汝ガ汝ノ才智ヲ用非ルナラハ汝ハ容易ニ記載サレテアル處ノ總テノモノハツマリ新キ容貌ヲ以テ古キ朋友テアル而テ只彼等ガ汝ガ慣レテアラヌ仕方ニ於テ記載サル、故ニ奇異ニ見ユル事ヲ見出ステアロー

第十七章

外國人ニ對スル吾人ノ義務——第三篇

嫉妬ハ無學ノ小兒而テ爭ノ父デアアル

(嫉妬心ハ實ニ無學タルヨリ起ルモノニシテ其結果爭ヲ引起スナリ)

第三十五節

課業

第一 何ンデモ私ガ前章ニ於テノ話カラ學ブベク汝ニ要スル處ノモノ彼等ガ余リ速カニ來ル事カラ外國人而テ外國ヲ判斷セヌベクアル 私ハ彼等ガ汝ガ賛成シ爲サヌ處ノ或ル事物ヲ考ヘ或ハ爲ス故ニ他ノ國ニ於テノ總テノ人民ガ惡ク愚鈍デ或ハ可笑スベクアル事ヲ云フベク丈ケ惡ク其レ丈ヨク馬鹿ラシク其レガアル事ヲ學ビ知ルベク汝ニ要スル 其レハ馬鹿ラシクアル如何トナレバ其レハ若シモ吾人ガ少シヨリ賢クアリシナラバ吾人ハ其等其人ヲ吾人ガ笑フタ處ノ其等ノ人ハ何ンデモ彼等ガ爲ス處ノモノニ向テ甚ダヨキ道理ヲ持タ事ガ起生スル故ナリ

汝ノ事實ニ付テ慥メテアレ

第二 若シモ汝ガラマスゲート或ハモーカンベニ於テ海ノ二三十ヤードノ内ニ彼レノ家ノ基礎ヲ始メ而テ横ヘル人ヲ見ルベクアリシナラバ汝ハ彼レニ於テ笑フデアロー而テ潮ガ起リシ時ニ彼レ而テ彼レノ家ガ速カニ水ノ下ニ幾多ノ尺ニアルデアロー事ヲ彼レニ告ゲルデアロー 而テ實ニ若シモ汝ガ伊太利ニ於テノチーブルニ於テ或ハ埃ストリヤニ於テノトライステニ於テ同シモノヲ爲ス人ヲ見ルベクアリシナラバ汝ハ本國ニ於テ笑フデアロー如ク

頂度左様ニ多ク善意ヲ以テ笑フデアロー

第三 乍然タトヒ汝ハ左様ニ多クノヨキ意思ヲ以テ笑ヒ能フトハ雖モ汝ハ實ニ實ニ左様ニ多クノ道理ノ半分ヲ以テ其レヲ爲サヌデアロー如何トナレバタトヒ其處ニ北海而テ愛蘭海峽ニ於テ潮ガアルトハ雖モ其處ニハ地中海ニ於テ潮ガアラヌ而テマサシク汝ハ地中海ノ海岸ニ於テ住スル處ノ各体ガ全クヨク知ル處ノ事實ヲ知リ爲サヌ故ニ汝ハ馬鹿ラシキ誤謬ニ迄落タデアロー而テ笑ガ汝ノ方ニ於テ代リニ汝ニ對シテアツデアロー

第四 而テ左様ニ汝ハ彼等ガ彼等自身爲ス如ク汝ガ左様ニ多ク他ノ人民ノ事情ニ付テ知ル迄ハ其レハ彼等ニ於テ笑フベク或ハ彼等ヲ以テ誤リヲ見出スベク甚ダ安全デアラヌヲ見ルデアロー

第五 而テ私ガ汝ニ告ゲシ如ク其レハ吾々ガ甚ダ僅カ知ル處ノ外國人民ノ行爲ニ付テ余リ速カニ判斷スベク馬鹿ラシクアルノミナラズ不正デアアル如何トナレバ其レハ如何ニ國民ノ間ニ争ガ起リシカデアアル而テ汝ガ知ル如ク斯様ナル争ハ屢々國ヲ轉覆シ能フ處ノ最モ恐ロシキ不幸ノ戰爭ニ於テ終ル

第六 汝ハ大ナル喧嘩ガ起タ而テ大ナル戰爭ガ闘ハレタ處ノ事柄ガ如何ニ少クアルカヲ見出スベク汝ガ歴史ヲ讀ンダ時ニ驚テアルデアロー

二人ノ武士ノ話

第七 私ハ敢テ云フ汝ハ武士ト而テ楯ノ話ヲ知ル如何ニ古昔ニ於テ異リタル方向カラ雙互ニ出會スベク二人ノ武士ガ乘ル處デ彼レ等通路ヲ越ヘテ懸ル處ノ楯ヲ見シ 一人ガ云シ「何ント美麗ナル黄金ノ楯ヨ」「黄金ヨ」ト他人ガ答ヘシ「汝ハ銀ヲ意味スル」楯ハ黄金デアアル而テ私ガ意味スル處ノモノハ其レガ黄金デアアル」ト最初ノ武士ガ云シ「汝ハ實ニ視察ニ付テ少シ弱クアラチバナラヌ銀カラ黄金ヲ告ゲルベク適シデアラヌ」ト第二ノ武士ガ云ヒシ

第八 而テ左様ニ話ガ走ル（話ハ如斯シト云フ意味少シノ爭論ガ始マリシ而テ只彼等ノ日ノ武士ノ習慣ニ依テ彼等ノ區別ヲ決定スルコトニ依テ終リシ而テタトヒ如何ニ彼等ガ甚ダ明カニアラヌ体ヲ通シテ雙互ニ走ルコトニ依テ多ク證據立能フトハ雖モ其處ニ然ル時ニ彼等ノ互ノ意見ガ正シクアリシ事ヲ證據立ルベク闘争ヲ持ツコトニ依テ終リシ

第九 遂ニ彼等ガ何レモ出血スル處デ横ハリ而テ土地ニ於テ盡キ果セシ時ニ其處ニ僧ガ來リシ 彼レガ彼等ノ傷ヲ血ヲ止メシ時ニ彼等ガ彼等ノ闘争ノ原因ヲ説明セシ而テ公明ノ心ヲ有シタル人トシテ彼等ノ何レガ實際正ニ於テアリシカラ決定スベク彼レニ問ヒシ 如何トナレバ左様ニ多ク彼等ノ何レモガ闘ニ勝利ヲ得シカ又ハ彼レノ目込ガ正シキ一デア

リシ事ヲ云ヒ能ハヌ故ナリ

第十 彼等ガ云シ「神聖ナル父ヨ楯ガ黄金デアアルカ或ハ銀デアアルカ吾々ニ告ゲヨ」「憫レナル欺カレタル人ヨ此レガ汝ノ闘争ノ原因デアアルカ」如何ニ容易ニ汝ハ少シノ忍耐ヲ以テ其レヲ解説セシヨ

汝ノ何レモ正クアラヌ又ハ汝ノ何レモ不正デアラヌ此楯ニ於テ眺メヨ一方ハ黄金デアアル而テ他方ハ銀デアアル 若シモ汝ガ兩方ノ側カラ問題ニ於テ眺ムルベク只試シナラバ汝ハ此歎ズベキ様体ニ於テ横ワリツ、アラヌデアロー

道徳

第十一 此語ノ教訓ハ充分明カデアリシ 二人ノ武士ハ楯ガ金或ハ銀デアリシカヲ見出ス爲メニ闘ハヌ如何トナレバ其レハ何ニ付テ彼等ガ制セラル、カハ彼等ノ何レモノニ迄少シノ事柄デアラヌ乍併彼等ハ彼等自身ノ高慢ヲ満足スルハク闘ヒシ而テ如何トナレバ彼等ノ何レモハ其レハ何ガ實際ノ眞理デアリシカラ道理アル仕方ニ於テ見出ス可クヨリハ意見ノ差異ニ付テ闘争スベク其レガヨク立派デアリシト考ヘシ而テ其レカラ彼等ノ眞理ヲ知リシ時ニ其レハ彼等ノ何レニモ迄何レノ方ニ於テ其レガ横ハルカハ世界ニ於テ極少シノ事柄デアリシ

第三十六節

如何ニ戰爭ガ始マリシカ

第一 其レハ如何ニ屢々世界ノ大國ガ二人ノ武士ノ例ヲ續ケタカハ而テ甚ダ小ナル事物ニ付テ爭フタ而テ單ニ彼等ノ高慢ガ傷ケラレシ故ニ而テ彼等ハ問題ノ兩方ニ於テ眺メルベク試ミヌデアロー故ニ大ナル而テ恐ロシキ戰爭ニ於テ入込タカハ驚クベクアル 吾人ガ如何ニ恐ロシキ物テ戰爭ガアルカ而テ如何ニ大ニ其レハ闘フ處ノ其等ノ人ニ於テノミナラズ併總乍テ其等ノ人其人ニ迄國ニ於テ悲痛貧困而テ苦痛ヲ持チ來タス處ノ總テニ於テ蒙ラヌル處ノ困難ガアルカヲ考ヘル時ニ其レハ戰爭ヲ持チ來スベク扶ケル處ノ或人ハ甚ダ惡キ公民デアアル而テ彼レノ國ノ甚ダ似セノ朋友デアアル事ハ明カニ成ル

第二 而テ猶ホ其處ニハ或ル僅少ノ差別ガ起ル時ニ彼等ノ國人ヲシテ二人ノ武士ノ例ヲ續ケシムベク用意シテアル處ノ人ガ常ニ見出サル、 彼等ハ只楯ノ彼等ノ方ニ於テ眺メル而テ決テ彼等ノ眼ノ如ク左様ニヨキ眼ヲ以テ或ル人ガ他方ニ於テ全ク異々タル或ルモノヲ見ル事ヲ考ヘルベク止マシヌデアロー

第三 而テ彼等ガ一度馬鹿ナル爭論ヲ始メタ時ニ彼等ハ其レヲ静カニ事柄ニ於テ眺メルベク何レノ方ニ向テ不適當ト爲スベク楯ヲ取下シ而テ其レヲ廻轉シ而テ其處ニ當底付テ

闘フ價值ノ或ルモノガアルカヲ正當ノ仕方ニ於テ斷定スベク不適當ト爲スベク彼等ノ對手ニ付テ激シキ而テ不正ナルモノヲ云フ事ニ依テ彼等ガ能フ總テヲ爲ス

彼等ノ國ノ敵

第四 是レ等ノ如キ斯様ナル人ハ吾々ノ國ノ敵デアアル而テ吾々ハ彼等ノ數ノ中ニ見出レヌ可ク最大ノ氣付ヲ總テ取ルデアロー

第五 是レヲ爲スベク最モ安全ナル方法而テ國ニ迄善キ職務ヲ爲スベク最良ノ方法ハ男子或ハ婦人小兒或ハ娘ノ各々ノ一ツニ向テ何ンデモ彼等自身ノ國人而テ彼等自身ノ國ニ付テ彼等ガ云フ處ノモノニ付テヨリハ外國人而テ外國ニ於テ彼等ガ云フ處ノモノニ於テヨリ多クデサヘモ氣付多クアルベクアル

記應スベク或ル善キ規則

第六 常ニ外國人ニ迄鄭重ニ而テ有禮ニアレ第一ノ場所ニ於テ其レハ各人ニ迄而テ特別ニモ外國而テ彼等自身ノ朋友カラ迄カニアル處ノ其レ等ノ人ニ迄鄭重ニ而テ有禮ニアルベク汝ノ義務デアアル故ナリ

第七 第二ノ場所ニ於テ如何トナレバ汝ハ彼等ニ迄行フ如ク左様ニ彼等ハ汝ニ付テ判斷スルデアロー故ニ而テ彼等ガ彼等自身ノ國ニ迄歸ル時ニ彼等ハ其等ノ英人而テ英國ノ婦人其



人ヲ彼等ガ親切ナル或ハ不親切ニ出會フタ處ノ英人英女ヲ見出シタ如ク其レニ從フテ彼等ハ彼等自身ノ國ニ迄歸ル時ニ彼等ガ英國ニ向テ朋友或ハ敵ヲ得ルベク扶ケルデアロー故ナリ

第八 而テ最後ニ外國人ニ迄鄭重デ而テ有禮デアレ如何トナレハ不鄭重而テ無禮デアルノ危險ハ左様ニ大キクアル而テ危險ハ汝自身ニ迄ノミナラズ猶ホ總テ汝ノ同胞國人ニ迄アル故ナリ

第九 常ニ汝自身ノ國ノ尊敬ニ向テ立テヨ乍然他人ガ等ク彼等ノ國ノ尊敬ニ同テ立ツベク余義ナクサル、一而テ其レハ汝自身ノ國ノ名譽ハ何ンデモ不正デ而テ不善デアル處ノモノニ向テ闘等シツ、其レニ於テ住スル處ノ人民ニ依テ決テ進歩サレシハヌ事ヲ記憶セヨ

第九章ニ迄願ミヨ而テ其レノ始メニ於テノ語ヲ讀メ 彼等ニ於テ汝ハ吾々ノ政治家ノ最モヨキ一人ナルエドマンドバークガ戰等ニ付テ而テ目的其レニ向テ唯其レガ正シク始メラレ能フ處ノ目的ニ付テ考ヘシ處ノモノヲ見出スデアロー

第十 是等ハ彼レノ言語デアル「人ノ血ハ決テ人ノ血ヲ贖フベク外ハ注ガレヌデアロー其レハ吾々ノ家族ノ爲メニ吾々ノ朋友ノ爲メニ吾々ノ神ノ爲メニ吾々ノ國ノ爲メニ吾々ノ種類ノ爲メニヨク溢サル」

### 第十八章

教育

「神ノ恐怖ハ智識ノ始マリデアル」 「學識ハ智識デアル」

(註神ヲ恐レ尊敬スルハ智識ヲ得ルノ始ニシテ學識ヲ得ルハ智識ヲ得ルナリ)

### 第二十七節

何ヲ教育ガ意味スルカ

第一 此書籍ノ早キ章ニ於テ汝ハ法律ニ付テ而テ如何ニ彼等ガ制定サル、カニ付テ或ルモノ而テ任方其レニ付テ吾々ノ國ガ始メラル處ノ任方ニ付テノ或ルモノ何故ニ人民ハ地方稅而テ租稅ヲ仕拂フベク持ツカカノ道理ニ付テノ或ルモノヲ學ビツ、アツタ 其レハ各々ノ英國ノ童兒而テ童女ガ彼等自身ノ國ノ政府ノ或ルモノヲ了解スベク教ヘラル、デアロー事ハ正シク而テ要用デアアル乍然恐ラクハ汝ノ或ルモノハ汝ガ是等ノ他ノ事柄ニ付テ大ナリ或ハ小ナリ知ルカ少クトモ汝ハ教育何ヲ其レガ意味スルカ而テ何ガ其レノ用デアアルカニ付テ總テ知ルコトヲ考ヘル

第二 汝ガ人ガ教育ニ付テ語ルコトヲ聞ク時ニ其レハ汝ヲシテ直チニ學校ニ行クコトニ付テ考ヘシムル 初教育ハ學校ニ迄行クコトニ付テヨリハヨリ多ク或ルモノヲ意味スル乍然猶ホ

學校ニ迄行クハ教育ノ一ツノ大ナル部分デアル而テ其レハマサシク吾々ガ今付テ考ヘル  
ベク進ミツ、アル處ノ部分デアル 若シモ私ガ何故汝ガ學校ニ迄來ルカラ汝ニ問フニ依  
テ始ムルベクアリシナラバ私ハ汝ガ學ブ爲メニ來ルコトハ汝ガ全ク正シク答ヘルデアローラ  
望ム

第三 而テ然ル時ニ若シモ私ガ其レハ學ブベク來ルコトハ何ンデアアルカラ汝ニ問フベク進ム  
ベクアリシナラバ汝ハ讀書習字而テ算術ト汝ハ最モ好マシク答ヘルデアロー 其レハ猶又  
全ク誠デアル而テ猶ホ其處ニ其外ニ全ク左様ニ要用デアアル實ニ讀書習字ヨリデサヘモヨリ  
多ク要用デアアル處ノモノガアル

サキスゲルカクシレゾレシ  
或ル教場ノ課業

第四 多クノ學校ニ於テ其處ニ學校ニ於テ教ヘラルベク而テ學バルベク持ツ處ノ大ナル課  
業ノ或ルモノヲ告ゲル處ノ掛ケ上ケラレシ板ガアル 而テ此板ガ話ハ處ノ課業ハ地理書或  
ハ算術或ハ書取デアラヌ乍然時ヲ精密ニ守ルコトニ付テ善キ禮義而テ言語ニ付テ清淨而テ潔  
白ノ慣習ニ付テ話スレ板ハ是等ノ課業ヲ生徒ニ教ユルヘク而テ彼等ヲシテ「義務ニ迄愉快  
ナル服従ニ付テ而テ他人ニ向テ尊重而テ敬禮ニ付テ而テ言語而テ所爲ニ於テ名譽アルコト而  
テ眞實多キコト」ノ要用ヲ感ゼシムルベク氣付ガ取ラレテハナラヌコトヲ云フ

第五 此板ニ於テノ是等ノ言語ハ國ヲ通シテ總テ國ノ學校而テ寄宿學ノ後ニ眺ムル處ノ文  
部省ト稱サレシ龍動ニ於テノ大ナル官省ニ於テノ紳士ニ依テ書カレシ 甚ダ好マシク汝ハ  
汝自身ノ學校ニ於テ懸ケアゲラレシ是等ノ言語ヲ正シク持タ甚ダ好マシク汝ハ屢々彼等ヲ  
讀タ乍然汝ハ嘗テ彼等ニ付テ考ヘタカ

ブリスセフトアンデラフクサイン  
教訓而テ實行

第六 若シモ或ル一ツカ彼レガ學校ニ於テアレ間ニ是レ等ノ教訓ヲ全ク支配スルナラバ彼  
レハ若シモ彼レガ生長スベク生活スルナラバ彼レガ善良ナル而テ要用ナル公民ト成ルデア  
ロー乍併若シモ彼レガ是等ノ訓誡ヲ學バナナラバ然ル時ニハタトヒ彼レガ各種ノ學問  
ノ澤山ヲ得ウルトモ其レハ善ヨリハヨリ多ク 嘗テ彼レニ爲スデアロー事ハ全ク慥カデア  
ル 若シモ小兒ガ何時デモ彼レガ機會ヲ持タ時ニ教訓ヲ欺ク處デ彼レノ學校生活ヲ通シテ  
總テ進ムナラバ汝ハ彼レガ「所爲ニ於テ眞實」ヲ學バナナラバ知ル而テ汝ハ彼レノ生長  
ニ付テ名譽スベキ公明ノ行アル人ト甚ダ僅カナ希望ヲ持ツデアロー

第七 而テ再ビ若シモ 小兒ガ彼レ自野ヨリ弱クアル處ノ其レ等ノ人ヲ苦メレ而テ壓制ス  
ベク彼レノカラノ利益ヲ取ルナラバ汝ハ彼レガ他人ニ向テノ「尊鄭而テ敬禮」ヲ學バナナ  
ラ事而テ其レハ彼レガ彼等自身ノ私慾ノ愉快ヨリハヨリ大ナル或ハヨリ高キ何ニモノニ向

テ氣付ケヌ處ノ其等ノ不幸ノ人民ノ一ツト成ルベク好マシクアル事ヲ慥メテアル  
第八 左様ニ今一度若シモ小兒ガ拗振ニ而テ不平ニ彼レノ仕事ヲ爲スナラバ只彼レガ余義  
ナクサル、故ニ其レヲ爲ス處デ或ハ總テ彼レガ其レヲ避ケルベク試ルナラバ然ル時ニ汝ハ  
彼レガ「義務ニ迄喜ンダ服從」ノ訓誡ヲ學バナナダヲ知ル而テ汝ハ斯様ナル小兒ハ決テ  
要用ナル公民或ハ彼レノ國ニ迄善キ職務ヲ爲サヌデアロー事ヲ感ズル如何トナレバ彼レ  
ハ「固キ職務ガ爲サレテバナラヌ時ニ退避スル」故ナリ彼レハ彼レノ通常ノ各日ノ仕事ヲヨ  
ク爲スベクスラモ充分ナル心配ヲ取ルコトヲ嫌惡スル

第九 左様ニ汝ハ汝自身ニ向テ何ンデモ私ガ總テ他ノ課業ヲ越ヘテ是等ノ課業ノ要用ニ付  
テ云フタ處ノモノ眞理ヲ見ルデアロー 幾度モ幾度モ英國ハ決テ讀ミ書キニ迄學問ノ機會  
ヲ持タナダ處ノ人ニ依テ信直ニ而テ名譽ニ務メラレタ乍併決テ彼女ノ全キ歴史ニ於テ彼  
女ハ名譽而テ信眞ニ付テ他人ニ向テ氣付ケニ付テ義務ニ迄服從ノ是等ノ他ノ課業ヲ學バナ  
ンダ處ノ人ニ依テ彼女ハ誠ニ勤メラレナナダ

書キ能ハヌ處ノ國王

第十 汝ハ古昔ノ日ニ於テ教育ハ其レガ今日アルヨリハヨリ多ク少ク廣ガリテアリシ 汝  
ハ書籍ヲ讀ミ能ハヌ或ハ彼等自身ノ名ヲ記シ能ハヌ處ノ老ヒタル人而テ猶又或ル中年ノ人

民ヲ猶ホ見出ステアロー 若シモ吾々ガ百年以前ヲ顧ミ能フナラハ吾々ガ猶ホヨリ大ナル  
彼等ノ數ヲ見出ステアロー而テ若シモ吾々ガ八百年ニ遡リ行クナラバ吾々ハ彼レ自身ノ名  
ヲ記名スベク不適當ナル同シ位置ニ於テノ英國ノ國王ヲ見出ステアロー

第十一 ケンターバーリニ於テノカセドラル圖書館ニ於テ私ハ其レニ於テ書カレシウイリ  
ヤムジーカンカロノ名ヲ以テノ古キ黄色ノ羊皮紙ノ切レヲ見出タ 名ノ後ニ斯様ニ彼等  
ガ彼等自身ノ名ヲ書クベク不適當デアアル時ニ或ル無教育ノ人民ガ當時爲ス如ク斯様ナル記  
號ガ來ル 左様ニ此古キ羊皮紙ニ於テ或ル學シタル人ハ彼レノ爲メニ國王ノ名ヲ書テ而テ  
國王ハ其レハ總テ正クアリシ事ヲ示スベク其レニ對シテ彼レノ記號ヲ置タ 其レハウイリ  
ヤムジーカンカロノ其人ニ付テ汝ガ汝ノ歴史ニ於テ讀マ處ノウイリヤムハ如何ニ彼レ自身  
ノ名ヲ記スベクカヲ知リ爲サヌ事ヲ考フルベク不思議デアラヌカ

第三十八節

學校而テ學務課

第一 時トシテハ老タル人民ハ何故ニ彼等ガ決テ讀ミ而テ書クベク學バナナダカノ道理ハ  
其處ニハ彼等ガ任セシ處ニ近ク學校ガアラザリシデアリシ事ヲ汝ニ告グルデアロー 近  
頃迄其處ニハ英國ニ於テ殆ンド充分學校ガアラザリシ而テ今日デサヘモ其處ニハ要サレテ

アル丈ケ其レ丈ク多クガアテ又乍併新キ一ツガ各々ノ年建築サレツ、ナル面テ其處ニハ其處ニアルベク用非シヨリハ當時ヨリ多ク大ナル多クガアル

第三 政府ハ各々ノ都府而テ村ニ於テ其處ニ行クベク場所ニ於テ總テノ小兒等ニ向テ充分ナル學校ガアラテバナラヌ事ヲ云フタ而テ若シモ既ニ建築サレタル處ノ學校ガ充分大キクアラザリシナラバ人民ノ或ル數ガ何ンデ「學務課」ト稱サル、處ノモノ組成スベク撰舉サル、其レハ適當ナル學校ガ用意サル、事而テ古キ學校ニ迄行キツ、アラヌ處ノ小兒等ハ新ラシキ一ツニ迄行クヲ見ルベク教育會ノ義務デアアル

第二 是等ノ學校ノ建築ノ費用ハ公ケノ金カラ仕拂ハル、如何トナレバ彼等ハ公ケノ善ニ向テ意味サル、故ナリ其レハ彼等ガ無學ニ於テ生長スルデアロー事ヨリハ小兒等ガ教ヘラ

第四 而テ今吾人ハ場所其處ニハ寺院學校或ハ寄宿學校或ハ半時學校ノ學校ノ澤山アルト案スルデアロー

學生

第五 學校ガ其處ニアル乍併汝ハ若シモ彼等ガ空虚ニ立ツベクアルナラバ彼等ハ左様ニヨ

ク決テ建築サレ能フ事ヲ以テ私ヲ以テ一致スルデアロー 明カニ吾々ハ彼等ヲ充タスベク學生ヲ持タテバナラヌ

第六 總テノ最モヨキモノハ小兒等ガ彼等自身ニ付テ來ル時ニ規則正シク而テ合時ニ來ルヲデアル乍併若シモ小兒等ガ來ルヲニ付テ彼等自身ヲ氣付ケヌ而テ兩親ガ彼等ヲ送ルヲニ付テ心配ヲ取リナサヌナラバ然ル時ニハ學務課官吏或ハ屬官ガ家ニ迄行クベク持ツ而テ何故ニ小兒ガ學校ニ迄來リ爲サヌカラ見出スベク持ツ 其處ニハ或ル充分ナル道理ガアリ能フ而テ然ル時ニ小兒ハ免サル、乍併若シモ其處ニヨキ道理ガアラザリシナラバ兩親ガ最初ニ諫言サル、而テ然ル時ニ若シモ彼レガ諫言ニ迄或ル注意ヲ仕拂ヒ爲サヌナラバ罰金サル

第七 學校ニ行クベク小兒ヲ此余義ナクスル「ハ張壓」或ル「強逼教育」ト稱セラル、

第八 時トシテハ其レハ彼等ノ兩親ガ家ニ於テ彼等ノ補助ニ付テ甚ダ喜ンデアロー時ニ小兒等ガ學校ニ出席スベク余義ナクサル、デアロー事ハ六ツカシク見ユル乍併然ル時ニ吾々ハ其レハ終リニ於テ實際ヨリヨク——其レハ小兒等ハ彼等ガ無學ニ於テ生長スルヲノ大ナル不利益ヲ持ツデアロー事ヨリハ彼等ガ幼年デアアル間ニ規則正シク教ヘラル、デアロー事ハ兩親ニ向テヨリヨク小兒等ニ向テヨリ善ク而テ全キ國ニ向テヨク善クアル事ヲ